

Paul Gallico とサーカス・エンターテインメント

—*Love, Let Me Not Hunger* を中心として—

尾上典子

まえがき

- I Sam Marvel Circus の冬季宿舎本部についての考察
 - II スペイン巡業中の Marvel Circus が遭遇した災厄についての考察
 - III サーカスの動物たちを襲った餓死の惨劇についての考察
 - IV Rose と Albert 老人の献身により復活したサーカスと生存者たちの人生についての考察
- 結び

まえがき

Love, Let Me Not Hunger (『愛のサーカス』) は、サーカス芸術に対して生涯、情熱的な愛情を抱き続けた現代アメリカ作家 ^{ポール・ギャリコ} Paul Gallico (1897 年—1976 年) が 1963 年に発表した長編小説であり、サーカスの人々が自分たちの動物たちに捧げた燃えるような愛情を主題としたこの作品は、Gallico の最高傑作と呼ぶにふさわしいものである。21 世紀初頭現在、サーカス小説としてアメリカのみならず全世界で称賛されている作品は ^{サラ・グルーエン} Sara Gruen の *Water for Elephants* (『サーカス象に水を』, 2006 年出版, 同作品は 2011 年に映画化, Francis Lawrence 監督, Reese Witherspoon, Robert Pattinson 主演, 20th Century Fox 配給) である。Sara Gruen が Paul Gallico と同様に動物たちに深い愛情を注ぎ、沢山の動物たちとの同居生活を営み、上記のベストセラー小説以外にも動物小説を発表していることは注目に値するし、Gruen が *Water for Elephants* 執筆にあたりアメリカ・サーカス史を綿密に調査したことは称賛されるべきであるが、カナダに生まれ 1999 年にアメリカに移住した彼女がサーカス研究に没頭したのは(彼女自身が述べている通り) 僅か約 4 か月半である¹⁾。これに対して、Paul Gallico は 1939 年に発表された傑作小説 *The*

Adventures of Hiram Holliday (『ハイラム・ホリデーの冒険』)の中で Paris のサーカス劇場の女曲馬師を活写して以来、動物小説、冒険小説、恋愛小説、ファンタジー小説、伝記小説、推理小説、スポーツ小説など多種多様な分野の小説を創作した 35 年以上の文筆活動において、殆ど全ての作品の中で欧米諸国のサーカスについて言及しており、彼が生涯にわたってサーカス芸術を熱愛した事実は、国際的ライヴ・エンターテインメントについて論じる上で極めて重要である。そして、彼が Monaco の Rainier 大公 (Rainier 三世) と極めて親しい間柄で、Monte-Carlo で晩年を過ごしたという伝記的事実から、我々は Gallico と Rainier 三世を結び付けていた深い友情が、サーカス芸術に対する両者の熱愛によって生まれたものに違いないと推察できる。2011 年に発表した拙稿「Paul Gallico とサーカス・エンターテインメント—*The Day Jean-Pierre Joined the Circus* を中心として—」において指摘した通り、観光立国政策が効を奏したモナコ公国において、Rainier 三世は 1974 年にモンテカルロ国際サーカス・フェスティヴァル (Festival International du Cirque de Monte-Carlo) を創始し、サーカス界のアカデミー賞に相当する各賞が国際的アーティストたちに授与されるこのイベントは毎年 1 月中旬に Monte-Carlo で開催され、世界最高の権威と伝統を誇るサーカス競技会としての名声を博し続けている²⁾。創始者 Rainier 三世の逝去後、モンテカルロ国際サーカス・フェスティヴァルは、2006 年以来、彼の娘である Princesse Stéphanie によって主宰されている。更に Princesse Stéphanie は、彼女の父の理念を具現化し、全世界のサーカス芸術とサーカス文化を保持・増進するために世界的規模のサーカス共同体を結成することを目的として 2008 年にモナコ公国に設立された世界サーカス連盟 (Federation Mondiale du Cirque) がサーカスに登場する動物たちおよびサーカス芸術の在り方について、いかなる展望を持っているかについて次のように語っている。

「サーカスにおける動物は、伝統サーカスあるいはいかなるサーカスにおいても支柱を成す要素のひとつである。象、馬、ライオンや虎などの大型の

ネコ科動物あるいはアシカの演技が存在しないサーカスを想像することは、私には不可能である。それはミュージックホールの演し物やショーとは言えるだろうが、サーカスとは全く異なる類いのものであろう。動物の登場しないサーカスなど、私には想像もできない。それは、道化師、アクロバット、音楽、照明の存在しないサーカスの将来像を想像するのと同じくらい不可能なことである。動物たちは立派な資格を備えたアーティストである。そして私は、動物たちが、ショーの重要な要素を成すアーティストとしてみなされるべきであると考え。」³⁾

上記の引用文から明らかな通り、現代サーカス芸術の推進者である Princesse Stéphanie は、サーカスに出演する動物たちをサーカス・アーティストとして認め、動物たちに愛情と敬意を払うように力説している。これは、サーカスを熱愛した作家 Paul Gallico の信条と全く共通したものである。彼が、Cirque シルク・ブリオネ Bouglione (現在のフランスの シルク・ディヴェール・ブリオネ Cirque d'Hiver-Bouglione) のスターとなった賢いモルモット Jean-Pierre を主人公として書いた心温まるロマンス *The Day Jean-Pierre Joined the Circus* (1969年) は、時代と世代を超越して世界中の読者を魅了する小説であり、すでに70歳を越えた Gallico は、読む人々の心に安らぎと喜びを与えることを目的として、物語に登場する全ての人々を善意に満ちた愛すべき存在として描写したサーカス小説を発表した。これに対し、*Love, Let Me Not Hunger* は、Gallico が極めて精緻な筆致でサーカスを描いた作品であるとともに、実は Gallico の畢生の大作であったが、極限状態に追い詰められた人間の情念が克明に描き出され、悲劇的色彩が読者に与える印象が余りにも熾烈であるため、Gallico の激情が迸り出たこの古典的名作を冷徹に考察し、正当に評価する研究者が、これまでに存在しなかったのではないかと私には思われる。しかし、サーカスの人々の動物たちに対する献身的な愛情を主題とした傑出したサーカス文学作品であると同時に、1960年代のイギリスにおけるサーカス経営の実態を分析した *Love, Let Me Not Hunger* について綿密な考察を行なうことは、文化産業としてのサーカスさらに敢えて言えば

21世紀を担う国際的エンターテインメント・ビジネスの中核となる潜在性を持ったサーカス・エンターテインメントを進化・発展させるための一助となることを信じて、本稿を執筆するに至った。

【注】

- 1) Sarah Gruen, *Water for Elephants* (Detroit: Gale, Cengage Learning, 2006), P.556.
- 2) http://www.circopedia.org/index.php/International_Circus_Festival_of_Monte-Carlo.
- 3) <http://www.montecarlofestival.mc/s-a-s-la-princesse-stephanie/>

I Sam Marvel Circus の冬季宿舎本部についての考察

Love, Let Me Not Hunger に登場するサーカスの所有者 Sam Marvel は旅回りの縁日の安っぽい見せ物から始めて、長く困難な歳月の後に成功を遂げ、約15年前からサーカスの興行主となった男で、彼の所有する Marvel Circus は、規模は小さいながらも非常に優れた演目を見せるサーカスとしての名声をイギリス中に馳せていた¹⁾。しかし彼は、自分のサーカスの集客力が1958年以来次第に衰えてきた要因が、イギリスの町の全ての家にテレビが普及してきたことであると察知し、チップパーフィールド・サーカス Chipperfield's Circus や ビリー・スマーツ・サーカス Billy Smart's Circus のような大規模なサーカスも全く同様の苦境に陥っていると推察して、打開策を打ち出そうと考えた²⁾。

ここで触れられている Chipperfield's Circus はイギリスで最も古い歴史を持つ名門のサーカスで、チップパーフィールド Chipperfield 一族は、凍りついた テムズ Thames 河の上で Frost Fair が開催された1684年に熊の芸を披露して以来、イギリスで動物芸の公演を中心としたショービジネスを行ない、移動動物園 (menagerie) を発展させ、一族の人々はアクロバット、道化師としても活躍した³⁾。特に Richard Chipperfield, Sr. (1875年-1959年) が1930年代にサーカスの規模を大拡張し、1937年に彼の後継者となった長男 Dick と次男 Jimmy が中心となり、第二次世界大戦終結直後に Chipperfield's Circus をヨーロッパ最大の

巡回サーカスの一つに発展させた。1950年代半ばまでに、このサーカスはライバルの バートラム・ミルズ・サーカス Bertram Mill's Circus や Billy Smart's Circus を凌駕し、約9,000名収容の世界最大のテントで興行し、200頭以上の動物を所有していた⁴⁾。Richard Chipperfield, Sr. の娘 マージョリー Marjorie は、兄 Jimmy の第二次大戦中の空軍の戦友 ストックレー James Stockley と結婚し、Stockley は Chipperfield's Circus のディレクターを勤めた。その後、Jimmy Chipperfield は1955年に、娘 Mary、息子 Richard とともに映画・テレビ番組に出演する動物を飼育・訓練し供給するビジネスを開始した⁵⁾。特に Jimmy Chipperfield は、Walt Disney 制作の映画 *In Search of the Castaways* (『難破船』1962年)、*The Horsemasters* (『ザ・ホースマスターズ』、1961年)、*The Three Lives of Thomasina* (『トマシーナの三つの命』、これは後述する Paul Gallico 原作の名作小説 『トマシーナ』 *Thomasina* を1964年に映画化したものである。)などに登場する馬、ラバ、豹、鱈、コンドル、猫などの多種多様な動物たちを供給することを通じて、Walt Disney と親交を結んだ⁶⁾。彼の娘 Mary Chipperfield も非常に優れた調教師で、Disney 映画 *The Moon-Spinners* (『クレタの風車』1964年)だけでなく、BBC が制作した様々な番組や1967年のミュージカル映画 *Dr. Dolittle* 『ドリトル先生不思議な旅』、監督 Richard Fleischer、主演 Rex Harrison) に登場する夥しい数の動物たちを訓練し、供給していた⁷⁾。この事業と並行して Jimmy Chipperfield は、その当時アフリカにしか存在していなかったドライブスルー方式のサファリパークをイギリスに開設することを思い立ち、1966年に Wiltshire の Longleat でサファリパークの経営を始め、更に各地の動物園の発展にも貢献した⁸⁾。Mary Chipperfield は彼女の夫 Richard Cawley とともにサファリパーク事業にも携わったが、サーカス・エンターテイナーとして活躍し、現在も動物の訓練の仕事を行なっている。なお1965年から1967年まで Chipperfield's Circus は南アフリカでの長期公演を行なった後、1968年に帰国した⁹⁾。そして1970年代に、イギリスのテレビ放送局 ITV が Chipperfield's Circus のクリスマスショーを放映し¹⁰⁾、後述する BBC の Billy Smart's Circus のクリスマス特別番組と競い合う形となっていた。一方、James Stockley と妻

Marjorie はサーカスが帰国した後も南アフリカに留まり、Natal Lion Park and Game Reserve を経営し、現在は彼らの息子 Jim Stockley がその後を継ぎ、南アフリカの映画産業に必要な動物を訓練して供給するビジネスも行なっている¹¹⁾。そして、Richard Chipperfield, Sr. の最も若い娘であった Sally Chipperfield は、父のサーカスの調教師で有能なディレクターとなった Jim Clubb (James Clubb) と結婚し、Clubb は、映画・テレビ・様々なライブ・イベントに必要なとされる訓練を受けた家畜と野生動物を所有し、全世界に供給するヨーロッパ最大の企業 Amazing Animals-Heythrop Zoological Gardens Ltd を Oxfordshire の Chipping Norton で 1977 年以來経営している。この会社は最近では Harry Potter ^{ハリー・ポッター} シリーズの映画制作のために虎、ハイエナ、ミーアキャット、アカゲザル、ラクダ、ワオキツネザル、マンドリル、オオコウモリ、エリマキキツネザルなどの動物を供給している¹²⁾。Chipperfield's Circus の歴史を見ても明らかな通り、1950 年代半ばからテレビがサーカスという巨大ライブ・エンターテインメントの集客を圧迫するようになったのは事実であるが、エンターテインメント産業に対する先見の明のあった Chipperfield 一族の人々は、サーカスの公演と並行して、映画・テレビ番組に出演する動物を飼育・訓練し供給するビジネスを開始して大成功を収め、更にサファリパークの経営を行ない、野生動物の保護に尽力するとともに動物園の発展にも尽力してきたことが解る。

次に Billy Smart's Circus であるが、創業者 Billy Smart (1894 年 - 1966 年) はイギリスの West Ealing で小さな家具運搬会社を営む父の息子として誕生したが、父は 23 人もの子供を養わねばならず、事業は成功してはいなかった。冒険に憧れていた Billy 少年は、Slouth に移動遊園地がやって来たときに、そこで、彼の父が持っていたクランクを手動で回転させるメリーゴーラウンドを操作し、これがショーマンとしての彼のデビューとなった。彼は 1925 年に結婚した後、自分自身で移動遊園地事業を開始し、長年苦勞を重ねた後、1930 年代の末までにイギリスで最も重要な移動遊園地の所有者となり、そこには約 10 の色鮮やかな乗り物と他の幾つかのアトラクションがあり、従業員

たちはきらびやかなユニフォームを着て接客を行っていた。彼の遊園地事業は俗悪なカーニヴァルとは全く異なり、質の良い家族的娯楽を提供するものであった。そして、West London の Olympia でクリスマスの時期に Bertram Mills Circus と提携して華々しい公演が行なわれた。子供の頃から馬が好きであった Billy Smart は彼自身のサーカスを所有したいという夢を長年抱き続けており、第二次世界大戦直後のイギリスのエンターテインメント産業の劇的な好景気の中で Billy Smart's New World Circus を 1946 年に開始した。1952 年までには移動遊園地はサーカスと比較すれば見劣りのするものとなり、移動動物園の敷地が残されるだけとなり、1955 年に彼のサーカスの円形のテントの中の客席は 6,000 席あり、リングの周囲に曲馬の演技を披露できる走路が造られたために、演劇的な要素のあるパレードやアメリカの西部開拓時代を再現した Wild West Show の公演が可能であった。それからごく数年間のうちに Billy Smart's New World Circus はヨーロッパ最大のサーカスの一つとなり、このサーカスの移動動物園では 40 頭の馬、15 頭の象と様々な外国産の野生動物が飼育されていた。(サーカスの公演が行なわれない) 冬季の間、Billy Smart は劇場や様々なホールでのショーのプロデュースを行ない、彼のサーカスの有芸動物たちを他のショーに賃貸していた。1958 年に、彼が Slough のメリーゴーラウンドの操作者としてショービジネス界でささやかな出発を行なったことを記念して、この地でサーカスの公演が行なわれ、BBC のテレビ特別番組でショーマンとしての彼の 50 年間の功績が称賛された。なお、BBC は 1947 年以來このサーカスのテレビ特別番組の放映を開始し、長年に亘り Billy Smart's Christmas Spectacular は BBC のクリスマスシーズンの大人気番組であった¹³⁾。1966 年に彼が死去した後、馬と象を用いた演技に秀でた息子 Billy Smart, Jr. (1934 年-2005 年) は彼の兄 Ronnie, David とともに巡回サーカスの経営を行なったが、1970 年までには新しい経済状況の下でイギリスにおいて巨大な規模のサーカスを存続させることが不可能となり、1971 年に大テントがたたまれるに至った¹⁴⁾。しかし、このサーカスは 1983 年までテレビに出演し続けて人気を博し、Billy Smart's Circus のテレビ番組は最盛期

に2200万人以上の視聴者を獲得した。David Smartは1980年にLondonのBattersea Parkで常設のDavid Smart's Super Circusを開始したが、短命なものに終わった。Smart兄弟は動物園の発展やサファリパークの経営も試みたが成功できずに売却され、遂にサーカスの資産全てが1986年に売却されるに至った。1993年にRonnie Smartの息子たちが規模を縮小したBilly Smart's Circusを復活させたが長続きはせず、現在では、名称だけが一族以外の興行主に賃貸されている状態である¹⁵⁾。なお、Billy Smartの孫娘Yasmine Smartは極めて優れた曲馬師であり、1985年にモンテカルロ国際サーカス・フェスティヴァルでClown d'Argent(銀賞)を獲得しており、調教師としても活躍している¹⁶⁾。Billy Smart's Circusの歴史を概観すると、創業者Billy Smartがいかに偉大なショーマンでありエンターテインメント企業家であったかが明らかとなり、彼の強烈な個性や家族愛を重んじる気質は、Walt Disneyと似通っているように感じられる。また、Billy Smartの10人の子供たちがサーカスに尽力したことが一族のサーカスの経営の繁栄に繋がる要素となっていた点において、ChipperfieldとBilly Smartの一族は共通しており、テレビ番組を通してサーカスというライブ・エンターテインメントそのものの素晴らしさを視聴者に強く訴えた点も同じであった。しかし、サーカス(特に動物サーカス)をより多角的な観点から捉え、野生動物の保護と育成、様々な動物の訓練、優れた調教師の養成、サーカスのみならず映画・テレビを含む多種多様なエンターテインメントへの動物の供給をはかる一大文化産業にまで発展させた点において、Chipperfield一族の経営面でのヴィジョンは、Billy Smart一族よりも優れていたと見なすことができる。更にChipperfield一族と結婚した人々が、直接の血族ではないにせよ、より大きな家族の絆によって団結しながら、自分たちの家業に対して誇りと情熱を持ち続けてきた¹⁷⁾ ことにも非常に深い意義が認められる。

ここで再び*Love, Let Me Not Hunger*で描かれているSam Marvelのサーカスの興行方法についての精察に戻る。洋の東西を訪わず、現代のサーカスでは「先乗り」と呼ばれる先発隊員(advance man)が次期開催地を決定するため

の徹底的な市場調査を行なうことが常識とされているが、Sam Marvel は、この年（1962 年）の冬にスペインへ実地調査に行き、大都市を除けばテレビのアンテナが全く見られず、地形を探查した結果、興行予定の町から町へ一夜で移動でき、現地の労働賃金が非常に安く、一般の人々の経済状態は貧しいけれども陽気で祭り好きな国民性であり、小さな旅回りのサーカス団でも成功を収めている以上、イギリスから訪れた魅力的なサーカスであれば難なく集客できると予想した。サーカスの輸送に関しては、団員と装具一式を家畜運搬船に乗せて Liverpool から（スペイン北部の Biscay 湾に臨む港町）^{リヴァプール} Santander まで最低の船賃で運搬することができ、上陸した後は、道に沿ってゆっくり南下しながら興行できると彼は推察した¹⁸⁾。最終的に彼が「いまましいテレビ (Telly) など存在しない」¹⁹⁾ スペインでの興行を成功させられる可能性がある^{と決断した理由の一つは、すでに述べたようにスペインでの労働賃金が非常に安価であり、イギリスと比較すれば事実上ただ同然であるので、絶対に必要な裏方以外は現地で労働者を雇用できるということであった。しかし彼が、その年のスペイン興行で最も重視したのは、必要経費を最小限に切り詰めるために一人で何役もこなせるような芸達者なアーティストを選び、彼らにテント設営・撤去作業その他の労役を手伝わせることも条件として異国での巡業に参加させることであった。我々は、この小説の作者 Paul Gallico が、いかにサーカスというエンターテインメントに精通し、サーカス・アーティストの心理を深く分析していたかを、次の引用文から知ることができる。}

仕事が増えれば、場合によっては 4 倍に増えることに対して反抗せず同意するような労働階級あるいは職業人は、サーカス界以外には存在しないであろう。そして Sam Marvel は、彼のサーカスの団員と彼らの力強く美しい体に対して彼らが抱いている虚栄心を知っていた。仕事が増えたとしても、それによって、自分自身と自分の巧みな技を披露する新たな好機が提供されることになるとすれば、決して彼らが抵抗するはずはないであろうと彼は悟っていた²⁰⁾。

こうして Sam Marvel は、サーカスの演技主任兼司会役のリングマスターさえ雇用せず、演技者の数を半分に減らすことを決断して、1962年2月半ばに、^{チップナム} Chippenham（イングランド南西部 Wiltshire 西部の町）にある彼のサーカスの冬季宿舍本部に、特に優れた演技者たちだけを集合させた。

彼が最終的に選んだのは、イギリス人の ^{ウォルターズ} Walters 一家7名から成る曲馬団、（乗り手なしで演技を披露する）リヴァティ馬の芸と Big Cats（大型のネコ科動物）による演技を得意とするカウボーイ出身のアメリカ人 ^{フレッド・ディーター} Fred Deeter, ^{リズリー・フット・ジャグリング} Risley Foot Juggling ^{リチャード・リズリー・カーライル} (Richard Risley Carlisle (1814年-74年) が得意とした足芸) や綱渡りなどで名高い中国人と日本人から成る ^{ヨシワラフトン} Yoshiwara-Fu Tong 一座、トランポリン、鉄棒、空中ブランコの演技を行なう ^{バーザロ} Birdsalo チーム3名、床アクロバット・人間ピラミッド造りを得技とする ^{アルバーノ} Albano チーム6名、そして芸達者な4人の道化役者（その中には犬を連れたハンガリー人の小人 ^{ヤーノシュ} Janos と、いつも烏を肩に止まらせた ^{ジャクドロー・ウィリアムズ} Jackdaw Williams がいた）だけであった。この人数だけを見ると非常に少ないように見えるかも知れないが、実は、敏腕な興行師 Marvel が、経営の合理化を優先させながらも、サーカスというライブ・エンターテインメントに必須とされる演目の殆どを手際良く結集させたことは注目すべきであろうし、サーカスが多国籍のアーティストから構成される国際色豊かな大衆芸術であることにも驚嘆させられるであろう。更に、Gallico のサーカス小説の中で、日本人サーカス・アーティストたちが国際的に高く評価されていることに対して、我々は親近感を覚えるに相違ない。さきにふれた Richard Risley Carlisle は、元治元年（1864年）、横浜外国人居留地で西洋式の曲馬と曲芸を披露したアメリカ人興行師であるが、もともとはアクロバットの達人で、1843年に London の Strand 劇場に出演し、息子たちの体を踵の上で回転させる Foot Juggling—日本では「人曲」と呼ばれてきた足芸の伝統的演目—が絶賛を博した。後年、興行師としての手腕を発揮するようになった彼は再び来日し、慶応二年（1866年）に18名から成る帝国日本芸人一座を結成させて幕府から出国の許可を得、1867年から1869年までの間に、San Francisco, New York, 万国博覧会で賑わっていた Paris, London を経て、

オランダ、ベルギー、スペイン、ポルトガルでも公演した後、最終公演を New York で行ない、大成功させた²¹⁾。彼の業績が我が国のエンターテインメント産業史上、極めて重要なものであることは言うまでもない。従って、Sam Marvel が Chippenham の冬季宿舎本部に集合した人々を前にして、まだ大都市にしかテレビが存在していないスペインで、この夏の興行を実施すると決定したと宣言して一同を驚かせたとしても、彼の決断は、これより約 100 年前に日本のサーカス一座が現実にスペインを含む欧米諸国での公演で大成功を収めたという歴史的事実と照合すれば、決して無謀なものであるとは考えられない。そして前述の通り、1965 年から 1967 年まで Chipperfield's Circus はイギリスを離れ、南アフリカでの長期公演を行なっており、その大きな理由として、テレビがまだ普及しておらず、娯楽が少ない南アフリカで興行が成功するだろうと Chipperfield 一族が判断したからであると述べられている²²⁾ので、Sam Marvel のビジネス感覚そのものは鋭敏なものであったと推察される。

次に Sam Marvel は、スペイン興行のために選りすぐった演技者のみならず、テント設営作業を迅速に行なうヴェテランのテントボス Joe Cotter ^{ジョー・コッター} に率いられた熟練したテントマンと機械工を集め、特に Mr. Albert ^{アルバート} と呼ばれる動物の世話係の老人（彼は全ての動物から深く愛されるという類い稀な資質の持ち主であった）の存在も決して忘れてはいなかった。Sam Marvel の賢察通り、自分たちの仕事が増えることに抗議したサーカス・アーティストは一人もおらず、彼らは場合によっては名前も何度か変えて何種目もの演技を行なったり、新しい演目を開発することに同意した。特に、7 人の曲馬一家の末息子で、兄や姉たちがいつも美しい衣装を着てリングで華やかな演技を披露するのは正反対に、一家で最高の騎手であるにも拘らず、常に滑稽な酔っ払いに変装して騎馬道化師役を演じていることに不満を覚えていた 21 歳の Toby Walters ^{トビー・ウォルターズ} は、貴族の衣装に身を包んだ魅力的なインドの王子 Rajah Poona ^{ラージャ・プーナ} に扮し、自分が子供の頃から親友とみなしてきた 45 歳の雌のインド象 Judy の芸を披露するよう Marvel から命じられたときに嬉しさで気もそぞろになってしまった²³⁾と述べられてる。Toby Walters はこの作品の重要人物であるが、作者 Gallico

がこの若者になぜ Toby という名を与えたかを考えれば、我々は、すぐにジェームズ・オーティス・ケイラー James Otis Kaler の古典的サーカス小説 *Toby Tyler : or, Ten Weeks with a Circus* (『トビーのサーカス旅行』, 1880 年) の主人公で家出をして 10 週間サーカスに入り、屋台の菓子売りにこき使われて虐待された後に天才曲馬師として絶賛された少年 Toby Tyler²⁴⁾ を思い出すに相違ない。そして、*Love, Let Me Not Hunger* の主題となるのがサーカスを突然襲った 10 週間の悲劇であることも偶然の一致ではなく、Gallico は創作にあたり、アメリカの大人や子供から *The Adventures of Huckleberry Finn* と同様に愛されている *Toby Tyler : or, Ten Weeks with a Circus* を念頭に置いていたものと推察される。なお、この冒険小説は、動物とサーカスを愛した Walt Disney によって 1960 年に映画化 (監督 Charles Barton, 主演 Kevin Corcoran) されており²⁵⁾、猫を主人公とした Gallico の傑作小説 *Thomashina* が、前述の通り 1964 年に Disney によって映画化されている点とも共通している。Toby Walters は、自分では特に意識していなかったが親友のインド象 Judy を心から愛しており、25 年間サーカスを渡り歩いてきた賢い Judy は力持ちで巨大な体であるにもかかわらず、Toby を信じ切ってトレーナーとしての彼を受け入れ、彼を頼り、彼から愛されることを望んでいた²⁶⁾、と述べられている。しかし、Judy は幼い頃に人間の女から虐待された経験があるため、リングの外で自分に近づく女をひどく嫌っており、かなり前にインドの Bombay^{ボンベイ} で女性客を殺したことがあると Marvel から伝えられた Toby は、10 年以上付き合ってきた温和な Judy からは想像もできなかったが、大いに警戒すべきことと心得た。サーカス象の優しさ、賢さと同時に復讐心と恐るべき破壊力が (極端な感傷主義に溺れることなく) 描かれている点で、Sara Gruen の *Water for Elephants* は *Love, Let Me Not Hunger* と酷似しており²⁷⁾、(人間以外の) 動物を真に理解し、熱愛する者だけが、動物の持つ獣性の想像を絶する凄まじさをも予想できると推察されるであろう。

Sam Marvel のサーカスの団員の中でハンガリー出身の醜い小人の道化師 Janos も Toby と同じく、新しい演し物を彼の熱愛する動物と一緒に演じられ

ることに大いに満足した。洋の東西を訪わず、サーカスやそれに付属した見せ物（英語では sideshow に相当する）の中に小人や奇怪な外観の人々が登場することについては一般に非難が浴びせられることが多いようであるが、最高の芸術的サーカスと豪語する シルク・ドゥ・ソレイユ Cirque du Soleil でも小人の男女や巨人の演技は大喝采を浴びており、常人と異なる容姿に生まれついたことの悲劇を克服し、生来のショーマン（ショーウーマン）に徹して、決して凡人では成し得ないような驚異的演技を行なって生計を営む彼らの生命力と勇気に対して、我々は拍手を贈るべきではないだろうか？現代イギリスの作家 アンジェラ・カーター Angela Carter の 『夜ごとのサーカス』 *Nights at the Circus* の有翼の女主人公 フェヴァース Fevvers の天衣無縫で豪放磊落な生き方は、サーカスや「フリークショー」に対する因襲的な固定観念や偽善的な感傷主義に基づく道徳観を根底から覆す程の迫力を持っている²⁸⁾ と言える。そして Carter ほど過激ではないとしても、もし我々が「奇形」(“freak”) という言葉を真摯に分析しようとするなら、巨大な耳を持って生まれたために「奇形」と呼ばれて屈辱的な境遇に陥るが、まさしくその耳を翼のように駆使して空を飛ぶことができるようになったためにサーカスの大スターとして絶賛される子象を主人公とした Walt Disney 制作の animation 映画の不朽の名作 ダンボ *Dumbo* (1941 年) を思い起こす必要があることは言うまでもないであろう。更に、スペクタクル映画 *The Circus World* (『サーカスの世界』, 1964 年, 監督 Henry Hathaway, 主演 John Wayne) の中で、John Wayne が演じるサーカス団長 Matt Masters は、常に小人の道化師を、旧約聖書に登場する巨人にちなんだ愛称「ゴリアテ (Goliath)」と親しみをこめて呼んでいる。Gallico は、*Love, Let Me Not Hunger* の中で、誰もが自分の外見を変え、それを観客に見せる「サーカス」という特別な世界で白塗りの道化師となった Janos は、この特異な生活共同体の構成員であり、もはやグロテスクでも惨めでも社会からの疎外者でもなく、実は仲間の演技者の誰よりも自分の技への自惚れが強かった²⁹⁾、と述べており、彼は、自分の全ての愛情を注いでいる三匹の犬とともにマジヤール人の小人 Micky として喜劇的な芸を披露できる好機を得て大いに満足した。Sam Marvel は、Janos を含む道化師たち 4 人に、新しい演し物—特に彼らがずぶ

濡れにあったり、水の中で尻餅をついたりして観客の子供たちを笑わせるような、水を使った芸³⁰⁾を多く取り入れるように命じた、とあるが、その滑稽な演技は、物語の中で極めて重要な意義を持つこととなる。

次に彼は、道化師の一人で、先祖代々サーカスの芸人である中年を過ぎた大男 Jackdaw Williams には、彼のコクマルガラス（すなわち jackdaw）のラフルズRaffles（“raffles”には「紳士泥棒、素人の強盗」の意味がある）を客席に飛ばせて、観客からかすめ取ったものを再び持ち主のところへ返しに行かせる演技をさせるだけでなく、彼自身の奇術も披露するよう指示した。それから Marvel は、Williams が連れて来た見知らぬ若い娘について問いただし、積荷の重量を最小限に減らして船旅をする必要上、彼が街から拾ってきたその娘をどうしても連れて行くつもりなら、彼女に物売りや切符もぎりのような雑用をさせるとか、不器量でない以上、演し物を引き立てるような仕事をさせるように厳命した。この娘 Roseこそ、この作品の中で最も重要な登場人物の一人であるので、彼女については、後に詳細に論じることとする。

Marvel が最後に呼びつけた動物の世話係の Mr. Albert は、古ぼけた埃まみれの黒いフロックコートを着た、一見愚かそうに見える 70 歳過ぎの老人であるが、いよいよ首にされるのではないかと怯えて、蒼白の表情を浮かべていた。今回のスペイン巡業にあたり、Sam Marvel は経費節減のために多くの有芸動物を手放し、ネコ科の大型動物に関しては僅か 3 頭を残して（前述のように）当時イギリス最大規模を誇っていた Chipperfield's Circus に全てを売却し、数頭の象、高等馬術用の馬、キリンを（Chipperfield's に次ぐ規模の）Billy Smart's Circus に賃貸したので、連れて行く象は Judy 一頭だけであった。しかし Albert 老人は、あらゆる種類の動物たちから愛されており、特に猛獣を扱わせると天才的な才能を発揮する極めて貴重な人材であるため、規模を縮小したとは言え、Sam Marvel の動物園にとって不可欠の存在であったのだが、狡猾な興行主 Marvel は、彼を脅して小道具係の主任の仕事も行なわせることを承諾させ、解雇を免れた喜びで Albert 老人は生氣を取り戻した。

次に、この作品の女主人公である Rose について考察し、彼女がサーカスと

いう共同体に加わることになった経緯と、そこでの彼女の生活をこれまで経験したことがなかった幸福なものに変える上で重要な役割を果たした青年 Toby, Albert 老人, そしてサーカスの動物たちの存在意義について論じたい。道化師 Jackdaw Willams が Chippenham にあるサーカスの冬期宿舎本部に連れてきた娘 Rose (本名 Rose Rokcyszinski) は、ポーランド人の船員と彼が上陸していた間に結婚したイギリス人の女との間に生まれたが、彼女が誕生する前に、父親は次の航海に出てしまい、見捨てられた母と娘は、London の貧民窟で生活していた。Rose の母親は非常に自堕落な女であったし、彼女自身まだ少女の頃に港湾の夜警に暴行された不幸な過去があったが、一度たりとも生活のために身を売ったことはなく、お針子、ウェイトレス、皿洗い、女中、雑役婦、女工などの職を転々とし、公園のベンチ、鉄道の駅、バスの停留所、浜辺の砂の上で眠ることもしばしばあった。彼女は飢餓と貧困に耐えながらも必死で道徳的潔癖さを守り続け、その驚嘆すべき意志の強さによって、威厳と自尊心の輝きを守り続けてきた³¹⁾。 *Love, Let Me Not Hunger* の主人公 Rose は、Paul Gallico の作品に登場する女性の中で、最も強く、最も優しく、最も個性的な人物の一人であろう。Gallico の他の作品に登場する多くの女主人公と同様に Rose も、男性の恋心をかき立てるほど素晴らしい美人ではないが無邪気な茶目っ気と憧れに満ちた魂を持った娘として描かれ、彼女の魅力が貧困とみずばらしい身なりによって隠されて悲哀感を漂わせていたという点では、 *Love of Seven Dolls* (『七つの人形の恋物語』, 1954 年) の主人公で人形芝居の大道芸人 キャプテン・コック Capitaine Coq の心を不思議に動かした薄幸の娘 ムーシュ Mouche と最もよく似ている。勿論、どんな場末の舞台にも立って女優として生きる望みを失ってセーヌ河に身を投げようとしていた 22 歳の Mouche³²⁾ とは比較にならないほどの生命力と人生への希望を Rose が持ち続けながら 21 年間の人生を歩んできた点は忘れてはならない。Rose の父親はポーランド人であり、彼女は何世紀の間「ドイツ人の苛酷さと残忍性」と「ロシア人の原始的野蛮性」に抑圧され続けてきたポーランド民族に独特の資質—優しさ、哀愁、かなえられない願いへの憧れ—を受け継ぎ、文字や音楽という手段ではなく、自らの人生によっ

て、詩情を表現するという特質を、僅かながらも継承していた³³⁾、と Gallico は指摘している。Rose の困窮生活はかろうじて食べ、働き、眠ることの繰り返しであったが、彼女は常に、生まれてこのかた決して与えられたことのない愛 (love) と愛情 (affection) を渴望していた。しかし彼女は自分が他者から与えてもらえない愛情を、孤独で無力な動物たち—十日鼠、迷ったり殴られたりした子猫や犬、荷馬車の馬、屠殺場に引かれていく子牛、ペットショップのウィンドーで見られる毛皮で覆われた動物たち—に注ぎ、家のない自分には飼うことができなかつたけれども、動物たち全てを胸に引き寄せ、彼らの心臓の恐れおののく鼓動を鎮めるために抱き締めてやりたいと切望していた³⁴⁾。

このような放浪生活を送っていた Rose は、Liverpool の南方の町 Warrington の町の演芸館 Regent Palace Theatre の前を夜更けに通り返ったとき、ちょうど公演が終わり、鳥を肩に止まらせて楽屋から路地に出てきた道化師 Jackdaw Williams と衝突しそうになった。彼は最初 Rose を街娼と間違えて声をかけたのだが、「売りものじゃないのよ。」(“I’m not selling it.”)³⁵⁾ と落ち着いた口調で答え、職を失くしてみずばらしい身なりの娘でありながらも毅然とした態度でおり、それでいてあどけなさを感じさせる表情を浮かべた彼女に魅了されて、彼女を食事に誘った。終夜営業の石油スタンドのそばの小さなレストランで食べるように食べている Rose を見つめていた Jackdaw は、彼自身も仕事に恵まれなかった時期の惨めな境遇を熟知していたので彼女に同情し、彼女も「ひもじさを共有する者への親近感」を覚えた。彼は冬季はミュージック・ホールに出演し、夏はサーカスで仕事をしているのだと Rose に説明し、曲がった煙突が屋根から突き出し、演芸館の看板に見られたのと同じ道化師の絵が描かれ、金色の飾り文字で彼の名前が記されたワゴン車に住んでおり、それを彼の家 (home) と呼んでいた。ここで我々は、*The Day Jean-Pierre Joined the Circus* に登場した老道化師 Flippo^{フリッポ} と Jackdaw Williams の住居の形状がかなりよく似ている³⁶⁾ ことを思い起こすべきであろう。「家」という言葉は、孤独な放浪生活を送り続けてきた Rose が渴望してきた安らぎの場所であったの

で、彼から、自分と一緒に家へ来るか？と尋ねられた彼女は、彼について行き、汚れて散らかし放題の状態ではあるが、こじんまりとして居心地の良い彼のワゴン車の中で眠らせてもらうことにした。鳥と一緒にトラックに住み、飢えと人生の苛酷さを知っているこの風変わりな男の孤独ゆえの淋しさに共感した Rose は、それ以来、彼と生活を共にするようになったが、結局の所、いわゆる男女関係は Rose にとっても Jackdaw にとっても重要な問題ではなくなり、彼女は、移動する小さな「家」であるワゴン車で家事にいそしみ、清潔な生活環境をつくりだすことに喜びを感じていた。しかし、これまで余りにも悲惨な放浪生活を送ってきた Rose は、家の所有者である Jackdaw からいつ自分が放り出されるか危惧していたので、彼を怒らせないよう慎重に少しずつ模様替えをして行ったが、その過程で彼女が縫い上げたカーテンが偶々いつもより苛立っていた Jackdaw の神経に障り、彼がその飾りつけに怒鳴り散らしたときに、自分が常に Jackdaw の支配下に置かれる不安定な状態に置かれていることに耐えられず、自らの意志で出て行くと、きっぱり彼に告げた。これに対し Jackdaw は、無邪気さと意志の強固さが不思議に融合した Rose の決意に少なからず心を動かされ、命令口調ながらも彼女を引き止めた。Rose が「勇気と自立心の存在を主張し、その結果として起こった事柄について責任を取る心構えを示したことで彼女の危惧の念は幾分減じられた」³⁷⁾と記されている点は注目に値する。そして町から町への移動生活の間に、孤独な男性芸人のワゴン車は、Rose のささやかな努力によって、豚小屋から「家」へと変貌し、Jackdaw 自身、生活が快適なものになったことに満足し、この不思議な娘がそばにいてくれることを強く望むようになった。

Jackdaw Williams には、実は彼が殆ど愛情を感じていない別居中の妻がおり、その妻を訪ねるために 1 週間だけワゴン車を留守にした後に戻って来ると、ミュージックホールに出演する時期は終わったので、今度は Sam Marvel のサーカスの冬季集合場所 Chippenham へ向かうのだと Rose に告げ、サーカスの旅がいかにか苛酷なものであるかを説明した後で、一緒に来る意思があるかどうか、彼女に尋ねた。Jackdaw の話を聞きながら今度こそ自分は見捨てら

れ、彼女の愛する小さな家から追い出されるのだと絶望の淵に沈んでいた Rose は、無論、行く手に何があろうとも、彼と行動を共にする決意であった。

Rose が足を踏み入れることになった 20 世紀半ばのイギリスのサーカスとは、どのような世界であったかについて、まず Paul Gallico は「特殊な道徳的雰囲気と掟に囲まれ、世間から隔絶された共同体」³⁸⁾ と定言し、これは 21 世紀初頭の今日の一般の人々が漠然と抱いている固定観念と異なるものではないが、同時にサーカス界に精通した Gallico は、サーカス人の誇り高さ—先祖代々、騎手、アクロバット、道化師、ジャグラー（投げ物の曲芸師）としての家業を守り、同じ職業に就いている人々と結婚し、伝統芸を継承してきた人々が持ち続けてきた独特の気位の高さを読者に教えてくれる。従って、そのような品位を重んじるサーカス・アーティストの共同体の中に、Jackdaw Williams とともに突然侵入してきた Rose は、どんな技も持たない単なる“ジョッサーjosser”（サーカスファミリーに属さないよそ者）として軽視されただけでなく、彼が連れてきた街娼に相違ないと信じられ、妻帯者である Jackdaw と Rose の同棲関係は、サーカス人への侮辱とさえみなされていた。とりわけ、名誉と世間体で執着する曲馬師一族の母親で、かつての美貌をすっかり失って恐るべき肥満体の大女と化した Ma Walters にとって、Rose の出現は憎悪と憤慨と嘲笑の喜びの種となった。彼女の夫 Harry Walters も道化師の連れてきた娼婦と一緒に長い巡業の旅に出かけることに関して、基本的には彼の妻と同様に、好ましいこととは考えていなかった。しかし彼は、家族に対しては専制君主的に振舞っても、対外問題でのトラブルを避けたがっている事なかれ主義の男であった。Walters 一家の長男の Jacko と次男の Ted は Victoria 朝的道德観によって若者に強いられている性的禁制から巧みに脱け出して、（観客の）魅惑的な町の娘たちを誘惑する機会を利用し、巡業中に各地で女性を妊娠させながら、全く気に病むこともなかった³⁹⁾。とは言えこの二人も偽善の仮面をかぶって、母親の面前では Rose と Jackdaw の関係を非難していた。一家の娘のうちの 22 歳の アンジェラAngela は、リングの外では全く魅力に欠けた容姿の娘であったが、Rose を見下し、自らの純潔、節操、社会的立場の優位性を誇らしく思った。Angela

の妹で一家で最も年下の 17 歳の少女 ^{リリアン}Lillian は、かつて美しかった頃の母親にそっくりで、彼女が“harlot”とか“whore”といった言葉を聞いて大いに興奮したのは、実は彼女自身が、それに近い邪悪な要素を持っていたからであると Gallico は皮肉っており、Walters 家の母娘が Rose に対して抱いていた敵愾心は、『ポセイドン・アドヴェンチャー』(1969 年)に登場する、かつて娼婦であったが現在は刑事の妻となっている Linda が一見蓮っ葉に見えるが極めて純情なショーガール Nonnie に対して示した感情と共通している⁴⁰⁾ 点に我々は気づかされる。

Walters 一家の構成員の中で最も重要な登場人物は、さきにふれた Toby である。上述の通り、要するに、彼の両親、二人の兄、二人の姉妹の全員が偽善的で欺瞞的な道徳観の持ち主であったが、21 歳の Toby は、未熟ながらも、彼らとは正反対の真に純粋な精神を持ち、それゆえに絶えず激情に駆られて苦悶する若者として描かれている。Toby は、Rose のほっそりとした姿、狐色の髪、物思いに耽っているかのような眼、無邪気な子供のような唇に魅せられていたが、好ましい印象を与える彼女の外観は淫らな邪悪さを隠すための見せかけに過ぎないという偏見を周りの年長者たちから徹底的に叩き込まれた結果、彼女を、人間として、女性として、隣人として認めることを拒絶して、Jackdaw Williams のように彼女を所有したいという欲望に悩まされるようになった⁴¹⁾。彼は「同情」「憧れ」「憎悪」「優しさ」「無私の献身」「尊敬」「嗜好」といったような言葉の構成要素を熟慮するほどの知性を獲得するには至っていなかった。しかし、自分では全く意識していなかったにもかかわらず、Toby の心の中には「優しさ」と「愛する能力」があり、彼の動物たちを常に心から愛し、理解し、彼らに献身していた。そして特に、新しく自分の演技のパートナーとなった雌の象の Judy を訓練する上で、(彼女の体だけでなく)決して彼女の心が傷つけられることがないようにと願うほどの思慮深さを持っていた⁴²⁾。

一方、Chippenham に到着した直後から、Rose は清潔で力強く優美な肢体を持った Toby に対して生まれて初めての恋心を抱き、遠くから憧れの思いを

込めて、彼を眺めていた。彼女が団長の Marvel から言いつけられた物売りの仕事や、Fred Deeter の Liberty 馬たちの演技の後で彼を鞭で指して観客の拍手を引き出す助手の仕事、そして Jackdaw のワゴン車での家事を済ませた後で、曲乗りの練習や Judy の訓練を行なっている Toby の姿を毎日、物陰から見つめるのが彼女の密かな喜びとなった。しかし彼女は、自分の心が求めるこの若者の周りに夢を紡ぎながら、生まれて初めて別の種類の飢え、すなわち恋の苦悶⁴³⁾ を覚えていた。他方、いつでも自分の練習を見つめている彼女に対して Toby は激しい複雑な感情を抱き続けたが、彼女の清純な恋心を傷つけるような言葉を無意識に口走ったために Rose の姿が見えなくなると、彼は、そのことが気になって演技に身が入らなくなる有様であった。

さて、Gallico の激情の奔流が読者を圧倒する小説 *Love, Let Me Not Hunger* の中で最も心温まる場面は、孤独な娘 Rose、彼女と同じ様に孤独な生涯を送ってきた Albert 老人とサーカスの動物たちの心の交流を描き出した第 5 章である。この章は、生涯を通して動物を親友としてきた心優しい Gallico でなければ絶対に書くことのできない深い愛情に満ちたものである。Chippenham のサーカスの冬季宿舎の本館から離れた所に位置する納屋から聞こえてきた、およそ音楽的とは言えない変わった鳴き声のコンサートに引きつけられた Rose が、その建物の中に入ると、様々な動物の糞尿と臭気と香腺から発せられる匂いの混ざり合った強烈な刺激臭が充満していたが、その匂いは、もともとは、野生動物たちがコミュニケーションを取るための言語のようなもので、彼らが風上の遥か彼方の平原や森で誕生したときにその存在を明らかにし、仲間知らせる役割を果たすものであった。イングランド南部の 2 月の厳しい寒さからサーカスの動物たちを守り、心地よく快適な温度にするために多くの石油ヒーターが用いられていたのも、納屋の中は蒸し暑かった。そこには Sam Marvel のサーカスの動物たちが収容された沢山の檻が置かれていたが、それでも、彼の動物園の動物たちの大部分は、賃貸契約が売却によって姿を消しており、ここに残されているのは、今回のヨーロッパ大陸での巡業に連れて行く動物たちだけであった⁴⁴⁾、と述べられている。

ここで我々は、ヨーロッパおよびアメリカのサーカスにおける Animal Act (動物芸), Menagerie (主として、ショー用の動物を公開する動物園) について考察する必要がある。近代サーカスの創始者と言われる英国人馬術家 Philip ^{フィリップ} Astley ^{アストレー} は、1780年にシマウマを走らせることに成功した⁴⁵⁾が、イギリスにおいてライオンや虎は18世紀以前から Menagerie に展示され、Zoo (Zoological garden) が発達するまでは極めて高い人気を博していた。まず George Wombwell ^{ウオンベル} (1777年—1850年) が1805年にイギリスで最も名高い Menagerie を創始し⁴⁶⁾、その後多くの Menagerie が人気を集め、特に Thomas ^{トマス・} Atkins ^{アトキンス} の Menagerie では (1825年までに) 雄のライオン、雌の虎と一緒に檻に入った飼い主がライオンの口の中に頭を突っ込んだり、飼い主とライオンと虎が遊び好きの子供のように仲良くふざけ回るという画期的な芸を披露した⁴⁷⁾。1838年にイギリスを訪れ、ライオンや豹と檻の中で格闘し、ライオンの口の中に頭を突っ込み、彼の髪の毛をなめさせる演技を見せたアメリカ人調教師 Isaac Van Amburgh (1808年—1865年)⁴⁸⁾の演技を Victoria 女王は7回以上鑑賞し、彼女は「誠に見事な光景で、私も彼と同じようにできたらいいのと思わせるほどだ。」⁴⁹⁾と絶賛した。Isaac Van Amburgh はライオンその他の動物からなる Menagerie を伴って、イギリス各地で公演した。しかし、言うまでもなく Menagerie の猛獣の檻の中に入って演技を見せる調教師は絶えず死の危険に晒されており、その最も悲劇的な例は作家 Charles Dickens と幼い頃から親しくしていた女性の猛獣使いで “Lion Queen” と謳われた Ellen ^{エレン・} Bright ^{ブライト} (1833年—1850年) が前記の Wombell の Menagerie で虎を鞭で打ったとき、怒った虎に観衆の面前で襲われて死亡した事件である⁵⁰⁾。とはいえ、イギリスを含むヨーロッパ各地でサーカスの中に動物、特に野生動物の演技が取り入れられて大いに好評を博し続けたが、一方で教育・研究施設としての Zoo=動物学的庭園がオーソドックスなものと思なされるにつれ、移動動物園の役割を持つ Menagerie は次第に人気を失って行った。このようなとき、19世紀アメリカの最大のエンターテインメント企業家であるサーカス王 P. T. ^{パーナム} Barnum (1810年—1891年) が、博物館と移動動物園の要素を備えた “P. T.

Barnum's Museum, Menagerie and Circus" を 1871 年に創設して「地上最大のショウ」("The Greatest Show on Earth") と銘打ち、巡回興行によって空前の成功を収めたことに驚嘆したヨーロッパの Menagerie の経営者たちは、巡業するサーカスと移動動物園とを結合させることの利点に気付き、その結果、20 世紀初頭までに、テント興行を行ないながら旅をするサーカスとそれに付属した Menagerie が、イギリスを含むヨーロッパ各地で発展するようになった⁵¹⁾。しかし現実には P. T. Barnum 以前に、アメリカでは Menagerie と巡回興行のサーカスとの結合は、ヨーロッパよりも迅速かつ自然に発展していた。アメリカにおけるサーカスの創始者は 1793 年に フィラデルフィア Philadelphia の演技場で曲馬を中心としたショーを行なった John Bill Ricketts リケッツ であるとされている⁵²⁾ が、彼が設立した二つの円形劇場は焼失し、常設劇場でのサーカス興行は定着しなかった。一方、1796 年に オーウェン Mr. Owen という人物によって初めて象が公開され、その後約 20 年間、東海岸の各地で展示されたと伝えられている⁵³⁾。だがアメリカへやって来た史上 2 番目の Old Bet という雌の象については、より詳細な記録が残されており、このアフリカ象は 1804 年 Boston に到着し、New York ソマーズ Somers の農場経営者 ハカライア・ベイリー Hachaliah Bailey によって買い取られ、彼は近隣の人々にその象を見せて大儲けできたので、Old Bet を筆頭に様々な動物からなる荒削りな Menagerie を組織し、ショーマンとして各地を巡業したが、不幸にも半ば気の狂った男によって Old Bet は 1816 年に射殺されてしまった。しかし Bailey はこの象に非常に愛着を持っていたので、彼の故郷 Somers に Elephant Hotel と Old Bet の像を建て、それ以来 Somers は「アメリカのサーカスの揺籃の地」と呼ばれるようになった⁵⁴⁾。なお、1825 年に Hachaliah ジョシュア・パーディ・ブラウン Bailey のいとこ Joshua Purdy Brown が初めてテントを導入してショーを開始し、更に彼は 1832 年に初めてサーカスと移動動物園を結び付けることを考案した⁵⁵⁾。従って、近代サーカス芸術発祥の地がヨーロッパであっても、巡回公演を行なうサーカスと移動動物園とを結合させてエンターテインメントと教育的要素を結び付ける経営戦略が考案されて大成功を収めたのはアメリカにおいてであり、その方式がヨーロッパに伝播して行ったものと類推される。とは

いえ、我が国の木下サーカスの創始者・木下唯助氏（岡山の一大興行師であった木下藤十郎氏の養子となるまでは矢野唯助氏）が叔父の経営していた矢野巡回動物園でショービジネスを大成功させていた⁵⁶⁾ことを思い起こすと、日米のサーカス・エンターテインメントが、かなり似た形態で発展してきたことに驚かされる。

*Love, Let Me Not Hunger*の中で最も個性的な登場人物であり、作者 Paul Gallico 自身が最も愛情を込めて描き出している人物は、動物の世話係の老人 アルバート・グリッグス Albert Griggs である。彼には知人も親戚も友人も家もなく、半端仕事以外の職につける技術も才能もなく、職を失うまいと奮闘し続けながらも、あらゆる観点から見て、完全に失敗であったと見なされる 70 年の人生を送っていた。誰からも愛されず、誰からも頼られぬまま、いつの間にか孤独な老人となっていた Albert 老人と最も共通した人物は *The Day Jean-Pierre Joined the Circus* の老道化師 Flippo であろう。そして、「四つ脚の友達」との交歓によって人生を有意義なものとするのができたという点においても、Albert 老人と Flippo は非常によく似ている⁵⁷⁾。もっとも、Albert 老人の人生の転換の方が遙かに劇的に表現されていることは言うまでもない。1950 年代の後半のある時期、偶々 Marvel Circus で重労働の雑用係に雇われた彼は、自分が、あらゆる動物の心を虜にする天賦の才に恵まれていることを突然知ったのだが、特にネコ科の猛獣たちが彼の前では子猫のように嬉しそうに振る舞い、彼と抱き合って戯れるのを見て、ショービジネスの才にたけた Sam Marvel は、この老人をサーカスの動物たち全ての世話係として正式に雇うこととした。猛獣を含む全ての野生動物たちに餌を与え、檻を掃除し、可愛がり、看病することは非常に骨の折れる重労働ではあったが、Albert 老人は、自分を愛し、夢中になって自分の愛情のお返しをしてくれる野生動物たちに心を奪われ、初めて幸福な境地に達することができた⁵⁸⁾。

サーカスの野生動物たちは人間の娯楽のために自由を奪われ、搾取され、虐待され、辱められているだけであると攻撃する運動家が、現在、諸外国には存在する。しかし、彼らは自分たちが本当に動物を理解していると信じているの

だろうか？檻の中の動物たち全てがいわゆる自然動物園に送られることだけを望んでいるのだと言い切れるのだろうか？あるいは完全に野生の本能を取り戻すための「訓練」の後に自然界に戻すことが動物たちの幸福であると断言できるのだろうか？そして、どのような根拠によって、サーカスの動物たち全てが不幸であると言い切れるのだろうか？野生動物と総称される動物であっても、ひとたび人間の深い愛情に接した後では、人間を愛し、人間から愛され、人間との親密な関係を維持することに幸福を感じるのが当然であると我々には感じられる。世界最高の animal trainer の一人であった ガンサー・ゲベル・ウィリアムズ Gunther Gebel-Williams (1934年-2001年) が「動物の訓練は素晴らしいことで……動物が何を考えているかを探り、意思を通じ合えるのは驚嘆すべきことだ。そのために私の人生はある……私にできる全てのことは動物たちを愛し、尊敬し、何よりも大切なことは彼らを理解するように努めることだ。」⁵⁹⁾ と語った言葉こそ、動物と共に生きてきたサーカス・アーティストの信条であると解釈できるであろう。サーカスを愛し、サーカスの動物たちの心理を精確に把握していた作家 Gallico が グレイス Monaco 公后 Grace (Grace Kelly) に捧げた動物小説 『マンクスマウス』 *Manxmouse* (『トンデモネズミ大活躍』, 1968年) の中で、好奇心に駆られてサーカスの檻から抜け出したことを後悔している年老いた (14歳) の虎 ブーラ・カーン Burra Khan は、小さな *Manxmouse* から、調教師に虐待されて自由になりたかったのだらうと尋ねられたときに次のように答える。

「今では僕たちをひどく扱うような人間はいない。君の考え方は時代遅れだよ。お互いに理解し合っているから、僕の調教師は工作中、一言も喋らない。あいつは僕の友達で、虎と同じことさ。サーカスにいる方がずっと良い暮らしができるんだ。もし僕が、ずっとジャングルにいたら、どうなっていたか君に分かるかい？5年かそこらで死んで、秃鷹の餌食になっていたらうよ……ジャングルの生活は充分経験済みさ。飢え死にしそうになるし、池の水は枯れるし、白人の狩猟家は毛皮を取ろうとしているし、ちょっとした闘いで怪我しても、誰も手当てしてくれない。傷が化膿して、それで死んで

しまうんだ。ところが僕の調教師は、自分の家族よりも僕の世話を良くしてくれる。頭を撫でたり、お腹をひっかいたり、抱き締めてくれるんだ。僕が病気になると、薬をくれて一晩中寝ないで僕のそばにいてくれる。こんなに幸せな虎が他にいたら、見せてもらいたいものだね。」⁶⁰⁾

そして Manxmouse が機転をきかせて、脱走した虎を仕留めようとやっきになっている人々の注意をうまくそらすことに成功した結果、Burra Khan は無事に檻の中に戻ることができ、調教師の若者と虎とはひとしと抱き合い、虎の方はゴロゴロと喉を鳴らして彼に甘え、彼の顔や手を舐めて、両者は心から喜び合った⁶¹⁾、と記されている。動物小説 *Manxmouse* はファンタジー形式で綴られた文学作品ではあるが、愛情深く世話されている年取ったサーカスの虎の心理を、これほど見事に表現した文献は存在しないであろう。

さて *Love, Let Me Not Hunger* の中で、サーカスの動物たちを収容した納屋の椅子に座り、眼鏡越しに新聞を読みながら左手を檻の格子の間から中に突っ込んで、虎の^{ラージャ}Rajah の肩甲骨をマッサージしてやって喜ばせている Albert 老人の姿は驚嘆すべきものであるが、虎という動物を生まれて初めて見た娘 Rose は、その美しさにすっかり心を奪われ、艶やかなオレンジ色と黒の縞の毛並みの上を老人の手が優しく、リズムカルに動く様子に魅了されて「私にもできるかしら？」と尋ね、次に「彼 (Rajah) を抱き締めてやりたい！」⁶²⁾ と叫ぶ。それに対して Albert 老人は、あたりに誰もいなくて、掃除のために檻の中に入っているときには、この「変わった年より猫」(funny old cat) を抱き締めているのだと答えた。つまり Rajah と Albert 老人の間柄は、*Manxmouse* に登場する Burra Khan と彼の調教師の間柄と全く同じで、野生動物と人間を結び付ける愛情の絆の強さが描き出されたものとみなすことができる。70 歳を過ぎた晩年の人生の出発によって Albert 老人は、彼が愛情を捧げ、彼を熱愛してくれる動物たち、常に移動するとはいえ彼の「家」と呼べるもの、彼が帰属することができる「サーカス」という一つの社会集団、そして遂に永続的な職業を手に入れることができた。そして、動物の世話係という生業を得た以

上、彼は自分の新しい威厳に釣り合った制服を身に着けるべきだと考え、以前の雇主の一人が彼にくれた流行遅れの長いフロックコート、カラーのついていないシャツ、黒い紐タイと山高帽を着用するようになったのだが、その結果、彼の風体は零落した紳士さながらになったため、野卑な道化師たちがつけた Mr. Albert という呼び名が定着することとなった。無邪気さを浮かべた眼、愛嬌のある微笑、愛に飢えた空っぽの広い心を持って辛く孤独な人生を歩んできた点で、Albert 老人と Rose とは非常によく似た存在であった⁶³⁾ ので、彼がインドの虎 Rajah, ヌビアのライオン King, アフリカの黒豹 Bagheera から愛され、共に遊び戯れることを求められている有様を見た Rose は「どうしたら、私も、あなたと同じように彼らから愛されるようになるの?」と叫ぶ。そのとき直ちに彼女の心の飢えを察知することができた Albert 老人が答えた次の言葉の中に、*Love, Let Me Not Hunger* において作者 Gallico が主張しようと望んでいる要素の全てが集約されている。

「彼ら（野生動物たち）を愛することによって、彼らから愛されるようになるのだ。それも、あなたの心をほんの少し捧げるのではなく、あなたの持っているもの全てを捧げて愛すると、彼らは、そのことを感じ取る。それは動物たち同志の間には存在しないもので、我々人間が感じ取ることができる人間独自の愛なのだ。彼らにはそれが何であるのかは分からないが、彼らは、それを必要としている。」⁶⁴⁾

上の言葉を述べた Albert 老人は、自分自身が語った言葉の持つ熾烈な意味に我ながら当惑したけれども、彼の言葉を聞いていた Rose の顔に浮かんだ輝きと彼女の眼に溢れた涙を見た瞬間に、彼らの間に友情と親交の確固たる絆が生まれたのであった。それから彼は、自分が世話している全ての動物たち—ローラースケートをする褐色の熊、憂わしげな大きな眼の雌のカンガルー、オランウータン、狐、小鹿、コヨーテ、大蛇、マンドリル、アカゲザル、ラマ、ワシーを彼女に会わせ、彼らの名前を教え、それぞれの動物たちに関する

ちょっとした話を聞かせた。そして再び虎の Rajah の檻の前に戻ってきたとき、Rose の心は様々な感情で溢れそうになり、いつか Rajah の頭を胸に抱き締めたいと切望した。そして、動物たち相互の間には存在しえない人間愛の持つ圧倒的で包括的で心を慰めるような暖かさを授けてやりたいと願っていた⁶⁵⁾。

さて、優れた知力の持ち主である象の Judy に関して言えば、彼女も Albert 老人の虜になったことは言うまでもない。Albert 老人は、体の大きな動物であるほど共感と愛情を一層求めているのだと感じ、Judy は、彼に対する彼女の愛情を伝えようと常に出来る限りの努力をしていた⁶⁶⁾と作品の中で述べられているのを読めば、我々は、サーカスという共同体の中で動物と人間の絆がこの上なく深いものになって行ったことを窺い知ることができる。Albert 老人と Judy は相思相愛の間柄で、毎日、彼は彼女に食物と水を与えていたが、Judy がリングで演技を披露することが決定した後は、それ以外の世話は Toby が受け持つこととなり、彼の一家のワゴン車のそばに繋がれることとなった。そして3月中旬の、ある雨上がりの日にサーカス用地の中を歩いてきた Rose が Judy に突然近寄り、かつて女性客を殺した経歴を持つその象に頬ずりしようとしたとき、Walters 一家は恐怖のために金縛りにあったように動けなくなってしまったが、Judy の眼が異様に輝いてきたことに気づいた Toby は、大急ぎで Rose の腕を掴んで引き離させた。Judy が「スカートを履いた二本足の女」に対する長年の敵対心から Rose を傷つけようと考えたのは事実だが、その日の朝の Judy は大変楽しい気持ちになっており、Gallico によれば象という動物は一種の閃くユーモアのようなものを持っているので、怒りを表現する代わりに奇抜な行動を取って意識的にそれを楽しむことにした⁶⁷⁾ Judy は、水溜まりの泥水を鼻で吸い上げると Rose の全身に吹き付けて、彼女を見るも哀れな姿にした。この有様を見た Walters 一家はどっと笑ったが、女たち、特に Toby の母親は悪意に満ちた軽蔑の言葉を彼女に投げつけた、と描写されている。Toby が失笑したのは、深刻な悲劇を避けられた安堵から来るものであったが、自分の汚れた姿を笑われた上に彼から怒鳴られたために、Rose には、

自分が彼とその家族の輝くような清潔さと若さと健康の世界に通じる境界線を踏み越えようとしたときに、自分がそこから出てきた薄汚い境遇に投げ返されたかのように感じられて、徹底的に傷つけられ、侮辱された悔し涙を流しながら立ち去った。Jackdaw と Rose とは、今では必要不可欠な場合以外には互いの行動について干渉しない生活を送っていたのだが、彼は、彼女が Walters 一家から笑い者にされたことに対して復讐してやりたいと密かに願っているのを察知して、自分の演し物で使う爆竹を彼女に渡して、次の日の真夜中に象と Walters 一家の両方を脅かしてやるように唆した。しかし、実は道化師 Jackdaw は彼自身の一風変わったユーモア感覚を満足させるために彼女を利用した⁶⁸⁾のであった。その結果、足下を動き回る火花への恐怖から半狂乱に陥った象を押さえるためにサーカスの人々が大騒ぎする有様が描いた場面は、*Manxmouse* の中の同様の光景を思い起こさせるものである。だが、この場面では、特に、ワゴンの中から半裸や裸の状態で飛び出してきた Walters 一家が足下の爆竹に驚き、大西部ショーに出演してもおかしくないようなアメリカ・インディアンの戦さ踊りに似た体の動きを披露していた、とあるので、より滑稽かつ強烈な印象を読者に与えるであろう。そして傲慢な Walters 一家の人々がサーカス中の人々から笑われているのを見て溜飲を下げた Rose は、彼らに向かって侮蔑の言葉を投げつけて、誇り高さと不屈の闘志をしている。

サーカス経営者 Sam Marvel は、当然のことながら象の暴走の危険性を重視し、関係者一同を徹底的に糾弾したが、彼の長舌にも屈せず、Jackdaw は、Walters 一家が Rose を笑い者にし、いじめて追い出そうとしたために事件が起こったのだから、彼女に構わないように責任者 Marvel から Walters 一家に言い渡すように要求した、とある。Gallico の作品の登場人物の多くが非常に魅力的であるのは、彼らが強烈な個性の持ち主であり、しかも必ずどこかに共感に値する愛すべき特徴を有している人間として、描かれているからであろう。Rose は、そのとき初めて、Jackdaw が自分たちの“home”の持ち主であるという事実とは関わりなく、自分と同じように不屈の独立精神を持っている彼に対して、殆ど愛情に近い感情を覚えた⁶⁹⁾と記されており、彼は彼なりの

風変わりなやり方で、無関心を装いながらも、孤独な娘の境涯を思いやっていたのだと理解できる。

この事件の翌日、Rose は Judy に対して自分がひどい悪戯をしたことを Toby に非常に率直に謝り、気骨を持った一個の人間としての Rose の堂々とした態度に接した彼は、彼女への尊敬の念すら抱き始め、Judy が実は非常に危険な象なのだと言明した。Rose は、どんな動物でも自分を愛するようにさせられると思っていた自分が愚かだったと語るが、Toby から決して Judy に近づかぬように注意されたとき、自分にも近づくなと警告されたように感じられて、胸が痛んだ。しかし Toby への愛情と憧れが抑圧されたために、かえって昇華され、その思いはサーカスの野生動物たちへの愛情表現となり、Rose は Albert 老人と一緒に動物の世話をするために費やす時間が長くなり、彼の指導によって動物に対する求愛の仕方が進歩し、虎の Rajah と親しくなった。そして彼女が偶々 Woolworth^{ウールワース} で買った“California Poppy”（花菱草）という名の化粧水の香りを漂わせながら Rajah の檻の前に現われたとき、彼は大変気持ち良さそうに近づき、ついに彼女に子猫のように甘えるようになった⁷⁰。Woolworth は、もともとアメリカで発展した大衆向け雑貨チェーン店であり、California Poppy は California の州花であるので、ヨーロッパでの生活が長く Monaco 公国の大公や后と親しい間柄であった作家であったとはいえ、アメリカ大衆文化を創造の原点とした Paul Gallico の面目躍如たるものとして、上記の場面の描写を読み取ることができよう。猫族の Rajah が花の匂いを好んだのだと Albert 老人から聞かされた Rose がふんだんに化粧水を使うようになったため、Jackdaw Williams は、自分のワゴンが売春宿のような匂いだと言ったが、彼女から理由を聞くと笑って、それ以上は何も言わなかったと述べられているので、人間の男の気を引くためではなく、動物の愛情を得ようとして、ひたむきになっている純真な娘の心を Jackdaw は非常によく理解している人物として描き出されている。だが Rose は最終的にはありのままの自分を愛してもらいたかったので、何の香りも身につけずに Rajah のそばに行ったが、全く同じように虎が振舞ったので、既に親密な関係が築かれていたことを知った彼

女は幸福な思いであった。勿論、他の動物たちも Rose に夢中になっており、「彼女の人生は全く新しい意義を帯び…彼女から湧き出る愛情が移動動物園を暖め、生まれて始めて彼女は Albert 老人という人物を確固たる親友として得ることができた。」⁷¹⁾

こうして2月半ばから1か月半の間に Chippenham の冬季本部でパフォーマーや動物たちの演技の練習や訓練が行なわれた後にショー内容は完成の域に達し、慈善公演と地域の孤児院の子供たちのための公演を終えた後、いよいよ Sam Marvel のサーカスの一団は荷造りをして4月に Liverpool まで北上し、そこから家畜運搬船でスペインに向かった。

【注】

- 1) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger* (London : Heinemann, 1963), p.3.
- 2) *Ibid.*, p.5.
- 3) Jimmy Chipperfield, *My Wild Life* (New York : G. P. Putnam's Sons, 1976), p.10. ; Pamela Macgregor-Morris, *Chipperfields' Circus* (London : Faber and Faber, 1957), pp.45-46.
- 4) Jimmy Chipperfield, *op.cit.*, p.105. ; *Chipperfield's Circus and Menagerie Official Programme 1958*, back cover.
- 5) Jimmy Chipperfield, *op.cit.*, p.127. ; <http://www.guardian.co.uk/lifeandstyle/2010/may/15/chipperfields-circus-family-dynasties>.
- 6) Jimmy Chipperfield, *op.cit.*, pp.127-131.
- 7) George Speaight, *A History of the Circus* (London : The Tantivy Press, 1980), p.167., p.183. ; <http://www.britishpathe.com/record.php?id=1961#.TyGIKiuJA>.
- 8) Jimmy Chipperfield, *op.cit.*, pp.159-179., pp.185-188.
- 9) David Jamieson, *Chipperfield's Circus : An Illustrated History* (Little Hornead : Aardvark Publishing, 1997), pp.101-110. ; http://www.elephant.se/location2.php?location_id=626.
- 10) Pamela Macgregor-Morris, *op.cit.*, pp.15-16.
- 11) http://circusnospin.blogspot.com/2011_11_06_archive.html.
- 12) Jamie Clubb with Jim Clubb, *The Legend of Salt & Sauce : The Amazing Story of Britain's Most Famous Elephants* (Little Hornead : Aardvark Publishing, 2008), p.135. ; http://www.theknowledgeonline.com/profile/Amazing_Animals_Heythrop_Zoological_Gardens_Ltd. ; <http://www.amazinganimals.co.uk/about.php>. ; <http://www.amazinganimals.co.uk/credits.php>.
- 13) http://www.circopedia.org/index.php/Billy_Smart.
- 14) http://www.circopedia.org/index.php/Billy_Smart. ; <http://www.circopedia.org/>

index.php/David_Smart.

- 15) http://www.circopedia.org/index.php/Billy_Smart.
- 16) http://www.circopedia.org/index.php/Yasmin_Smart.
- 17) Chipperfield's Circus Slideshow (http://www.youtube.com/watch?v=G_oobir1jFY).
- 18) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.8.
- 19) *Ibid.*, p.6.
- 20) *Ibid.*, p.8.
- 21) 三好一『ニッポン・サーカス物語―海を越えた軽業・曲芸師たち―』（白水社、1993年、pp.13-55., pp.68-81.; 安岡章太郎『大世紀末サーカス』（朝日文庫、1988年）、p.407.
- 22) David Jamieson, *op.cit.*, pp.101-110.
- 23) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, pp.11-12.
- 24) James Otis Kaler, *Toby Tyler : or, Ten Weeks with a Circus* (New York : Harper & Brothers 1880).
- 25) Dave Smith, *The Updated Official Encyclopedia : Disney A to Z* (New York : Disney Editions, 2005), pp.680-681.
- 26) Paul Gallico, *op.cit.*, p.41.
- 27) *Water for Elephants* に登場する 53 歳の雌の象 Rosie は、自分を虐待し、火のついた煙草を口の中に投げ込んだ男への恨みを晴らすために、鉄の杭で彼の脳天を叩き割って殺す。Sarah Gruen は、彼女の小説に登場する Rosie の主要なモデルとなったのは、本稿でも詳述する実在の象 Topsy であるとしている。Gruen が実生活でも動物たちを家族として愛情深く接している点は Gallico と共通しているが、*Water for Elephants* が *New York Times* で賞賛された作品だとしても、Gallico のような精緻さに富んだ、恐ろしいほどの独創性は発揮されておらず、徹底的に野生動物の生態やサーカスという共同体を知り抜いた作家 Gallico の壮絶な愛の物語 *Love, Let Me Not Hunger* には到底及ばないと言わねばならないだろう。それにも拘らず、Gruen がサーカス小説の創作上、Paul Gallico から極めて強い影響を受けたに違いないことは、二つの作品を注意深く読み比べれば歴然としている。
- 28) *Nights at the Circus* の女主人公 Fevers は背中に翼が生えている以上、明らかに奇形ではあるが、逞しい New Woman である彼女は『『正常』（“natural”）と『異常』（“unnatural”）の違いとは一体何なのか、人間の姿を流し込む鋳型は非常に脆くできていて、指でほんの少し突けば壊れてしまうものだ。』と堂々と定義し、異形の翼を武器にして、サーカスの空中ブランコのスターになる強靱な意志を持っている。Angela Carter, *Nights at the Circus* (London : Vintage Books, 2006), p.68.
- 29) Paul Gallico, *op.cit.*, p.13.
- 30) 水を用いた道化師たちの伝統芸は古典的なものであるが、21 世紀初頭の現在も多くの人々を魅了しており、本年（2012 年）1 月に開催された第 36 回モンテカルロ国際サーカス・フェスティヴァルで、スペイン代表として出演した道化師グループ Clowns Michel が Prix de la Société des Auteurs, Compositeurs et Éditeurs de Musique-Sacem および Prix Jose Maria Gonzales Villa Junior の 2 つの賞を獲得してい

- る。 (<http://www.montecarlofestival.mc/en/winner/winners-2012/>)
- 31) *Ibid.*, p.24.
 - 32) Paul Gallico, *Love of Seven Dolls* (London : Michael Joseph, 1955), pp.7-11.
 - 33) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.23.
 - 34) *Ibid.*, p.23.
 - 35) *Ibid.*, p.26.
 - 36) Paul Gallico, *The Day Jean-Pierre Joined the Circus* (London : Heinemann, 1969), p.42.
 - 37) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.34.
 - 38) *Ibid.*, p.20.
 - 39) *Ibid.*, pp.37-38.
 - 40) Paul Gallico, *The Poseidon Adventure* (London : Heinemann, 1969), p.153., pp.298-300.
 - 41) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, pp.39-40.
 - 42) *Ibid.*, pp.41-43.
 - 43) *Ibid.*, p.59.
 - 44) *Ibid.*, p.44.
 - 45) George Speaight, *A History of the Circus* (London: The Tantivy Press, 1980), p.80.
 - 46) *Ibid.*, p.80.
 - 47) *Ibid.*, p.80. 本年 (2012 年) の第 36 回モンテカルロ国際サーカス・フェスティヴァルで、^{ウクライナ}Ukraine の Vladislav Goncharov が⁸, ライオンたちとともにまさしく、このような演技を披露して、Clown d'Argent ほか 3 つの賞を獲得した。 (<http://www.montecarlofestival.mc/en/winner/winners-2012/> および <http://www.montecarlofestival.mc/galerie-photos-affiches/36e-festival-jour-par-jour/>)
 - 48) Howard Loxton, *The Golden Age of the Circus* (London : Grange Books, 1997), p.23., p.83., p.85.
 - 49) George Speaight, *op.cit.*, pp.81-82.
 - 50) E. ギュンター 著, 尾崎宏次訳『女曲馬師の死—西洋サーカス史 33 話』(Ernst Günther, *Zirkus geschichten33* の邦訳, 草風館, 1997 年), pp.18-25. Charles Dickens は *Hard Times* の中で, 想像力を育む夢の空間としてのサーカスに対する彼の愛着を表現し, 更にイギリスで最も優れた道化師と呼ばれた Joseph Grimaldi (1778 年—1837 年) の回顧録 *Memoirs of Joseph Grimaldi* を編集したことによって, clown の生み出す芸術が不朽の価値を持つことを強烈に訴えた。
 - 51) http://www.circopedia.org/index.php/Short_History_of_the_Circus.
 - 52) Tom Ogden, *Two Hundred Years of the American Circus : From Aba-Daba to the Zoppe-Zavatta Troupe* (New York : Facts On File, 1993), p.289. ; Charles Philip Fox and Tom Parkinson, *The Circus in America* (Santa Monica : Hennessey + Ingalls, 2002), p.66.
 - 53) Earl Chapin May, *The Circus from Rome to Ringling* (New York : Dover Publications, 1963), pp.24-25. ; <http://www.historybuff.com/library/refelephant>.

html.

- 54) Tom Ogden, *op.cit.*, p.264. ; Earl Chapin May, *op.cit.*, pp.25-27. ; <http://www.somershistoricalsoc.org/elephanthotel.html>.
- 55) Howard Loxton, *op.cit.*, p.22. ; http://www.circusinamerica.org/public/people/public_show/5011.
- 56) 西田実編『木下サーカス生誕 100 年史』（木下サーカス株式会社, 2002 年), pp.29-30.
- 57) Paul Gallico, *The Day Jean-Pierre Joined the Circus*, pp.59-60.
- 58) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, pp.51-52.
- 59) Gunther Gebel-Williams, quoted in John Culhane, *The American Circus : An Illustrated History* (New York : Henry Holt and Company, 1990), p.300.
- 60) Paul Gallico, *Manxmouse*, (London : Pan Books,1972), pp.106-107.
- 61) *Ibid.*, p.117.
- 62) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.46.
- 63) *Ibid.*, p.54.
- 64) *Ibid.*, p.54.
- 65) *Ibid.*, p.56.
- 66) *Ibid.*, p.63.
- 67) *Ibid.*, p.66.
- 68) *Ibid.*, p.70.
- 69) *Ibid.*, p.71.
- 70) *Ibid.*, p.73.
- 71) *Ibid.*, p.73.

II スペイン巡業中の Marvel Circus が遭遇した災厄についての考察

Sam Marvel のサーカスは、^{ビスケー}Biscay 湾に臨むスペインの港湾都市 ^{サンタンデル}Santander に上陸した後に南下して、Madrid で興行を開始し、Toledo, Ciudad Real, ^{マンサナール}Manzanares, ^{ヴェルデペーニャス}Valdepeñas を経て、7 月半ばには、この国の中南部の La Mancha 高原の熱波のまっただなかにいた。

彼らは La Mancha 高原に位置する人口約 6,000 人の町 ^{サラソ}Zalano 近郊で昼興行を公演していたが、この高原独特の無風の真夏の灼熱は、サーカスが Madrid を出発点として南に進みながら巡業を続けて来た間中、彼らの後を追い続け、人間と動物を極度に疲労させていた。Zalano の郊外は「いわば文明の縁」のような場所で、果てしなく続く La Mancha 高原には、現代世界の

人々を慰めるようなシンボルである電柱も電線も全く無く、葡萄樹やオリーブの木々が整然と並び、耕作された畑が広がっていたにも関わらず風景は原始的で荒涼とした印象を与え、ときたま見える赤いタイルの屋根で水漆喰を塗った石造りの四角い農家やずんぐりした風車以外には、人の眼を休ませるような物は何も存在しなかった¹⁾。

しかし、Marvel が予期していた通り、スペインでの興行は好調で、この時点までの巡業は、金銭面では成功を収め続けてきた。Zalano 公演が行なわれていたときにテント内はうだるような暑さで、それに加えて階段状の席にぎっしり詰まった 900 人の観客の体から発せられる熱で、空気は澁み、息詰まるほどであったと描写されている。Sam Marvel のサーカスが 20 世紀半ばのイギリスのサーカス団の中で決して大規模なものでないことは物語の冒頭でも触れられていたが、21 世紀初頭現在の我が国においても、収容人数 1,000 人以下のテントを用いてサーカスが興行を行なうことは稀であり、年間動員数 120 万人を誇る木下サーカスのテントの最大収容人数は約 2,000 名である。しかし「夢の空間」を演出するための条件として現在の文明諸国でのサーカスでは空調設備が必須の条件とされているのに対して、*Love, Let Me Not Hunger* の中で描かれているサーカスの真夏のスペイン興行が、演じる側にとっても観客側にとっても苛酷なものであり、いかに優れた演技が披露されたとしても、異様な熱気のために、すでに一種の悪夢となりつつあったことには注目すべきであろう。

その日、サーカスの人々が注目していた客は、Zalano 近郊に広がる葡萄園、オリーブの森、サフラン畑を所有する途方も無い大富豪である La Mancha の ポソブランコ Pozoblanco 女侯爵で、町の人々は、恐怖と迷信の入り混じった思いをこめて彼女を尊敬していたのだが、彼女の容姿が、かつて欧米のサーカスに付属していた sideshow の見せ物小屋に登場した、いかなる異形の人物よりも凄まじく醜悪なものとして描かれているのは、作者 Gallico がスペイン貴族社会の頹廢と没落を象徴するものとして、この女侯爵を描きたかったからであろう。彼女は、身長も横幅も 6 フィート位ある巨大な女で、まる禿げの頭を隠すために人工の

赤煉瓦色の毛髪を高々と聳えさせたかつらをかぶり、ナメクジを思わせる丸々と太った指には沢山の豪華な指輪がはめられ、耳には巨大なエメラルドの耳飾りをしていた。彼女の眼は冷酷な嵐の海のような緑色で上瞼は金属の練り物で銀色に塗られており、白粉をはたいた顔の両頬に真っ赤な丸い円が塗られているので、白塗りの道化師の化粧をまねたように見えた²⁾。そして、彼女の両側の席を6つずつと後ろの数列を全て買い切ることによって、下層階級と遮断するように取りはかられていた、と述べられているが、もし金銭と権力が失われたとすれば、彼女自身の姿こそ、テントの中で最も奇怪な見せ物として好奇と嫌悪の視線を浴びたことであろう。言うまでもなく、この女侯爵には、先に述べた古典的サーカス小説 *Toby Tyler : or, Ten Weeks with a Circus* に登場する sideshow の人気者で巨大な体躯を誇る Fat Woman の Lilly のような暖かい思いやりの心は存在しない。それにも関わらず、1881年に出版されたこの古典的サーカス小説の初版に挿入された W.A.Rogers の写実主義的ながらもユーモラスな名画³⁾を見ると、Fat Woman と上述の女侯爵の容姿が酷似しているため、Gallico が心優しい Fat Woman のグロテスクなカリカチュアとして *Love, Let Me Not Hunger* の中に傲岸な Pozoblanco 女侯爵を登場させたのではないかと推察される。

さて、Sam Marvel の極端な経営合理化の方針に従って、動物の世話係だけでなく小道具係主任兼リング・マネジャーの役もこなすことになった Albert 老人は、演技用に一種の制服として着用している古ぼけた黒いフロックコートの裾をはためかせながら大奮闘して、言葉の通じないスペイン人労働者たちに綱渡りの演技の台座を支えている鋼鉄製の支柱を外させようとしていたが、支柱が倒れ、その片方がリング上の道化師の一人の尻に当たり、白いサテンの服から血が滴り落ちた。彼が苦痛の余り空中に跳び上がったのを見た仲間の道化師たちは、この事故をショーの一部のように見せかけ、巧みに観客の注意を逸らして怪我人を退場させたのだが、出口のカーテンに向かう途中で彼らの一団が最前列の女侯爵の前を通り過ぎたとき、その事故の一部始終を凝視していた彼女の緑色の眼は銀色に輝く瞼の下で、興奮のために燃えるように輝いた。彼

女は血を見たために、暑さを和らげるために用いていた扇をあおぐ速度が急に早まり、汗が筋を作って頬を流れ落ち、胸は激しく波打ち、口の両端は痙攣していた。道化師たちが去ったすぐ後で（シニョール・アルフレード Signor Alfredo に扮した）Fred Deeter が赤、白、青の羽飾りを頭に付けた 8 頭のリヴァティ馬の演技を披露し、青いドレス姿の美しい助手に変身した Rose が Deeter の技を引き立てたが、リングサイドの正面席に座っている異様な女侯爵の視線は演技には注がれておらず、出口まで続いているおが肩上の血痕に向けられ、馬たちが動き回りながら血の混じった埃とおが肩をかき混ぜて事件の痕跡を消し去るまで、口許は依然として引きつっていた⁴⁾、と描写されている所から、我々は闘牛の残虐さに熱狂し、流血に心酔するスペイン人の典型として、彼女を捉えることができる。

一方、Toby はリヴァティ馬のショーの半ばが終わった午後 4 時過ぎに、「王家の厩舎からやって来た聖なる象 Saba を紹介する Rajah Poona」⁵⁾ に扮して象の Judy を連れ出し、メイン・テントの裏の小さな囲いの中で、彼らの出場の合図となるインドの音楽が鳴り始まるのを待っていた。ところが演技を終えた馬たちと Deeter が退場したとき、その後ろを歩いてきた Rose は Toby と Judy を突然目前にして動転してしまい、誤って象のすぐ近くへ行っただため、Judy は彼女を踏みつけようとして前足を持ち上げた。悲劇と死の危機で、その場の空気が震えたときに Rose は窒息しかけたかのような悲鳴を上げ、Toby は Judy のやわらかな耳の縁を突き棒で力一杯打った⁶⁾ ので、驚きと痛みでラッパのような大きな鳴き声を発した象は一瞬たじろいだ。この一瞬の際に、恐怖で震えながらも何とか窮地から逃れた Rose を Jackdaw が救い出した。Toby は Rose の後ろ姿に向かってどなり散らしながらも、彼女への欲望と彼女の愚行への激怒でむかついた。Judy の方は Toby の思いがけない攻撃に衝撃を受けて困惑し、小さな眼に激情をたぎらせたが、凄まじい速さで走って来た Albert 老人が、Toby に打たれて出血した耳の手当てをしてやりながら、彼女を優しく慰め、何という酷いことを Judy にしたのかと Toby を激しくとがめた。やがて、この象の眼から怒りの炎は消え、愛情深い Albert 老人に撫でられて、自己憐憫の涙を滲ませた。Judy は、自分が信頼している 2 人の男た

ちから優しくなだめられて自信を回復して、混乱状態から立ち直り、リングでいつもの演技を披露し始めた。しかし彼女が、まだ惨めな状態で、命令に従うのが遅く、演技のタイミングを外したり、すぐに放棄してしまうのを見て、Toby は初めて、こんな猛烈な暑さの中で、巨大な獣に体をあちこちに動かすよう要求することの残酷さを思って、Judy に心から同情し、暑さのために苦しんでいる象のために演技時間を短縮すると団長の Marvel に告げた⁷⁾、と述べられているので、未熟な若者であった彼が動物と一緒に仕事をするうちに感受性が豊かになり、人間としても成長して行ったことが窺われるであろう。

サーカスの前半と後半の間の休憩時間の午後5時過ぎにテントの外に出たとき、Sam Marvel は、遙か彼方の西の地平線上にそそり立つ不吉で巨大な黒い雲が空へ電光を放ちながら次第に近づいて来るのを見て慄然とした、とあるが、この迫り来る嵐を描いた場面の描写は、Gallico の作品で最もポピュラーな *The Poseidon Adventure* (1969 年) の中で、海底の地震によって発生した大津波が言語を絶する水の壁となって豪華客船に襲いかかる有様を描写した箇所⁸⁾ との共通点が認められるので、*Love, Let Me Not Hunger* の中でも、Gallico はパニック・スペクタクル小説作家としての才能を発揮していたと見なせるであろう。仮設興行に伴うあらゆる危機を乗り越えて来たサーカス団長 Sam Marvel は、経費節減のために労働力を現地で調達する方針のスペイン巡業を、その時点までは成功させてきたけれども、英語が分からず、緊急事態で指示通りに敏捷に行動できない未熟練労働者たちが引き起こす可能性がある大惨事については認識していなかった。「ポンド、シリング、ペニーと引換えに幾多の生命と安全を預かってきた」屈強の老練なイギリス人テントボス Joe Cotter でさえ、異国の異常な諸条件のもとで、迫り来る嵐の猛威と進行速度を正確には測定できなかった⁹⁾ と述べられており、Cotter のような有能な裏方を作品の中に登場させていることから、Gallico が長年サーカス・エンターテインメントの現場を綿密に観察してきたことが推し量られる。Sam Marvel は、(彼が演技中に事故で怪我をしたことは忘れていたが、スペイン語が流暢であることは記憶していた) 例の道化師を呼び出して、現地で雇い入れたスペ

イン人労働者から、嵐についての詳しい情報を聞き出した。そして、今の時点で公演を中止すれば客に料金を払い戻さねばならないが、本来1時間以上を要するはずの公演の後半を15分削れば、嵐が到来する前に興行をやり終わられるとMarvelは判断した。そこで、緊急時のためにショー内容（の前もって定められた箇所）を省き、スピードを速めて公演することを意味するサーカス用語“John Orderly!”の指令を発した

しかし、再開されたショーの後半では、テント内の熱気と近づきつつある大嵐への恐怖から、観衆も、演じる側の人間も動物もすべて緊張し、神経質になり、焦燥感がテント内に充満し、不安感と危惧の念が刻一刻と膨れ上がって、爆発寸前の状態であった。一方すでに述べたように、本業の動物の世話係だけでなく、サーカス公演での小道具係主任兼リング・マネジャーの仕事も命じられていたAlbert老人は、過重負担に加えて老齢のために暑気あたりもひどかった上、ショーの後半を所々省略しながら忙しく公演する準備をしているうちに混乱してしまい、しかもショーに関わりはあるが生まれつきのサーカス人ではなく演技も行なわない“josses”の部類に属し、サーカス・アーティストよりも低い地位であったので、彼の仕事が演技の邪魔になると、演技者たちに舞台裏で罵倒されても、ひたすら謝っていた。だが年老いた彼が、おが屑や砂の中を走ることによる過労を幾らかでも減じるために考案した奇妙な走り方でリング上を走り回りながらショーの準備をしているときには、フロックコートと山高帽という滑稽な制服が大いに役立ち、観客には、彼が演技者なのか、付き人なのか、道化師なのか、アクロバットを演じる人なのか全く分からず、従って彼を見慣れた後では観客はその存在を忘れてしまい、彼はショーの間中、いないも同然であったと記されているが、Albert老人のいでたちと所作は20世紀最高の道化師^{グロック}Grockの演技を記録した映画*Grock (La vie d'un grand artiste)*、監督Carl Boese, 1931)の中のGrockの姿とかなり似通っている¹⁰⁾点に我々は気づくであろう。

ショーの進行を早めるようSam Marvelからせき立てられて半狂乱に陥ったAlbert老人が、4人組の道化師が演じるドタバタ喜劇に必要な沢山のバケツの

水を運びながら走っていたとき、Jackdaw Williamsは自分でも理由が分からないのだが、そばを通り過ぎていく彼の前に足を突き出した。つまりいた Albert 老人は両手にバケツをぶら下げたまま、リングの中央に突進して、うつぶせに倒れ、バケツの一つは体の下に、もう一つのバケツは空中に跳ね上がって、中に入っていた水は彼の頭の上にぶちまけられた。(この演技と非常によく似た演技を前述の Clowns Michel (José-Mitchels-Trio) がヨーロッパ最高の名門サーカスである Krone ^{クローネ}サーカスで 2008 年～2009 年に披露している¹¹⁾。)驚いた観客は、どっと笑い、やはり、あの長い尻尾のコートを来た老人は道化だったのか、と思い当たった。彼の体は腹這いに伸び、眼鏡は倒れた衝撃で曲がり、おが屑は胸一面にくっついて袖の中にも入り込み、黒いフロックコートの中は、跳ね返った水でびしょり、という有様で、これほど滑稽なものを見た人は誰もいなかったであろうと思われるほどであった。そして、観客の中で最も大きな笑いの叫びは、リングサイド正面の席を占領していた、例の、顔中を塗りたくった巨大な肥満体の女の口から発せられた。Albert 老人の身にふりかかった不慮の災難は、観客を笑わせただけではとどまらず、4人の道化師にとって、自分たちの即興の妙技を披露する好機となった。この場面で Gallico が、道化師とは、馬鹿げたものやグロテスクなものに対する直観的理解力を持った創造的人間であるがゆえに道化師たりえるのだ¹²⁾、と定義しているのは非常に興味深い。4人の道化師はおどけた大声を上げながらリングに登場し、Albert 老人を起き上がらせて心配そうにおが屑を払い落としてやったかと思うと、小人の Janos が歓喜の叫び声とともに彼の頭にバケツの水を浴びせた。道化師たちが彼を立ち上がらせたり、あお向けに倒れさせたりした後、再び小人の道化師が凶暴な激情をこめてバケツの水を老人の頭の上にぶちまけた。その様子を眺めている太った女侯爵は、リングの縁から体を乗り出して、体を揺すりながら大笑いしていた。ここまでは、歪んだユーモアを表現した一種の半ば無害な即興劇であったが、それ以後は非論理的で悪意のこもった病的興奮へと発展し、無力な犠牲者に加えられる考えられないような仕打ちの凶暴さと不条理さが、抑制できなくなった観客の狂気じみた凄まじい笑い声を

背景として、滑稽な悪夢に転じた、と述べられている。すなわち道化師たちは、足芸を披露している二人の日本人曲芸師の上に Albert 老人を投げたので、彼の体は水しぶきを散らしながら空中で回転され、着地すると再び小人の Janos に水をかけられた後、トランポリンのキャンパスの上に投げ出され、反動で空中に跳び上がり、空中ブランコのバーにずぶ濡れの人形のようにぶら下がり、揺れているブランコから絶望的に手足をばたつかせながら空中に放り出された後で、遂にリング中央の四人の加虐者たちに捕らえられて、狂人のようにヒステリックに笑っている Janos から最後の 2 杯のバケツの水を浴びせられた。テントから聞こえてくる異様な騒ぎに引き寄せられてやって来た演技者たちも、激しい笑いの発作に引き込まれていた。Albert 老人の動作が極めて写実的に描写された上記の場面から我々が連想するのは、時として自虐的なまでの演技を行なって観客を爆笑させていた Charlie Chaplin^{チャップリン}の姿であろう。一方、幾らか冷血漢的な性格を持った Sam Marvel は、Albert 老人の受難と屈辱のために、テントの中の全ての人々が迫り来る嵐に対する緊迫感から解放されたことを知り、一種の残酷で非合理的な満足感を覚えながら、その場の光景に魅了されていた¹³⁾。しかしテントボスの Joe Cotter から天候の異変を知らされた彼は鋭い笛の音を発して、一瞬のうちにテント内に秩序を回復させ、4人の道化師は Albert 老人を連れて退場したが、物凄い拍手喝采がわき起こり、特に女侯爵は喜びに体を震わせながら、立ち上がって体を乗り出し、目前を通り過ぎる彼らに何度も投げキスを送っていた。

テントの外の光景は Marvel の血を凍らせるほどに不吉で不気味なものに変化し、近づきつつある嵐の深みから奇怪な雷の音が轟き渡っており、Cotter は、10 分か 15 分後には嵐が来ると予想したが、それでも営利第一主義の Marvel は最後の呼び物のライオン、虎、豹の猫族混成チームからなる猛獣芸を披露せずに客を帰せば料金の払戻しを請求される可能性があるかと危惧して、時間を短縮して公演させると命令を下した。この演技を指揮するのは Fred Deeter であったが、今回は Great Marco という名で登場し、Rose が助手の役を演ずることになっていた。サーカスの猛獣の Animal Act を披露するにあた

り、サファリのハンターの扮装をし、ピストルと椅子を左手に持ち、右手に鞭を振りかざし、敏捷な動作で有無を言わせず動物たちに芸を演じさせたことで名高い Clyde Beatty (1903年-1965年) のような調教師が一世を風靡した¹⁴⁾ 頃もあったが、現代では、当然、そのようなスタイルは観客からも動物愛護協会からも忌避されている。だが *Love, Let Me Not Hunger* に登場する Fred Deeter の衣装はまさしく Beatty と同じであり、「栄光ある野獣たちが屈辱的なポーズを取ることを強制されている」¹⁵⁾ ことに対して、Rose は常に惨めな思いがした、と述べられている。従って彼女は、嵐の襲来する前に観客をテントから退場させる必要上、猛獣の演技時間が縮められたことを内心喜んでた。紫色の稲光がざらざらと輝き、雷鳴がサーカスの音楽を消したために客だけでなく動物たちも哀れっぽい声で鳴いてたじろいだが、Deeter は無理やりに猛獣たちのピラミッドを作らせ、自分もその中央に入り、フィナーレの演技は終わったと述べられている。猛獣たちが作ったピラミッドの中に自ら入る演技を考案した調教師で最も名高い人は Frank Bostock のサーカスのライオンたちを指揮していた Captain Jack Bonavita である¹⁶⁾ ので、Gallico は、彼の伝説的な名演技から、物語の一場面を作り上げたと同推される。ところが最後の演目が終了し、Sam Marvel が一刻も早く客を避難させようとしたにもかかわらず、観客は最前列の女侯爵に敬意を表して、彼女が退場するまでは、誰も動き出さなかった。そして、彼女の命令で、後方の 150 席を貧民階級の子供たちのために買ってやっていた執事が、彼に近づき、「La Mancha の Pozoblanco 女侯爵が、あなたのサーカスにとっても楽しませてもらったので、感謝のしるしとして受け取って下さるようにとのことです。」¹⁷⁾ と素晴らしい英語で話しかけ、新しい紙幣で膨らんだ財布を渡したため、これまで冷笑的な態度で人生を送ってきた Marvel は初めて啞然とした。彼は、余りにも激しく笑ったために服装も化粧も乱れた醜い大女に向かって大袈裟なお辞儀をし、彼女がそれに応える仕草をした後で従者たちを従えてテントから出るやいなや、観客全員が嵐への恐怖から出口へ殺到した。女侯爵は、彼女の巨体が入り込めるように改造された古い型のロールスロイスに乗り、東方約 10 キロの高

台にある大邸宅へ戻って行った。Marvel は Cotter にテントを下ろすように命じたが、Cotter からもはや遅すぎると告げられて、Albert 老人が犠牲者となった災難を眺めているうちに時間を浪費したことを思い出したが、興行主の彼としては、観客を熱狂させる出来事があれば帰宅した彼らがそのことを周囲に宣伝してくれるので、爆笑状態を放置しておいた¹⁸⁾までのことであり、事実、その判断によって、大富豪の女侯爵から、多額の献金を得ることができた。しかし、いよいよ彼のサーカスが雷嵐の襲撃を受けて、存亡の危機に晒されようとした時点において、彼は彼の統率する小さな社会の指導者としては全くふさわしからぬ卑怯さで、自分のワゴンに閉じこもってしまう。そして、この嵐がもたらした落雷と火災により、Marvel のサーカスは壊滅的打撃を被ることとなる。

漆黒の闇と毒々しい紫色の稲妻を背景にしてサーカスの白いテントが立っている大地に雷鳴が轟いていたが、疾風とともに温度がたちまち 25 度も下がり、思いがけない寒さ、嵐の襲撃の突然の狂暴さ、そしてその襲撃の背後に潜む暗闇の恐怖は、野外での生活を常とし、自然の大変動を乗り越え、それに対処することに慣れているサーカスの人々を狼狽させ、誰もが悪魔に追われているような様相を呈した¹⁹⁾、と述べられている。しかし、勇敢なテントボス Joe Cotter は大暴風雨に対しては何の恐怖も覚えず、もう 1 時間あれば風に襲われる懸念のない地面にテントをおろすことができ、水浸しになる以上の被害を受けることはあり得なかったのに、逆に、嵐に抗ってテントをぴんと張らねばならない責務を負わされたことへの怒りと欲求不満を感じていた。テント興行を行なうサーカスの人々にとって、生活の糧としてのテントがいかに必要なものであるか、また、彼らのテントへの愛着と誇りがいかに強いものであるかは我が国のサーカス関係者と話せば非常によく理解できるし、アカデミー賞を獲得した映画 *The Greatest Show on Earth* (『地上最大のショー』、1952 年) と一大スペクタクル映画 *The Circus World* (『サーカスの世界』、1964 年) でも如実に描かれている。国際的に見て、サーカスの興行は、常設劇場や体育館など屋内での公演へと移行しつつあるが、ある日、突如として魔法のように出現

する祝祭の空間としてのテントは、それ自身が独特の小宇宙であると見なすことができる。そして、Gallicoのこの作品の中で、今やショーの生命と継続はテントボス Joe Cotter の双肩にかかっていたのだが、不幸なことに、危機状態では現地で雇用した未熟練労働者では何の役にも立たないと彼がかつて警告していた予想通り、スペイン人の労働者たちが一人ずつ逃げ出して行った。一方 Rose は、頭上の嵐の下で自分たちの家であるワゴンが余りにも小さく無防備な存在であることに慄然として、ワゴンをしっかりと胸に抱き寄せて守ってやりたいと思ったが、同時に純真な彼女の思いは自分が最も愛している Toby と動物たち一特に不安におののく小さな毛皮の動物たちに馳せられ、ワゴンの中に避難した後で「動物たちは大丈夫かしら！」とささやき、現実主義的な Jackdaw から、自分たちの身の危険を考えて、せいぜい鳥の世話でもしろと怒鳴りつけられた²⁰⁾と述べられている。このように作者 Gallico は *The Poseidon Adventure* におけるのと同様に、想像を絶するパニックに陥った人々の各々の心理を極めて綿密に描き出している。

リング上で災厄に遭遇して著しく体を疲弊したにも拘らず、Albert 老人は、恐れることも怯むこともなく、彼自身の生命である動物たちの身の安全を守るために懸命に働き、彼らの檻の上に蓋をかぶせていた。暗闇、ぎらつく稲妻、寒風の襲来、轟く雷鳴で気が狂ったように興奮していた猛獣たちは、信頼する老人の姿を見ると落ち着きを取り戻し、彼は「こんなちょっとした嵐で大騒ぎをするなら、もしジャングルにいたとしたら、どうするつもりなのか聞きたいものだね。お前たちの Uncle Albert と一緒にいれば、全く居心地よく安全だよ。」²¹⁾と彼らに語りかけた、と述べられており、献身的な愛情を絶えず惜しみなく注いでくれる人間とともに暮らすことが自然界の過酷な境遇では決して得られない心の支えを野生動物たちに与えてくれるのだと Gallico は、ここでも強調している。Albert 老人は自分が世話すべき移動動物園の沢山の友の住まいの上に垂れ幕を下ろして彼らを安心させた後、激しい労働で肺が燃えるように熱くなりながらも、サーカス用地の縁に繋がれていた象の Judy の所へ向かい、Judy は苦悶していた鼻を腕のように彼の方へ伸ばし、嵐の中で彼らは恋

人同志のように愛撫し合った。象が非常に鋭敏な神経を持った動物であることは *Manxmouse* でも強調されている²²⁾ が、このときの Judy も、山のように巨大な体にも拘らず、恐怖と興奮の余り、自分が Albert 老人の両手の中に入ることができるハタネズミよりも小さくなった気持ちで、彼に神経を静めて、守ってもらいたがっていた²³⁾。Albert 老人自身、自分がこれまでに遭遇したこともないような天変地異が起りつつあると感じて不安ではあったが、今や彼ら是一緒であり、もはや孤独ではない人間と獣であり、互いに慰め合うことができた。稲妻が彼らの頭上で炸裂したときに Judy は、リング上で調教師をカヴァーするのと同じ姿勢で静かにひざまづき、その腹の下に老人は急いで這い込んで身を守った。降り注ぐ霰がサーカスの人々の住まいの殆どの窓を叩き割ったが、Judy は氷の弾丸が皮膚と頭の骨を襲撃するのをものともせず、身動きもせず、辛抱強く老人を守る姿勢を取っていた。そして、サーカスの動物と人間との心の絆を描いたこの作品の中で最も感動的な箇所の一つは下記の引用部分である。

Albert 老人は象が守ってくれるので鎧で身を固めたのと同じ状態で、この大きな獣に、もっと身を寄せた…そして Judy は、まるで彼女の友であり保護者である人間の弱さを推測していたかのように、一層彼を守ってやるために、巻き上げた鼻を彼の頭上におろした。Judy が示した愛情のために、彼の心には幸福の大波が押し寄せた²⁴⁾。

このような Albert 老人とは対照的に、霰で住居の窓を破られたために、顔に顔料を塗り、様々な衣装をつけた人々が外に出て、体中を氷の粒に襲われて叫び声を上げながら逃げ惑って走り回る有様は、稲妻の白い閃光を背に受けた中世の悪魔の群れのようなものであった、と描写されているので、スペインの La Mancha 高原を舞台とした狂詩曲と解釈することができる。

一方 Sam Marvel は、霰が窓から吹き込んでくる自分専用のワゴンの中で、彼が生まれて初めて思い知らされた自分より大きなものの存在に畏縮しつつ、

彼の人生の転機について回顧していた。彼は約 15 年前に、当時はまだ珍しいものであったボーリング場が安く売りに出されたときに、それを買うことも可能であったが、サーカスを買うことにしたのだが、ボーリング場は今では大流行で、暑さ、寒さ、風、稲妻、そしてテレビにすら影響されることのない堅実に金儲けできるビジネスに成長していたので、自分がボーリング場の方を選んでいたなら、このような悪天候の夜にはビルの中でレジに向かって座り、片手間に煙草やソフトドリンクを売りながら、ぬくぬくと安全に過ごしていたであろう²⁵⁾、と想像したと述べられているので、金銭的幸福こそが自分にとっての理想的心地よさにつながると結論する彼と、献身的な愛情を捧げて動物たちをいたわり、彼らを守り、心地よくしてやることに幸せを感じている Albert 老人との間には、人間性において、天と地の隔たりがあることを Gallico は強調しているように感じられる。

テントボスの Joe Cotter は嵐の轟音も雷鳴も気にかけず、台風の中を航行する船の船長のように暴風の猛威に晒されているテントを見つめながら、テントを守るためにロープと支索ををいかに操るべきかを綿密に計算し、彼を手助けしていたのはイギリス人の熟練したテントマン、東洋人の曲芸師 Yoshiwara-Fu Tong 一座、アクロバットの Albanos Hunyadis 一座と、逃げ場を失って守ってもらうために仕方無く集まってきたスペイン人労働者たちであった、とされているので、日本人演技者たちが、異郷の地で、いざという時に勇敢な行動を取っている²⁶⁾ ことは見逃されるべきではない。Cotter はテントの崩壊を防ぐだけでなく、崩壊によって彼の部下たちが傷つかぬように配慮していたと記されており、サーカスの歴史の中で、1888 年に Barnum and Bailey のサーカスを公演中に襲った暴風が観客の頭上にテントのキャンヴァスを舞い上がらせ、支柱を空中に浮き上がらせる事故が発生したがテントマンたちが必死に努力して大災害を防いだ²⁷⁾ ことが知られており、1905 年には竜巻が Ringling Brothers のテントを襲い、多くの観客が負傷したという記録も残されている²⁸⁾ ので、Gallico は、こうした歴史的事実を背景にして、作品をつくりあげたのであろう。

やがて寒冷前線の通過とともに突如として嵐はやみ、テントの激しい揺れが静まって、人々は信じられぬ面持ちであったが、Cotter だけは敵をノックダウンしたが完全に自分が勝利者であると見極める前に相手がどんな格好で立ち上がるかを見定めようとするプロボクサーのように注意深い態度であった²⁹⁾、と述べられており、長年スポーツ記者として活躍していた Gallico らしい表現と解釈できる。そして Cotter がようやく安心したその瞬間に、二つの落雷のうちの最初の雷がテントを襲った。

Love, Let Me Not Hunger の第 11 章では、仮設興行のエンターテインメント・ビジネスとしてのサーカスが宿命的に被る最大の災禍である「火災」と「洪水」の猛威が、極めて写實的に描かれている。20 世紀のサーカス史を概観すると、「火災」に関しては、1910 年 5 月に Barnum and Bailey のテントが New York 州 Schenectady で公演中に火事に襲われたが 15,000 人の観客は無事に避難し³⁰⁾、1932 年 1 月にドイツの Sarrasani ^{サラザニ}サーカスがベルギーのアントワープでの大火災で 60 万マルクを越える物的被害を被り³¹⁾、1942 年 8 月に Ohio 州 Cleveland ^{クリーヴランド} で Ringling Brothers Cirus の移動動物園のテントの火事で 40 頭以上の動物が死亡し³²⁾、1944 年 7 月に同サーカスは Connecticut 州 ^{コネティカット} Hartford ^{ハートフォード} での公演中に大テントが火災に襲われて 168 名が死亡、約 500 名が負傷、多くの動物たちも死傷する³³⁾ という、アメリカのサーカス史上最悪の事故に遭遇した。更に 1961 年 12 月に Rio de Janeiro 州 ^{リオデジャネイロ} Niterói ^{ニテロイ} で、Gran Circus Notre-Americano の公演中の放火により、数分間のうちにテントが全焼し、323 人が焼死³⁴⁾ するというサーカス史上（のみならずブラジル史上）最大の惨事の一つが発生した。「洪水」に関しては、1913 年に ^{ハーゲンベック} Hagenbeck ^{ウォレス} Wallace Circus の Indiana 州 Peru にある冬季宿舎を洪水が襲い、ネコ科の猛獣全てが檻の中で溺死、300 頭の馬と 12 頭の象も溺死した³⁵⁾ 記録があるため、前章の「暴風」に続き、サーカスを襲う天災の猛威とその被害に遭った人々の苦悩が主題とされている。

まず第一の雷が右側の大柱 (King Pole) に落ちて真っ二つに切り裂き、テントの頂まで炎が燃え上がり、その直後に第二の雷がテントを引き裂いて侵入

し、木製の座席板とその支柱の土台で爆発したため、テントのキャンバス地の壁は、見る間に燃え上がった。落雷時にテント内にいた Joe Cotter は衝撃のため半ば目が眩んだが、同じようにテント内にいた人々を必死になって誘導して外に出し、ネコ科の猛獣の檻を積んだワゴンを避難させるよう、部下たちに適切な指示を与えた。大テントは地獄のような有様で、サーカス全体に水道の蛇口が一つしかないために消し止めることは不可能で、柱を這いのぼる炎は、見る者に畏怖の念を起こさせるような、美しくも恐ろしい様相を呈していた、と述べられており、想像を絶するこの場の光景は映画 *The Circus World* (『サーカスの世界』、撮影場所はスペイン) の中のテントの大火災を彷彿させるものである。*Love, Let Me Not Hunger* の中では、La Mancha 高原に位置する町 Zalano は家屋が石造りで、消火設備が全くなかったため、雨以外には大テントの猛火を打ち負かす手段はありえなかったのだが、ひとたび降り始めた雨は洪水を引き起こし、高さ 3 フィートの水の壁と黄土色の泥が町から道路を下って、サーカス用地に押し寄せ、住居用ワゴンを泥の波の中に押し流した。そして、無謀にもその濁流の中に飛び込んで Jackdaw Williams の鳥の入った鳥籠を取り戻そうとした Rose を Toby が救出した。日没の頃、雨の勢いは衰え、翌朝、見渡す限り晴れ渡った世界の片隅にサーカスの残骸が残っていた。

このような災禍に襲われて Sam Marvel が、興行の続行は不可能だと判断したのは当然といえば当然ではあるが、彼が余りにも冷徹な企業家の頭で、不可抗力の大災害を被ったサーカスに対する保険会社の損害補償の金額、動物たちをイギリスへ送り返すための手段、団員を帰国させることに関わる費用、彼らにどこか他のサーカスでの仕事を探してやらない限り支払わねばならぬければ契約金などについて極めて敏速に計算し、混乱を出来る限り安く收拾する方法を考えている³⁶⁾ 様子を Gallico が描写しているのは、いやしくも人の心を感動させるエンターテインメント産業に関わる事業者たる者は、金銭的利益よりも先に人道的見地に立って思考して行動すべきであることを、文学者の立場から痛烈に批判している証拠に他ならない。団員も動物たちも負傷していないこ

とを確認し、保険証券を再度照合して自分の損失が十分に償われると知って満足した彼が、一刻も早くロンドンへ行って支払請求をし、損害査定人を現場に連れてくることを考えていた矢先に、大災害と闘って憔悴し切ったテントボス Joe Cotter から、落雷したテントの中でスペイン人労働者が焼死したようであると聞かされて当惑した。そして、事態の深刻さを正しく認識してはいない Marvel が団員を集合させ、テント無しでは興行できないので巡業は打ち切るが、全ての損失を保険で賄えると告げている姿は、たとえフィクションの世界の創造物であるとしても、前記の映画 *The Circus World* の中でテントを襲った猛火と勇敢に闘い、テントがなければ野外公演を実施すると即座に決断した John Wayne が演ずるサーカス団長 ^{マット・マスターズ} Matt Masters や、アカデミー賞受賞映画 *The Greatest Show on Earth* (『地上最大のショー』、1952年、監督 ^{セシル B. デミル} Cecil B. DeMille) の中で、列車転覆事故で大テントが使用不能の状態に陥り、自らも瀕死の重傷を負いながらも公演を熱望する ^{チャールトン・ヘストン} Charlton Heston が演ずるサーカス団長 Brad Braden と彼の恋人で、その意を汲んで野外公演を指示し、パレードを町に繰り出させて、町中の人々を公演場所へ呼び寄せた ^{ベティ・ハットン} Betty Hutton が演じる空中ブランコの女性アーティスト Holly のような不屈のショーマン魂に満ちた姿とは正反対である。このような所から、人間としても、エンターテインメント企業家としても、Sam Marvel が矮小な存在であることが窺われるであろう。

Sam Marvel が団員全員を出来る限り早く帰国させようと熱弁を振るった直後に、Zalano の初審判事が、町長、武装警官とスペイン人の女たちを連れて訪れ、焼死者の遺品から、死亡したのが自分の夫であると未亡人が確認した。死因が不可抗力によるもので Marvel が興行主として雇い人の身を守る義務を怠っていたわけではないと立証されるための長期間に及ぶ科学的調査が必要となり、一週間にわたる予備現場尋問の後に、ひとまず Marvel と彼のサーカスの人々は現地を離れる自由を与えられたが、彼らの住居用ワゴン、衣装、動物たち、貨物自動車などのサーカスに帰属する財産全ては、団長の業務上過失致死罪の容疑が完全に晴れるまでは、抵当として Zalano に残しておく必要があ

ると命じられた³⁷⁾。そこで、大災害から1週間後、Sam Marvelは彼のMarvel Circusの1962年夏のスペイン巡業に関する最後の集合を実施し、彼がLondonから戻ってくるまでの間、現地に残って動物たちの世話をしてくれる有志者を募ったが、最終的には保険会社にその費用も請求できるにせよ、営利第一主義のMarvelはこの有志者たちへの支払いを出来る限り安くすませたいと考えていたし、焼死したスペイン人の未亡人への保証金と自分たちの帰国費用、そしてZalanoの町長への謝礼金を必要経費とした場合には、持ち合わせの現金では動物の餌代が不足することにも気づいていたが、餌代が尽きる前に、損害査定人が報告を完了し、^{バーミンガム}Birminghamの保険会社が全額を補償してくれば、貴重な動物たちを救い出せるだろう³⁸⁾という無謀に近い予測を立てていた。従って、僅か1週間分の餌代で動物たちを賄い切れると判断し、現場から自分が脱出することを優先させたSam Marvelが、いかに非人道的であったかが、この時点で明らかとなる。

サーカスの動物の世話をするためにスペインのLa Mancha高原に残留すると申し出たのは、動物たちのいる所が自分の家であるAlbert老人、賢い愛馬^{マルレーヌ・ディートリッヒ}Marlene Dietrichと堅い絆で結ばれた元カウボーイのFred Deeter、3匹の愛犬と引き離されるのが死ぬよりも辛い小人の道化師Janos、象のJudyと自分たち一家の馬の面倒を見ると決意したTobyの4人であったが、Marvelは、自分の所有するリヴァティ馬の世話もさせることにしたDeeter以外の3人には正当な賃金を支払わないと宣言した。Roseは、恐ろしい災禍のために、彼女が愛情を捧げてきた全てのもの—ワゴン車の家、動物たち、Toby—を失おうとしていることを嘆き、鳥を連れて行かぬよう命ぜられるはずだから残ろうとJackdawに提案したが、鳥は合図だけで自分の所に飛んで来るから心配には及ばないし、^{アムステルダム}Amsterdamで常設のサーカス劇場を経営している友人が仕事をくれるはずだから自分たちは下宿住まいをすれば良いのだと彼は告げた。Tobyは、Roseに自分と一緒に残ってくれと懇願したい衝動に駆られたが、所詮、自分の恋が白昼夢に終わったのだと悟り、一方Roseは、自分の炉床(hearth)と心(heart)を残したまま立ち去らねばならないと思うと涙がこぼ

れそうになった³⁹⁾、とある。

マドリッド パルセロナ
Madrid と Barcelona の間を運行する大型バスがサーカス団員を乗車させるために Zalano から迂回してやって来たとき、急いで出発しなければ最後の瞬間に許可が撤回されるのではないかと案じていた Sam Marvel は団員をせき立たせて乗せ、機動隊員からとがめられて既のテントに一旦止まらせていた Jackdaw Williams の鳥は、主人の合図とともに、走り去ったバスを追って飛び去った。

【注】

- 1) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.81.
- 2) *Ibid.*, pp.76-77.
- 3) James Otis Kaler, *op.cit.*, p.73., p.79.
- 4) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.80.
- 5) *Ibid.*, p.81.
- 6) 象の耳の縁は象にとって急所とされている箇所の一つで、後述する通り、この箇所をひどく突つかれたことに激怒して、世話係りの男を殺した実在の象も存在する。
- 7) Paul Gallico, *op.cit.*, p.85.
- 8) Paul Gallico, *The Poseidon Adventure*, p.27.
- 9) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.89.
- 10) http://www.circopedia.org/index.php/Grock_Video_Part_Two_1931. ; http://www.circopedia.org/index.php/Grock_Video_Part_Three_1931.
- 11) http://www.circus-krone.de/de/munich/winter_2009_1.html.
- 12) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.94.
- 13) *Ibid.*, p.96.
- 14) Charles Philip Fox and Tom Parkinson, *op.cit.* ; Noel Daniel (ed.), *The Circus : 1870-1959s* (Hohenzollernring : Taschen, 2010), p.253., p.283. ; John Culhane, *op.cit.*, pp.208-210.
- 15) Paul Gallico, *op.cit.*, p.99.
- 16) Edo McCullough, *Good Old Coney Island : A Sentimental Journey into the Past* (New York : Fordham University Press, 2003), p.198. ; Dale Samuelson with Wendy Yegoians, *The American Amusement Park* (St. Paul : MBI Publishing, 2001), p.31.
- 17) Paul Gallico, *op.cit.*, p.100.
- 18) *Ibid.*, p.102.
- 19) *Ibid.*, p.104.
- 20) *Ibid.*, p.106.
- 21) *Ibid.*, p.107.
- 22) Paul Gallico, *Manxmouse*, p.113-116.

- 23) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.109.
- 24) *Ibid.*, p.110.
- 25) *Ibid.*, p.112.
- 26) *Ibid.*, p.113.
- 27) Howard Loxton, *op.cit.*, p.31.
- 28) *Ibid.*, p.31.
- 29) Paul Gallico, *op.cit.*, p.114.
- 30) Stewart O'Nan, *The Circus Fire : A True Story* (New York : Doubleday, 2000), pp.9-10.
- 31) E. ギュンター著, 前掲書, pp.167-168.
- 32) Stewart O'Nan, *op.cit.*, p.15.
- 33) John Culhane, *op.cit.*, p.249. ; Howard Loxton, *op.cit.*, p.31. ; Stewart O'Nan, *op.cit.* ; <http://www.hartfordhistory.net/circusfire.html>
- 34) http://www.listzblog.com/top_ten_deadly_fires_history_list.html
- 35) Howard Loxton, *op.cit.*, p.31.
- 36) Paul Gallico, *op.cit.*, p.118., p.127.
- 37) *Ibid.*, p.138.
- 38) *Ibid.*, p.139.
- 39) *Ibid.*, p.142.

Ⅲ サーカスの動物たちを襲った餓死の惨劇についての考察

Sam Marvel は, Zalano を発ってから 1 カ月イギリスに帰国後 3 週間を経ても Chippenham の自宅には戻らず, Birmingham の安ホテルに滞在して, 保険会社との折衝を行っていた。保険金支払いに, 彼の予想以上の日数を要した最大の原因は, 火事で死者が出た事実を彼が申請書に記入していなかったことが問題となり, 更に警察での死因の調査がかなり長引いているためであった。彼は, テレビを相手に苦戦中の同業者たちの誰よりも狡猾に立ち回り, スペイン巡業へ出かけて成功を収める計画であったので, この遠征が失敗に終わったことを, サーカスやカーニヴァルや各地を巡業するショービジネスに携わっている人々に知られたくないと思い, 彼のサーカスが遭遇した大惨事について業界紙が何も報道していない事を知って安堵した¹⁾, と述べられている。このような彼の焦燥感や挫折感に対して我々は充分共感することができるが, 帰国後, 時が経つにつれて, 彼がスペインに残してきた 4 人のことを次第に

気かけなくなり、その上、動物たちのために僅か1週間分の餌代しか渡さなかったことを都合よく忘れてしまったという事実には愕然とさせられるであろう。結局、彼の心を占めていたのは娯楽企業家として最も確実な利益を上げられるものへの出資ということだけであり、あらゆる人々の心と五感を魅了するライブ・エンターテインメントとしてのサーカス芸術の柱となるアーティストや動物たちへの親密な愛情を彼が全く抱いていなかったことが、この時点で明らかにされている。そして、彼の心は、もはやサーカスからは完全に離れてしまい、映画、フットボール、競輪、競馬などの、全ての種類の視覚に訴えるエンターテインメントがテレビという新しい媒体によって絶滅の危機に瀕している中で、唯一生き残りうると彼がかねてから予想していたボーリング場を手に入れることを考え始めていた。

一方、Jackdaw Williams とともに Madrid から Amsterdam へ向かおうとしていた Rose は、彼女に対して絶望的なまでの激情を秘めている Toby、彼女を慕ってくれる沢山の動物たち、彼女と動物たちとの愛情の交流を認めてくれた Albert 老人、清潔で居心地よく自分が作りあげたワゴンの我が家への強い愛着から、遂に Jackdaw と別れることを決意した。そして Amsterdam で確実に職を得られるかどうか不安であった Jackdaw は、もはや Rose を引き止めようとはしなかったため、彼女は、ろくに物も食べずに、3日間の困難な徒歩の旅を続けた後に Zalano の仲間たちの所へ戻ってきた。Albert 老人と動物たちは彼女の帰還を率直に大喜びして彼女を幸福にしたが、Judy だけは、かつての敵への復讐を期待する表情を目に浮かべていた。大食漢で美食家の小人の道化師 Janos にとっては、Rose が戻ったために自分の食料の分け前が減ることが問題であり、カウボーイあがりの Fred Deeter は Rose を自分のものにしたという気に駆られたが、Toby は Deeter の機先を制し、傲慢とも言える態度で Rose のスーツケースを自分のワゴンに運び込んでしまった。その日の夜、Toby は、抑圧され続けてきた Rose への渴望を解き放つことができたものの、彼の頭は家族が抱いていた Rose への激しい偏見で汚され、また、彼自身の人生経験が不足していたので、彼女の精神的高貴さには全く気づかず、彼女の無

邪気さが処女性と似通ったものであることを理解できなかった²⁾。しかし、Rose は新しい家の主婦として、Toby に献身的に尽くし始めた。

サーカスの5人の人々と沢山の動物たちに襲いかかった飢餓は日一日と厳しさを増し、空腹な動物たちが上げる地獄さながらの抗議の泣き声が夜中続き、町の住民の良心の扉を叩いたことに加えて彼らの眠りを妨げたために、サーカスの人々と動物たちは、町から約半マイル離れた、塙で囲まれた農家の廃墟に立ち退かされた。3週間経っても Marvel から何の便りもないので、5人は動物たちの食料を得るために、自分たちの乏しい蓄えを出し合い、金目になりそうなものも売った。彼らからの救済の要請に応じて、Zalano の当局者は Madrid の動物愛護協会に問い合わせたが、この協会は活動休止状態であったに違はなく、何の回答も無かった。Zalano の町自体が困窮状態であり、嵐が農作物と牧草を壊滅させたので、町の人々の目の届かぬ場所へ追いやられたサーカスの人々の窮状を思いやる余裕もなかったが、親切な Perrera 判事^{ベレーラ}の取り計らいにより、サーカスの所有者が戻って来るか送金してくるまで、裕福な家庭のもてなしにより、5人全員が1日に1度食事をさせてもらえることとなった。しかし毎晩聞こえてくる飢えた動物たちの訴える声が、体力の衰えとともに哀れなすすり泣きのように変わって行くことが彼らの責務の恐怖感を煽り、彼らは何とかして動物たちの食料を得ようと全力を尽くした。空腹に耐え切れなくなった象の Judy が農家の腐った屋根を剥がして食べようとしており、木の破片が象の胃に刺さって死んでしまうのを防ぐために Toby は Judy から屋根のかけらを奪い取ったが、桶一杯の水を飲ませてやることしかできなかった。新しい寝藁を敷いてもらえずに檻の堅いむき出しの床の上で寝ているため、かつて優美であった獣たちがやせ細り、皮膚病を悪化させて、無残な姿に変わり果てて行くのを見る苦悶にサーカスの人々は耐え切れず、出来る限り清潔にして傷の手当てをしてやろうとしたが、何の薬も持っていなかった。Rose が最も愛していたのは、かつては光り輝いていた虎であったが、彼女の心を最も嘆かせたのは、自分を憎み、殺そうと試みた象の苦痛を目の当たりにすることであった³⁾。象の涙は、象が力強く畏敬の念を起こさせような獣

であるために遥かに悲痛なものであり、人間の勇者が崩れ落ちてすすり泣くさまを思い起こさせるものだった⁴⁾と描かれている。

Love, Let Me Not Hunger の第 16 章は、この作品の中で読者の心を最も沈鬱な状態に陥らせるものであるが、生涯を通じて、動物への深い愛情を創作のテーマとした Gallico でなければ決して書くことができない極めて個性的な場面でもある。すなわち、言葉で語るができない飢えの苦しみを、動物たちは緑、金、褐色、薄茶色の目という心の鏡によってサーカスの人々に伝えた⁵⁾のであった。動物たちを自分たちの生活の実用的手段として合理的に解釈して暮らしてきたサーカスの人々であっても神人同形同性論に傾き、動物たちの惨めな境遇を人間の場合に置き換えて考えて激しく苦しみ、動物に深い親愛の情を抱く人々にとって、動物の苦悶は我が身の苦悶と全く同じものになる⁶⁾ことを Gallico は強調している。

昔から馬に乗ることで生計を立て、馬のおかげで生きてきた Fred Deeter は、同時に馬たちがどれほど自分を頼りにしているかを知っており、もし馬が彼の奴隷であるとするれば、彼もまた、馬たちの召使として生涯を送り、病めるときも健やかなときも彼らの世話をし、彼らのために尽くしてきた。常に人間に対するよりも馬に対して優しく誠実であった彼は、生気を失いつつある馬たちが「飢え」という非運に黙々として耐えているのを眺めながら、彼らの発している無言の非難に対して、耐え難い罪深さを覚えていた。Deeter の美しく知的なパロミーノ種の愛馬 Marlene は、彼が教えた通りに前足を突き出して握手する身振りをして「ほら、握手しているんですよ、食べ物を下さい。なぜ私をこんな目に遭わせるのですか？」⁷⁾と語りかけているようだったので、最も彼の心を苦しめたが、Walters 一家の鈍重なロジンバック種の馬も含めて、全ての馬に対して、彼は愛情を感じていた。

不具で奇形のハンガリー人の小人 Janos は、大食と美食がグロテスクな外観に生まれついた自分の惨めな運命の償いの役を果たしていたので、彼自身の激しい空腹ゆえに、彼の犬たちの窮状を一層深く理解していた。飢えれば先祖返りをして野生に戻ることもあり得たグレートデーンが、Janos が注いだ愛情と

優しさで狂暴な本能を根絶され、痩せ衰えながらも主人への確固たる信頼を抱き、飢えた非難の眼差しで、彼の一挙手一投足を、期待に満ちて見つめている⁸⁾とき、彼の心の中に狂暴で陰險な企みが生じた。

Toby は Rose のそばで空疎な思いで横たわっていたときに、苦悶する動物たちの呻き声や彼らの立てる様々な物音に耳を傾けながら、かつて自信に満ちた自分が Judy とともに堂々とリング内で演技を行っていた頃のことを思い出して「あの象が萎んでいく有様には耐えられない！」⁹⁾と突然叫んだ。それを聞いた Rose は、前述のように、彼女自身、巨大な象が皮膚の鬚の内側から萎んでいくのを見ることに良心の呵責を感じていたので、Toby の胸の上に優しく手を置き、「ああ Toby、かわいそうに。私にはよく解るわ。」¹⁰⁾と囁いたが、彼は、動物たちとともに長く苦楽を共にしてきたわけではない彼女に、自分の気持ちが分かるものかと叫んで涙をこらえていた。Rose は Toby ほど長年でないにせよ、自分の心を捧げて動物たちを愛してきたのだが、この瞬間、彼には自分のように暖かく全てを包含するような愛情を経験することができないのだと感じて、一層彼を不憫に思った¹¹⁾と述べられている。Gallico の作品の中で Toby と最もよく似た人物の一人と考えられるのは『トマシーナ』の主人公の獣医 MacDhui マックデューイ 医師であり、人にも動物にも心を閉ざしたこの頑なな獣医師の魂に人間愛の貴さを教えた森に棲む若い女性 Lori ローリ（彼女は魔女であるとも、聖女であるともみなされているが、魔女と聖女が紙一重であることは歴史が証明するところである）と天使のような純潔な心を持ちながらも娼婦と蔑まれている Rose の間には多くの共通点が認められる¹²⁾。Lori ほどの知性は持たないにせよ、Rose は、余りにも美しく感動的な存在であった動物たちが食物を得られないために威厳と誇りを失い、運命に屈して、残酷かつ無意味に崩壊して行く悲劇に胸を痛めた。彼女の心は、自分を友として受け容れてくれ、彼女の若い人生に初めて意義を与えてくれた動物たちを襲った惨劇に対する怒りに満ち、本当に彼らを救う手立てはないのかと考えていた。

Zalano に残ったサーカスの人々のうちで餓死に瀕した動物たちのために最も苦悩したのは、紛れもなく Albert 老人であった。挫折の連続であった彼の

人生の中で唯一とも言える近い存在であった動物たち全ての無言の叫び声が、彼自身の心の耳に、はっきりと、果てしなく何度も繰り返して聞こえてきた。

「我々はどうしたら良いか解らない……どこへ行ったら良いのか、何をしたら良いのか解らない！誰もそばに来て、食べ物してくれないし、自分たちがどうなるのか解らない……お腹は空っぽだ。誰も来てくれないし、誰も世話をしてくれない。以前は、あんたがいつも世話してくれた。今では、あんたの手の中には何もない……皆、怖がっている！…皆、檻の端から端まで千回も行き来したが、他に行く所も、することもない。お腹がすいている……おお、人間よ、人間よ、人間よ！何故、こんなことが起こるんだ！…何故、もう食べ物がないのか？…我々がどうしたら良いのか教えてくれ？」¹³⁾

Albert 老人は、かつて突然、老齢が自分に襲いかかり、行く場所もなく、それをどうすることもできず、誰も自分の世話をしてくれないことが避けたいと知ったときの彼自身の恐怖と絶望感と助けを求める自らの魂の奥底からの叫びと、現在の飢餓に苦しむ動物たちの無言の叫びが一体になっていることを痛切に感じていた。そこで彼は、孤独な自分の老後の最後の蓄えとして大切に持っていた6ポンドを仲間の前に差し出した。Albert 老人は自分の金が動物たちの食料の購入にあてられることを望んでいたのだが、彼らの指導者的役を果たしている Fred Deeter は、Sam Marvel の Chippenham の自宅に電話をかけ、動物たちの全滅を防ぐために至急送金するように直接要請すると主張した。Zalano の町の郵便局から Deeter が長距離電話の申し込みをした後の約1時間半後によく通じた電話で、彼は Marvel 夫人と話すことができたが、彼女は既に帰国しているはずの夫に会っておらず、スペインで巡業していた夫のサーカスが焼け落ちたことも、彼の現在の居場所も知らなかった。Albert 老人が提供した金の半分以上は電話をかけるために費やされたが、残りの金をどう使うかについて Deeter, Janos, Albert 老人が口論した末、Deeter が馬たち

のための牧草を購入すると決めたので、Janos は自分の犬たちが見捨てられたことで Deeter を深く恨んだ。そのため Janos は、遂に Deeter の愛馬 Marlene を殺して、その肉を犬の餌にしようと企んだのだが、興奮しており、馬小屋の中が暗かったために、Sam Marvel が所有するリヴァティ芸用の馬を殺すという結果になった。8月のスペインの暑い夜の静寂を引き裂いて起こったこの事件は *Love, Let Me Not Hunger* の中で酸鼻の極みに達するものであるが、サーカスの5人の人々が凄まじい極限状態に追い詰められていることを立証している。断末魔の馬の絶叫に驚愕した Toby が馬小屋の中を懐中電灯で照らすと、包丁で軽静脈を切られて生命を奪われ、横倒しになった馬に跨がっている Janos の姿が浮かび上がり、その小人の姿は「戦慄するような戯画として描かれた智天使」のようにも「白い裸の怪物ガーゴイル」のようにも見えたと描写されている¹⁴⁾。そして、横倒しになった馬の死体とその上に乗っている小人のグロテスクな姿が（馬が膝をついて横になり、乗り手の足下で死んだふりをする）高等馬術の笑劇を思い起こさせるものであった¹⁵⁾ という記述から、死の恐怖が支配するこの場面をサーカスの恐ろしいパロディを連想させるものとして Gallico が描いていることに我々は慄然とさせられる。Deeter は小人が彼の Marlene を殺したのだと思い込んで Janos を射殺しようとしたが、Toby が彼を殴って拳銃の狙いを外させ、一方、自分の愛馬の無事を知った Deeter は安堵の思いを押さえ切れずに泣き出した、とある。Rose は、以前の惨めな生活の中では知ることがなかった美をサーカスの生活の中で知ることができたので、哀れな馬を死から蘇らせ、見事な芸を披露していたときの美しい姿に戻してやりたいと切望した。そこで、このとき Albert 老人の顔に奇妙な食欲さの表情が浮かんでいるのを見て、彼の考えが一瞬にして分かったので愕然としたが、彼女は、自分がごく最近身につけた「憐れみ」という感情をわきに押しやり、苛酷な現状のもとでは、まず第一に「生存」を優先させねばならないのだという考え方に立ち戻り、Albert 老人と同様に、彼女の愛する虎を初めとする猫族の猛獣たちに、その馬の肉を食べさせてやることを認めざるを得なかった。銃声を聞きつけて訪れたスペイン人の警官が詰問すると、全く平静な状態

に戻っていた Deeter は、自分たちの動物に食わせるために馬を殺したのだと南部訛りのスペイン語で説明し、サーカスの全ての財産が差し押さえられている以上、判事が翌朝事情聴取に来るまでは馬の死骸に手を触れるなど命じる警官を巧みに退散させてしまった。

以前の冷静さとリーダーシップを取り戻した Deeter は、Toby と Albert 老人に手伝わせて直ちに馬の解体作業を開始し、サーカスの人々は、血の匂いをかぎつけて半狂乱になっている肉食動物たちに餌を与えた。動物たちが馬肉を貪り食っているのを見て満足した Rose は、殺された馬のことを忘れ、彼女には、その肉が「大通りの肉屋にぶら下がっているのと同じ、ただの肉に思われた」¹⁶⁾ と描写されており、Gallico は、現実には人間社会にも共通する弱肉強食の掟を Rose 自身が受け容れたことを暗示していると推察される。一方、これまで仲間と比較して最も矮小な存在として軽視され続けてきた Janos は、窮地に立たされれば平然と他人の馬を殺すほどの行動力を備えていることを証明して以来、非常に大きな存在と見なされるようになった。そして Deeter は愛馬が犠牲になることがないように、また Toby は一家の生計手段である馬たちが殺されぬように、見張る必要を感じた。

翌朝、サーカス残留者たちを訪れた初審判事は、Madrid の病理学者たちの報告に基づく裁判所の判決によって、スペイン人労務者の死因は落雷による事故死であり、Sam Marvel の業務上過失致死罪の容疑は完全に晴れたので、彼らには、動物たちと装備を伴って現地を離れる自由がある¹⁷⁾ と伝えた。だが判事が彼らに上の知らせを急いで告げに来た真の理由は、これまで彼らを食事に招待してくれた現地の慈善家たちが出費を嫌がるようになってきたので、早く立ち退かせるよう判事に督促してきたからであった。Fred Deeter の怒りは爆発し、自分たちが一文無しで、偽善的な動物愛護協会からの支援も得られず、肉食獣を生かすために有芸動物の馬を殺さざるを得ない極限状態に追い込まれ、サーカス経営者 Marvel とも連絡が取れない以上、到底出発など不可能であると極めて論理的に主張した¹⁸⁾ ので、判事はやむを得ず、当分の間の彼らの滞在を認めた。しかし、これ以後、彼らの悲惨な境遇は、役人たちの間で

の責任のなすり合いだけの問題と化し、Zalanoの町の人々とは直接関わりない問題として風化されて行った。一方、誰かが夜通し見張らない限り、再び自分の犬の命を守るために小人が馬を殺す可能性があったため、人間の彼ら自身「食物」と「眠り」を奪われて、心身共に憔悴する結果となった¹⁹⁾。

やがて Deeter は、皆が窮地を脱する資金を得る手段として Marvel のリヴァティ芸用の馬たちを Madrid で高く売するために連れて行くと提案し、華やかに盛装した 8 頭の馬を従え、カウボーイ姿で愛馬に跨がった彼を、Albert 老人、Janos、Toby、Rose の 4 人は町はずれの道まで見送った。しかし他の連中の目は欺けても、無責任な人々から騙され続ける不幸な流浪生活を送るうちに人間の本性を見抜く直感を身につけていた Rose だけは、Deeter が決して自分たちの所へは戻らずに逃亡するつもりだと悟っていた²⁰⁾。そして彼女の予想通り、Deeter は、Madrid まで行く途中で小さな村の広場で短時間のショーを行なって見物人から金を集めた後、Madrid の常設サーカス劇場 シルコ・エスパニョール Circo Español でリヴァティ馬たちを売った金 600 ポンドを着服し、愛馬 Marlene Dietrich とともにベルリンへ行って Wintergarten、後に Zirkus Hagenbeck (ハーゲンベック・サーカス) で職を得たが、Zalano の 4 人へは全く連絡などしなかった。Deeter は決して極悪非道な男ではないし、最終的には動物芸で世界第一を誇るハーゲンベックの団員になった、と作者 Gallico が記していることから見ても極めて優秀なサーカス・アーティストであったと言えるが、極限状態に陥った彼の胸中にあったのは、あくまでも彼自身と彼の愛馬の幸福だけであり、餓死に陥りつつある仲間やサーカスの動物たち全てを救おうという意思は全くなかったのであった。

さて、4 人が Deeter を見送った十字路のそばには、周囲の古風な宿泊施設とは正反対の趣きのネオンサインに彩られた、現代的ではあるが、どこかいか
ラス・フローレス Las Flores があった。そして、そのホテルに付属したバーへ車でやって来た遊び人風の町の男たちがサーカスの人々に目を向けたが、彼らが注目していたのは、女性的な魅力に満ちた Rose の姿で、男たちの一人が彼女の注意を引くために口笛を吹いた²¹⁾、という描写から、注

意深い読者であれば、今後のストーリーの展開についての最悪の予測を立てることが可能である。一方、別の見方をすれば、イギリスで長い放浪生活を送っていた間は男たちを魅惑するような存在とは程遠かった彼女が、ごく短期間のうちに心身ともに理想的な女性へと成長したのは、サーカスの生活の中で、もともと彼女の心の中にあった人間らしい優しさと Toby に対する献身的な愛情が、彼女の外観をも変貌させたためであろうと推察できる。このような点で、Rose は Gallico の *Love of Seven Dolls* に登場する Mouche や *Scruffy* に登場する Felicity のような女性たちと共通している²²⁾。しかし、*Love, Let Me Not Hunger* においては、Rose が新たに獲得した美貌が、彼女を決定的な不幸に陥れ、死よりも残酷な試練を彼女を与えることとなる。

幾らか冷笑的な態度はあるにせよ皆のリーダーであった Deeter が戻ってくるであろうという希望的観測を抱いていた 3 人の男とは異なり、Rose は、残された者たちは、直ちに仕事を探す必要があると主張し、特に、自分に敵対心を持っている象の Judy が飢えのために突然死する可能性があることを案じ、「あんたが私を受け入れてくれさえすれば、私は、あんたを愛してあげられるのに。」と言っている彼女を見て、Toby は嬉しさを感じていた。Rose との暮らしは最初 Toby に罪悪感を与えたが、彼女との生活を営むうちに、彼女が優しく、親切で、可愛らしく、賞讃に値する存在であることが明らかになり、心の中にどんな汚れもなく、純真で、品があり、寛容な性格であることが解ってきた。彼女がかつて不潔な Jackdaw と関係を結んでいたことを知らなければ、誰もが Rose を自分に相応しい女性と認めるだろうと Toby は想像し、彼女が自分に一人前の男としての自信と誇りを与えてくれたことに対して感謝に近い感情を抱いていた²³⁾、と述べられているので、両親が彼に植えつけた Victoria 朝時代的な道徳観の束縛から次第に解放放たれて、彼が Rose を愛するようになって行った経緯に注目すべきであろう。

Albert 老人は 3 人が仕事探しに出かけている間、動物たちの世話をし、出来る限り清潔にし、傷の手当てをし、水をやり、飢えた動物たちを親愛の情で慰めてやっていた。だが、言語の障壁に加えて、この地域に最近の嵐が及ぼし

た甚大な経済的被害のために、誰も職を得られず、その日の夕方に戻ると、小鹿、イボイノシシ、アカゲザルが飢死していた。悄然とした Albert 老人は彼らのために墓を作ってやろうと考えていたが、Janos は死んだ動物たちの遺骸を自分の犬に食べさせると要求したため、Toby は、小人の道化師への嫌悪と軽蔑に駆られた。死んだとしても人間の赤ん坊にそっくりで、しかも大して肉などない猿を犬の餌にすることなど、彼には到底考えられなかった²⁴⁾。ところが意外にも Rose が、死亡した動物たちの肉を皆に分けてやろうと提案し、次に、十字架に誓うような熾烈さをこめて「私が仕事を見つけるから、あなたの象にも食べさせてやれる。」²⁵⁾と Toby に告げた。男性にとって魅力的であるが無一文の女性である Rose に見つけられる仕事がどのようなものであるか、世間の荒波に晒されずに育ってきた青年 Toby は、この時点では全く気づいていない。しかし我々は、Rose が、どんな境遇のもとでも必死で守り続けてきた魂の純潔を愛する動物たちの生命を救うために犠牲にし、自らは生ける屍となっても、彼らへの燃えるような愛に殉じたいという悲壮な覚悟を固めつつあったと推測できるであろう。現代社会のいかなる動物愛護団体も、動物の権利を擁護する活動家たちも御都合主義的な側面を持ち、所詮は人間優位の立場から動物を保護するという視点にしか立っておらず、Rose ほどの熱誠をこめて、完全に同等の友あるいは家族という立場から動物の生命を守ろうとはしてはいないことを主張するために、サーカス小説作家・動物小説作家で Paul Gallico は、Rose という聖女を登場させたのであろう。その意味において壮絶極まりない *Love, Let Me Not Hunger* が間違いもなく Gallico の最高傑作であることは間違いない。

翌日の夕方、スペイン人の農夫が「赤い頭のお嬢さん」から頼まれたのだと言って、荷馬車に載せた約 300 キロの牧草をサーカスの動物たちに届けに来た。Toby と Janos は長時間の辛い農場労働に従事したが僅かな賃金しか得られず、彼らよりも遅く戻ってきた Rose は、Las Flores のレストランでウェイトレスの職を得て大勢の客から沢山のチップをもらったので、牧草を購入できたのだと言葉少なく説明した。しかし、彼女の精神が常軌を逸した方向に向か

いつつあることを証明するのは、彼女自身も Albert 老人も可愛がっていたカンガルーの Pockets がその日に餓え死にしたことを聞かされ、Toby と老人がカンガルーを埋葬してやろうと提案したときの彼女の言葉である。

「彼女 (Pockets) は死んだのよ。死んだ以上、それ (遺骸) はもう Pockets ではないのよ。残っているのは肉だけよ。皆—私たち全員が、しなければならないことをやらなければならないのよ。たとえどんなことであっても、彼ら (生きている動物たち) のために最善のことを行なわなくてはならないのよ。」

この突然の冷酷さ、彼女の優しさの下に微かに現われた鉄のような頑さは、Toby と Albert 老人に衝撃を与え、啞然とした老人は何も言えなくなってしまった²⁶⁾。

心暖まるサーカス小説 *The Day Jean-Pierre Joined the Circus* (1969 年) の中で、カンガルーの優しさと愛らしさを叙情的に描き出した Paul Gallico 自身が、その小説の 6 年前に発表された *Love, Let Me Not Hunger* の女主人公 Rose に、上のように恐ろしい言葉を語らせていた理由は、極限状態に陥った Rose が、生き残っている動物たちを一日でも長く生きながらえさせるために彼女の全てを捧げたことを読者に訴えるためであったと推察される。とは言え、自らも動物をこの上なく愛し、動物と人間との心の交流の美しさを生涯、創作の主題とし続けた Gallico は、女主人公 Rose に余りにも痛ましい犠牲を払わせたことに対する一種の償いとして、のちに *The Day Jean-Pierre Joined the Circus* という大人も子供もさわやかな感動を覚える美しいロマンスを書いたのであろう。

Toby と Janos の農作業や下水工事の労働は長時間低賃金労働で、最も収入の多かったのは Las Flores での宴会などで多額のチップを手に入れられたのだと語っていた Rose であったが、決して十分な収入は得られず「人間と動物の双方の体力失わせつつある緩慢な飢餓状態を長引かせている一時しのぎに過

ぎなかった。」²⁷⁾ 経済的・財政的・社会的陥穽に陥れられ、生来は心の温かな Zalano の住民からも見放されたサーカスの人々は、勇敢に、根気強く、負けいくさを続ける以外、なす術もなかった。動物たちの生命を救うために絶対的に必要とされるのは食料の購入に相当する金額の金であった。Albert 老人は動物たちの世話をし、食料を公平に配分し、安い値段の食物をうまく入手し、動物たちに愛情を注いで生きる希望を与えてやったけれども、自分が金を稼いでいないことを心苦しく思っていた。長い歳月と金と努力がその訓練に費やされた動物たちはサーカスの貴重な財産であっただけでなく、動物たちは、Albert 老人の命であり、彼の人生に残された唯一のものであった²⁸⁾。

Albert 老人は自分たちの窮地について熟慮するたびに、Marvel Circus の宿命的な最終公演で見た醜悪極まりない容貌の女侯爵のことを思い出した。Zalano 近郊に住む大富豪の彼女は 16 世紀のスペイン女王に匹敵する暮らしをしており、貧しい子供たちを喜ばせるために沢山の切符を買ってサーカスを見せてやった。そして Albert 老人を天才的な道化師と勘違いした彼女は、彼の「演技」に気も狂わんばかりに笑いころげ、彼女からの特別な贈り物として執事に命じて Marvel に多額の金を贈らせた。しかしリング上での思いがけぬ災難に遭遇したに過ぎなかった老人にすれば、彼女は自分の受けた侮蔑と屈辱を嘲笑した、戦慄すべき忌まわしい怪物としか解釈できず、その上、事故で負傷した道化師の血を見て興奮した彼女の表情も決して忘れてはいなかった。従って、スペインで最高の金持ちの一人であるとはいえ、人々から畏怖の念をもって見られている残酷で野蛮な怪物のような女に対して、餓死に瀕している動物たちと彼らを愛し、彼らとともに苦しんでいる仲間たちの救済を嘆願したとしても一顧だにしてくれないのではないか²⁹⁾、と彼は幾度となく思い悩んだ。さらに、人生経験豊かで、老齢と失意の数々にも関わらず、決して見た目ほど愚かではなく洞察力に優れた Albert 老人は、あれほど暖かい愛情を動物たちに注いでいた心優しい Rose がカンガルーの死を知ったときに示した非情な態度に当惑したものの、彼女が動物たちの命を救うために支払っているはずの余りも大きな代価を察知して悲しみの淵に沈むとともに、そのために一層彼女を

賞賛し、高く評価するようになっていた³⁰⁾。彼は苦悩と失敗の人生を送ってきた点で自分の妹とも言える Rose の中に自分の反映を認め、彼女の勇氣と心の暖かさゆえに、この娘を深く愛してきた。彼は Rose の Toby への献身的な愛情と、その愛が Toby を一人前の男に成長させつつある過程を暖かく見守っていたが、この若者たちの愛が幸福な結末を迎えられないのではないかという恐怖と憂慮が彼の心を暗くしていた³¹⁾、と述べられている。数ある Gallico の作品の中で、最も思慮深く、最も叡智に富んだ登場人物の一人が、この Albert 老人であることを我々は忘れるべきではない。彼は、英語しか話せない Rose がスペインの片田舎の路傍のレストランで、客の注文を取れるはずはないと訝しんでいたため、この不吉な予感が正鵠を得ているかどうか確認するために、町から少し離れた幹線道路沿いのホテル兼レストラン Las Flores を訪ねることにした。彼は、建物の周囲や店内を注意深く観察したが、大型遊覧バスも旅行者たちも見えず、リムジンとスポーツカーが駐車しているだけで、うらぶれたレストランの中に Rose の姿は見えず、バーの方から客の男たちと話している酒場女の嬌声しか聞こえてこなかったためで慄然とした³²⁾、と記されているので、Albert 老人は、彼女の窮境を救うためにも、一刻も早く自分が行動を起こさねばならないと悟ったはずであろう。

Zalano の町から 10 キロ離れた Pozoblanco の女侯爵の邸宅に向かって La Mancha 高原の地平線を背景にして歩いて行く Albert 老人の姿は紛れもなく現代の ドン・キホーテ Don Quixote であり、作者 Gallico が *Love, Let Me Not Hunger* の舞台をこの地に設定した理由の一つが明らかとなる。周知の通り、セルヴァンテス Cervantes の名作の主人公 Don Quixote は理性的で思慮深い老人であったが、騎士道物語に耽読したために現実と虚構の区別がつかなくなり、痩せ馬に跨がり、自ら騎士 Don Quixote de La Mancha と名乗って、世の不正を正す遍歴の旅に出かけるのであるが、極めて滑稽な風貌にもかかわらず断固たる決意で夢と理想を求めて行動を起こした点において、Don Quixote と Albert 老人の間には多くの共通点が認められる。そして、女侯爵に会うために大平原の中の道を歩き出した瞬間から、Albert 老人は 16 世紀のスペイン貴族が君臨する夢の世界に足を踏

み入れ、それ以後、完全にその世界に生きることが運命づけられたのであった³³⁾。

興行の便宜をはかり、同時に動物たちを昼間の炎熱から守る目的でサーカスの人々は夜間に町から町へと移動し、動物の世話係として常に動物用のワゴンに乗り込んでいたために、現実にはスペインの景色をこれまで殆ど見ていなかった Albert 老人が月世界のように見慣れぬ風景の中を果てしなく歩き続けた末に、彼は、まるで一つの村であるかのように広大で豪壮な Pozoblanco 女侯爵の邸宅に到達した³⁴⁾。Albert 老人が門番に向かって、英語で、自分は困窮しているイギリスのサーカスの者で、女侯爵に面会したいのだと叫び続けた結果、公演の後で見かけた執事が現われたので、彼は、餓死しつつある動物たちの悲惨な状況を直接、女侯爵に訴えて援助を請いたいと懇願しながら山高帽を脱いで挨拶した。帽子を脱いだときに乱れた銀髪が後光のように逆立ち、弱々しい薄青色の目を眼鏡越しにしばたたいている老人の姿は滑稽ではあるが人の心を訴えるものであり、執事 ドン・フランシスコ Don Francisco は、サーカスリングでの彼の姿が自分の女主人を限りなく笑わせ、楽しませたことを思い出して、彼の申し出を受け入れることにした。だが執事は「たとえ何が起ころうと、何を見ようと、彼女が何と言おうと、衝撃を受けたり、不賛成の意を表したり、驚いた態度をとってはいけない。」³⁵⁾と、老人に警告した。Albert 老人が通された中庭は豪華絢爛たる花園であったが、それに続く引見の間の光景は「(イギリスの風刺画家) ウィリアム・ Hogarth William Hogarth であれば精神病院の痕跡を見出したかも知れず、ゴヤ Goya であれば、彼がしばしばキャンヴァスの上に再現した悪夢の痕跡を見出したかも知れない」³⁶⁾ものであったが、現実には、Albert 老人が 400 年前のスペイン貴族の世界に足を踏み入れたということが明らかになる。フリースタイルのプロレスラーのような体で頭には全く毛が生えていない醜悪な容貌の女侯爵は肌着と化粧着しか身につけずに寝椅子に座っており、女中、衣装係、髪結い、美容師たちにかしづかれながら化粧中で、それと同時に、昔の王侯が起床直後に行なったのと同じやり方で接見を行っていた。そして豪華に装飾された部屋の奥には、Albert 老人は知る由もなかったが、スペインの宗教画家

エル・グレコ

El Greco (1541年—1614年)が描いたキリスト降架の絵画がかかっていた。女侯爵が身支度を整えている間、執事は—Gallicoの現代的比喻によれば—「映画監督のように手際良く」謁見を進ませ、彼女に子犬と子猫を売りに来た男たちには金が支払われた。だが、偶然その部屋には動物たちを受け取る者が誰もいなかったため、本能的に Albert 老人は生気に満ちた二つの荷物を手のひらに収め、動物と一緒にいるときに常に彼が感じてきた安らかな気持ちで元気づけられた、とあるので、彼がどんな境遇のもとでも動物への愛を心の支えにしていることが解るのであろう。女侯爵が物売りとの応対や事務処理を迅速に済ませ、嘆願者の訴えには半分も耳を傾けずに引き下がらせ、ちょうど着付けが済んで大変身を遂げ、記念碑のごとく堂々と聳え立った後で、最後の引見者 Albert 老人の番が回って来た。恐ろしい悪夢の中に閉じ込められた思いの彼は、死ぬほど彼女が恐ろしかったのだが、その怪物のようなスペインの女独裁者がイギリスの貴婦人と全く同じ口調の完璧な英語で自分に話しかけたときに遂に完全に正気を失って、しどろもどろの説明しかできず、苛立ちの意を表した彼女から、動物愛護協会へ陳情するよう告げられ、執事の身振りによって自分が即座に退出するよう求められていると察知した。自分の試みが完全に失敗したと悟った彼は、それまで手に持っていた子犬と子猫を女侯爵の膝にのせて急いで立ち去ろうとしたときに落とした帽子の中に足を突っ込み、敷物の上でうつぶせに倒れたまま、敷物ごと床の上を滑走するという惨めな様相を呈した³⁷⁾。ところが、この不面目極まりない退出の光景を見た女侯爵は、ようやくサーカスで彼の姿を見ていたことを思い出して“Fall down. Fall down for me!”³⁸⁾と命じた。Albert 老人は Zalano の安全な生活圏を脱して以来、どのようなことでも異常とは言えないような夢の世界の中におり、平静な神経を保って生活している場合であれば、恐ろしい女や見知らぬ人々の面前で(意識的に)転んで見せることなどは到底できないのであるが、彼女の指図通りに仰向けに倒れ、彼の帽子は背中の下で押しつぶされてしまった。これを見た女侯爵はけたたましく笑い、彼を哀れな愚者ではなく「喜劇的で、世界一滑稽で面白い人」と定義し、この地位が不動のものとして確立されたので、Albert 老人の

一挙手一投足が部屋中の人々の笑いを誘うようになった³⁹⁾、と述べられている。この場面は、非日常的な空間における道化師の演技は「笑い」の原点であると Gallico が指摘したものであると解釈できるが、我々読者は Albert 老人の本来の職業が道化師ではないことを熟知しているために、実に複雑な感情を抱くこととなる。

醜悪きわまりない容貌とは関わりなく教養豊かな女侯爵は、快活で美しい英語で「お前は私を首尾よく味方に引き入れたのだから、先程言おうとしていたことをもう一度話してごらん。」と語りかけ、今度は Albert 老人が一部始終を要領良く報告したので、彼女は具体的に毎日の必要経費の金額を尋ねた。そして、彼女は「私がお前を放すまで…多分永遠に」彼女に仕え、「私が頼んだら私のために…転んで笑わせてくれるなら」⁴⁰⁾ その代償として彼の申し出を受け入れると確約した。しかし Albert 老人にとって驚愕したことには、彼女は「水の入ったバケツを持ってでもやってくれるね？」と思い焦がれたような口調で尋ね、これほど戦慄すべき人物から、これほど子供っぽい切望するような言葉が発せられたことは限り無い悪夢の一部のように彼には思われた⁴¹⁾、とあるが、周知のように今も昔もサーカスの道化芸の中には多くのドタバタ喜劇の要素が含まれており、後述する通り世界的道化師であった Coco^{ココ} (Nikolai Poliakov) は常にバケツの水を浴びせられたり、カスタードパイを投げ付けられる患者の役を演じて絶賛されていた⁴²⁾ ので、優れた道化師の滑稽な演技を自分が望むときに見たいと女侯爵が欲したのは無理からぬことであった。そして彼女はサーカスリングで彼に水を浴びせた小人の道化師 Janos も一緒に連れてくるように命じたが、Albert 老人は極めて意味深長に「私は自分自身を売ることはできますが、Janos を売ることにはできません。」⁴³⁾ と答えたので、彼女は Janos の出身地と彼が最も愛情を注いでいるものについて尋ね、彼の犬たちが屋敷で幸せに暮らせ、彼自身は女主人のテーブルで彼女と同じものを食べることになるので連れて来るよう命令した。ところが、謁見室から外へ出た Albert 老人に執事の Don Francisco は、女侯爵は自分の欲しいものは必ず手に入れるのだが、小人の道化師にとっては来ない方が身のためかも知れない⁴⁴⁾

と、不可解な言葉を漏らしており、彼女の館で、やがて Janos が命を失うことになる。執事は予見していたものと察せられる。

執事は動物たちへの食料の手配を着々と進めるとともに、彼と彼の女主人が Albert 老人の衣装の一部とみなしている帽子がつぶれてしまったので、それと同じ物を Madrid で幾つか注文すると言った後で、これまで Albert 老人には全く理解できなかった事柄を次のように明確に説明する。

「君は偉大な道化師だよ。彼女は今までに Grock, Fratellini 兄弟, Pimpo, Marceline, Coco の芸全てを見ておられる。しかし、あんなにお笑いになったのは初めてだ。」⁴⁵⁾

上記の引用文に登場する道化師は、全て 20 世紀サーカス史上に名声を轟かせた人々である。まず Grock (1880 年—1959 年) の本名は Karl Adrien Wettach で、スイスの時計職人の息子に生まれたが、音楽とアクロバットの基礎を幼少の頃から父に教えられ、少年時代に家出をしてジプシーのキャラバンに加わり、彼はその一座で、ハイワイヤー (高綱渡り)・ジャグリング・アクロバットと楽器の演奏を組み合わせる技を習得した。彼は数か国語に堪能で、17 種類の楽器を演奏することができたとされており、14 歳のときに Fiamme Wetzel's Circus に入り、道化師となって、フランス、アフリカ、南米などで公演した後、演技の拠点をサーカスリングからミュージックホールに移し、1911 年に London で成功を収めることができた。1913 年までには彼の名声は広まり、自分が実際には熟達している様々な楽器を不器用にいじっている間抜けの役を演じて大人気を博し、「クラウンの王者」としての名声を獲得して、ヨーロッパの王族の前でも演じるようになった。作曲の才に恵まれていた彼は楽譜を出版し、音楽のビジネスでも成功を収めることができた。第一次世界大戦が開始すると、彼は活動の拠点をイギリスとしていたが、1924 年にヨーロッパ大陸へ戻り、ヨーロッパ全土とアメリカで公演を行なって大成功を収め続け、高収入を得られたので、1951 年には彼自身のサーカスを持つことがで

きるようになり、このサーカスが1954年にドイツの^{ハンブルク}Hamburgで興行をしたときに自分の演技の最終公演を行なって引退して、その後はイタリアの大邸宅で老後を送っていたが、時々テレビ出演を行っていた。20世紀最高の道化師として富と名声を得た彼は1959年に死去した⁴⁶⁾。

次にFratellini兄弟であるが、彼らはGiuseppe Garibaldi^{ガリバルディ}の率いる愛国主義者とともに戦ったときにサーカスの人々と会い、その後、体育家兼アクロバティック・クラウンとなったイタリア人の父Gustavo Fratellini (1842年—1905年)の3人の息子Paul^{ポール} (1877年—1940年)、François^{フランソワ} (1879年—1951年)、Albert^{アルベール} (1886年—1961年)をさしており、彼らは1900年代の末から1920年代に非常に名高い道化師の一族であった。Fratellini兄弟3人は音楽の演奏をする道化師たちで、Françoisはスパンコールで飾ったコートを着て顔を白く塗った詩人肌のクラウン、Paulは黒い大きなコートを着て山高帽をかぶった丸々と太ったひょうきん者、Albertは裾を引きずった巨大なコートを着て、絶えず落ちそうになっているズボンと途方もなく大きな靴を履き、赤い鼻を付け、グロテスクなかつらをかぶったオーギュストに扮して登場し、FrançoisとPaulの演奏する室内楽の調べをAlbertの耳をつんざくようなチューバの響きが台無しにしたことに憤慨した二人が、Albertのコートをチューバに突っ込んで静かにさせるというような喜劇を演じていた。彼らは第一次大戦後、ParisのCirque Medrano^{シルク・メドラノ}と出演契約を結んで大成功を収め、1923年までに、パリの知識階級の人々から深く愛されるようになった⁴⁷⁾。

Pimpoの本名はJames Freemanで、彼は絶頂期にはイギリスの全てのサーカス演技者の中で最も多芸な人で、空中ブランコも高綱渡りも他の演技もこなすことができた。そして、“Pimpo”という芸名を用いて演技を行なったときには、この国で最も名高い道化師の一人であった。彼は1917年に名門のサーカス・ファミリーの出身で裸馬乗りの騎手であり、沢山の象に芸をさせることにも優れていた伝説的なアーティストVictoria Sangerと結婚したが、彼らの結婚を妻一族は認めていなかった。Freemanは1961年に死去した。

Marceline (1875年—1927年)の本名はIsadore Orbesで、Gallicoは彼の

演技を *The Adventures of Hiram Holliday* の中で絶賛しているが、彼のよう
 に一言も喋らず「パントマイムだけで、ユーモアと悲哀から成る物語を伝える
 沈黙の道化師」の時代が去りつつあることを嘆いてもいる⁴⁸⁾。上に列挙され
 た道化師たちの中で、最も悲劇的な生涯を送ったのが Marceline であったこと
 も、Gallico は当然知っていたはずであろう。Marceline は、スペインで生まれ
 たとされているが、この伝説は定かではない。明確にされているのは、彼が
 London Hippodrome で 5 年間、道化師の役を演じた（このとき、少年時代の
 Charlie Chaplin が彼の助手を務めたことがあった）後に、フレデリック・トンプソン
 と エルマー・ダンディ Elmer Dundy が 1905 年に New York ヒッポドローーム Hippodrome をオープンするに当たっ
 て彼と契約を結び、9 シーズン続けて出演したということである。一方 1912
 年には、かつて彼のパートナーであった優れたパントマイム役者 Slivers
 Oakley が観客から見放されて生活も困窮し自殺してしまった。その後
 Marceline は Ringling Brothers Circus でサーカスのクラウンとして働き、
 1915 年に再び New York Hippodrome に戻ってきたが、サイレント映画の喜
 劇が道化師の芸に対する一般大衆の趣向を変えてしまっていたため、やはり彼
 も Oakley と同様に、ほんの数年前には自分を崇めてくれた観客を楽しませる
 ことが困難になっていた。顔に赤いぶちを塗り、虚ろな表情の顔を歪めて高笑
 いし、付け鼻を付けただけの愚かなクラウンではなく、自分をひょうきんな道
 化役か、それより高度なオーギュストだと信じていた Marceline は、だぶだぶ
 のズボンなど履かずに燕尾服を着ており、一言も発することなく片足を見つめ
 るだけで、かつては千人もの観客をどっと笑わせることができた。しかし世の
 中では、サイレント映画の俳優の顔の動きの方が、巧みに考案されたひょうき
 ん者の陽気な表情より好まれるようになり、彼には収入が全く無くなってし
 まった。しかし Marceline は、自分を見捨てた妻に毎月送金してやっており、
 最後には自分の指輪を質に入れる所まで行き詰まった。遂に、Manhattan の
 小さなホテルの部屋で、彼はピストルをこめかみに当てて発射させて、自殺し
 た⁴⁹⁾。

最後に Coco (1900 年—1974 年) の本名は Nikolai Poliakov で、彼は 20

世紀中頃の数十年間、イギリスで最も有名な道化師であった。厳密に言えば彼は（顔を白く塗った、より賢い役を演じるクラウンではなく）常にバケツの水を浴びせられたり、カスタードパイを投げ付けられる愚者の役を演じるオーギュストであった。1900年にLatviaに生まれた彼の両親は劇場で働いていたが、彼の誕生から数年後に職を失ったため、Nikolaiは生きて行くために5歳から大道芸を始めた。彼は名高いロシアのクラウン^{ラトヴィア} Lazernko^{ラザレンコ}の弟子となり、彼自身のサーカスの経営を行なった。しかしロシア革命期の苦難を逃れて、BerlinのCircus Buschに加わったが、Bertram Millsに注目されて妻のValentinaとともにイギリスに移住して、1929年から67年までBertram Mills Circusで活躍し、イギリスの人々、特に子供達から愛された。彼が驚いたときには髪の毛が全ての方向に突き出す仕掛けになっているかつらや馬鹿でかいブーツのような際立った視覚的特色は、テレビの視聴者を引きつける道化師のイメージとして効を奏した。1959年に彼は交通事故に遭って肢体不自由の身になったが、サーカスリングに復帰した。彼の交通安全広報活動に対して1963年にElizabeth女王からOBE（Order of the British Empire）が授与された。1974年に病死した彼は、イギリスのNorthamptonshireのWoodnewtonに埋葬された。なお、彼の息子Michael^{マイケル}が現在アメリカなどで道化師Cocoとして名高い⁵⁰⁾。

このように20世紀サーカス史上に不朽の足跡を記した道化師たちの演技を全て鑑賞していた女侯爵が、Albert老人の演技に最も強い印象を受けたのだという執事の上記の発言を聞いて当惑したAlbert老人は、自分が本職の道化師ではないことを告げたが、執事は、たとえそれが事実だとしても決して女侯爵に告げてはいけない⁵¹⁾と厳粛に言い渡した。

ようやくAlbert老人には「非常に風変わりなユーモアの感覚を持った」女侯爵が「彼をサーカスの現役の道化師と間違えて、空腹の動物たちに継続的に食料を提供する代償として彼を召しかかえることにした」⁵²⁾のであり、「彼女の頭の中にある演目を完成させるために」自分に水をかける役の小人のJanosが必要とされることが理解できた。しかし、動物たちの自分への信頼と愛情が

彼の人生の晩年にもたらした深い意義について熟慮すれば、彼らの生命を救うために屈辱的で不快な演技を繰り返すよう要求されることは、必ずしも高い代償とは思えなかった。心優しい老人の耳には、この作品の題名である *Love, Let Me Not Hunger* (「愛する者よ、どうか私を飢えさせないで下さい。’) という動物たちの悲痛な叫びがこだましていたに相違ない。

【注】

- 1) *Ibid.*, p.147.
- 2) *Ibid.*, p.162.
- 3) *Ibid.*, p.167.
- 4) *Ibid.*, p.168.
- 5) *Ibid.*, p.169.
- 6) *Ibid.*, p.169.
- 7) *Ibid.*, p.170.
- 8) *Ibid.*, p.170.
- 9) *Ibid.*, p.171.
- 10) *Ibid.*, p.171.
- 11) *Ibid.*, pp.171-172.
- 12) スコットランドを舞台とした Gallico の名作 *Thomasina* に登場する Lori は「アードラス峡谷の赤毛の魔女」(The Red Witch of Glen Ardrath) と呼ばれ、世俗を離れた自給自足の生活をしなが、病み傷つき苦しむ無力な野生の動物を助けている若い女性で、彼女を気がふれているという人々もいたが、MacDhui 医師の親友である思慮深い Peddie 牧師は、彼女を「この上なく善良で優しく親切で、非情で思いやりのない今の時代の人とは思えない、賞賛に値する立派な女性」すなわち「聖女」と定義しており、(Paul Gallico, *Thomasina* (Penguin Books, 1957), p.177.), 沢山の動物たちに深い愛情を注いでいる Lori は、*Love, Let Me Me Not Hunger* の Rose と本質的には非常に似通っている。
- 13) Paul Gallico, *Love, Let Me Me Not Hunger*, pp.172-173.
- 14) *Ibid.*, p.185., p.186.
- 15) *Ibid.*, p.186.
- 16) *Ibid.*, p.190.
- 17) *Ibid.*, p.192.
- 18) *Ibid.*, p.193.
- 19) *Ibid.*, p.194.
- 20) Rose と Toby は二人とも 21 歳で全く同じ年齢ではあるが、唯一人で都会のジャングルを生き抜くために闘ってきた Rose は、名門の曲馬師一族の息子として育てて来た Toby よりも明らかに精神年齢は上であり、危機に臨んだときに利己主義で卑劣な

- 行動を取りうる可能性のある人間が誰であるのかを、直観的に見抜く力を備えていた。
- 21) Paul Gallico, *op.cit.*, pp.198-199.
 - 22) *Love of Seven Dolls* の女主人公 Mouche は、作品の冒頭では、全く男性を引き付けられない貧相な娘として登場するが、人形芝居の一座に加わって人形たちと心を通わせるうちに生来の温かさや優しさが容姿にも現われ、アクロバットの名手の美青年が恋に陥るほどに魅力的な女性へ変わって行く。(Paul Gallico, *Love of Seven Dolls*, pp.7-9., pp.67-68.) 次に、Gibraltar に棲む賢く乱暴者だが、どこか愛すべき猿を主人公とした Gallico の傑作動物小説 *Scruffy* の中で、婚約者の Timothy Bailey 大尉を喜ばせようとした Felicity が、1年半、海軍婦人部隊で過ごすうちに、かつての丸々と太った娘から、目も眩むような美人に変身してしまったために相手を怖がらせてしまった、という叙述がある。(Paul Gallico, *Scruffy* (Penguin Books, 1977) p.114.)
 - 23) Paul Gallico, *Love, Let Me Me Not Hunger*, p.203.
 - 24) *Ibid.*, p.204.
 - 25) *Ibid.*, p.204.
 - 26) *Ibid.*, pp.206-207.
 - 27) *Ibid.*, p.208.
 - 28) *Ibid.*, p.210.
 - 29) *Ibid.*, p.212.
 - 30) *Ibid.*, p.213.
 - 31) *Ibid.*, p.213.
 - 32) *Ibid.*, p.214.
 - 33) *Ibid.*, p.215.
 - 34) *Ibid.*, p.218.
 - 35) *Ibid.*, p.221.
 - 36) *Ibid.*, p.222.
 - 37) *Ibid.*, p.229.
 - 38) *Ibid.*, p.230.
 - 39) *Ibid.*, p.231.
 - 40) *Ibid.*, p.232.
 - 41) *Ibid.*, p.232.
 - 42) S.B.Jeffrey (ed.), *Circus Acts : The History of Circus Performers* (Webster's Digital Services, 2011), p.93.
 - 43) Paul Gallico, *Ibid.*, p.233.
 - 44) *Ibid.*, p.234.
 - 45) *Ibid.*, p.235.
 - 46) Howard Loxton, *op.cit.* p.80.; 蘆原英了『サーカス研究』(新宿書房, 1984), pp.49-51., pp.54-57.; <http://www.imdb.com/name/nm0342815/bio>.
 - 47) Howard Loxton, *op.cit.* p.79.; 蘆原英了『サーカス研究』(新宿書房, 1984), pp.50-51.; <http://www.clown-ministry.com/History/Paul-Fratellini.html>. ; <http://www.clown-ministry.com/History/Francois-Fratellini.html>. ; <http://www.clown-ministry.com/History/Francois-Fratellini.html>.

ministry.com/History/albert-fratellini.html.

- 48) Paul Gallico, *The Adventures of Hiram Holliday* (Penguin Books, 1967), p.51.
49) Howard Loxton, *op.cit.* p.80. ; http://clownalley.blogspot.com/2006/06/marceline-orbes_29.html.
50) Tom Ogden, *op.cit.*, p.278. ; Howard Loxton, *op.cit.*, pp.81-82. ; S.B.Jeffrey (ed.), *op.cit.*, p.93.
51) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.235.
52) *Ibid.*, pp.237-238.

IV Rose と Albert 老人の献身により復活したサーカスと生存者たちの人生についての考察

女侯爵は約束を守り、飢えた動物たちの健康を取り戻し、彼らを最上の状態に保持しておくために必要な全ての食料を、サーカスの野営地へ届けさせた。Albert 老人にとって楽園を歩くことは動物たちの前に限り無く恵みの品々を並べてやることを意味していたので、天国にいるような心地で、生まれてこの方、これほど幸せだったことは無かった¹⁾、と述べられている。たとえ、動物たちの食料の代金を払うのが自分自身でないにせよ、食べ物を与える彼の出現を彼らが目を輝かせて待っており、女侯爵のおかげで絶体絶命の危機を回避できた以上、なぜ早く行動する勇気が自分にはなかったのだろうかかと彼は後悔した。夕方、野営地に戻ってきた Toby と Janos に経過を説明すると、二人の間は信じがたいという驚きの表情を示し、Toby は「あんたは、あのいまましい動物どものために身を売ったというのか！その女から命じられたら、転んで、彼女を笑わせてやるつもりなのか？」²⁾ と叫んだが、老人の決意が固いのを知り、まだ納得できないながらも、彼に友情と別れの挨拶の証しとして、手を差し出して握手しながら「じいさん、分かったよ。」³⁾ と述べた。一方、自分にも一緒に来てもらいたがっていると告げられて疑惑の念に駆られた Janos ではあったが、女侯爵に道化師として仕える交換条件として、自分の愛犬たちの生活が保証され、彼自身は彼女とともに食事をすることが約束されると聞くと即座に快諾し、道化衣装と扮装を整え、彼女の館から動物の食料を送って

来た車に乗り込んだ。Albert 老人は執事が口にした意味深長な警告の言葉を思い出し、Janos に熟慮を促したが、彼は一向に取り合わなかった。そして動物たちが飢餓状態から救われ、年かさの男たちから干渉されずに自分と Rose が動物たちの世話さえすれば残った時間を二人だけで過ごせると知った Toby は「少年時代の学校の休日」が訪れたような幸福感を味わった⁴⁾、と述べられている。

Albert 老人が、まだ Las Flores での仕事から戻って来ない Rose によろしく伝えてくれるよう Toby に伝えて、道化師 Janos とともに女侯爵の屋敷へ戻ろうとしていたときに、安物の小型セダンに乗った二人の見知らぬスペイン人の男が、突然サーカスの宿営地を訪れる。最初は Sam Marvel 団長からの何らかの連絡かも知れないと予想した Albert 老人の期待を裏切り、Toby を絶望と恐怖に陥れる瞬間が訪れる。Toby にとって、これらのスペイン人が「葬儀屋」を連想させるものであったとされているのは、Gallico が彼らに Toby の青春の希望を葬り去るために訪れた不気味な存在としての意味を与えたからであろう。すなわち彼らのうちの一方の Manolo はこの地域の葡萄栽培業者兼出荷人で、多少英語が話せるため、彼は、^{マノロ}Toledo の裕福な葡萄酒卸売業者で La Mancha 一帯で大規模な買い付けを行なっている顧客 Garcia の代弁者として、Rose のことについてサーカスの人々と契約を結びたい⁵⁾ のだと告げた。初老の恰幅の良い男 Garcia は、ここ数週間 Las Flores のバーを訪れ、Rose のように上品で魅力的な美しい女性が男たちに身を許さねばならないことを不憚に思い、彼が周期的に葡萄園を訪れるさいの愛人として Rose を Zalano から少し離れた町に住ませたいので、適正な額の補償金をサーカスの人々に支払いたい⁶⁾ ということであった。Garcia の申し出が Toby の激怒を招いたことは言うまでもないが、これまでの Rose の生涯にとって何が最も大切であったかが明確に示されるのも、この場面である。彼女は、自分が Toby から愛されていると信じたことは一度もないままに彼に献身的な愛情を注いできたのだが、彼女が（「人間」と「動物」という）「種」の壁を乗り越え、生まれて初めて真の愛の交歓を感じられたのは動物たちだけであった。Rose は、一種の貴族的な誇

りを持つサーカス・アーティストの一族の構成員である Toby Walters が、貧しい放浪生活を続けて来た自分と結婚することは絶対にあり得ず、やがては彼のもとを去らねばならないという前提の上で、限られた日数であれ、彼と生活を共にしてきたのだが、サーカスの動物たちは彼女に心を開き、彼女を、かけがえのない友として受け入れてくれた存在であった。更に Toby が最も親近感を覚えている象の Judy が餓死に瀕していることに苦悩している有様を見た Rose は、(他の動物よりも並外れた巨体の) Judy の命を救う飼料を購入するために自己犠牲を行なうことによって、Toby への愛をも立証したと解釈できる。従って、彼女は自分が Las Flores で行なっている仕事が屈辱極まりない卑しいものであるという苦悩に耐えるとともに、いずれは Toby にも真相が知らされて彼を失うに相違ないという悲嘆にも耐えながら、女性としての最後の誇りを犠牲にしても、動物たちの命を一日でも長く生き長らえさせるために、身を売ったのであろう。英米文学に限らず、世界のどの文学の中でも、サーカスの動物たちに対して、これほど熾烈な愛情を注いだ女性は登場しない。

一方、Rose との生活の中で、彼女を通して「愛」の本質について認識するようになりつつあった青年 Toby は苦悶と激情のために獣のような咆哮を發した後、悪罵の言葉を浴びせながら象使いの突き棒を二人めがけて投げつけ、彼らは命からがら逃げて行った⁷⁾。正気を失って頼れた Toby よりも遥かに深い苦悶と恐怖の表情を浮かべた Albert 老人は、気が狂ったように Rose を口汚なく罵り続ける Toby をなだめ、たとえどれほど不条理に聞こえるとしても彼女を“good girl”であると定義しており、次のように語りかける。

「Toby、あの娘を罵るのはやめておくれ。あの娘は、動物たちやお前のためにそれをやっていただけなのだよ……ほんの少し前に、お前は、わしが同じことをしたのに、わしのしたことを正しいと認めて、握手してくれただろう。あの娘のしたことと、どこが違うと言うのか？」⁸⁾

Toby は、Albert 老人の思慮深い説得にもかかわらず、激情を自分でも抑制

できずにわめき散らし苦惱で身をよじらせていたが、女侯爵の館に向かうために乗り込んだ車が宿営地を離れようとしていたときに、老人は、最後にもう一度、彼に向かって、動物たちの世話を頼むと言い残した。

その日の真夜中近くに Rose が重い足取りで戻って来たとき、Toby は思いつく限りの卑猥な言葉を投げつけ、Rose も、彼女のあらゆる持ち物も、汚らしい物でもあるかのようにワゴンの外へ投げ出したが、彼女は蒼白な顔で身を屈めて、一つ一つの衣類を集めた後、スーツケースの中に入れて無言のまま、町に通じる道に向かって立ち去った⁹⁾、とあるのは、Rose は恐ろしい破局を予想しながら帰って来たからであろうし、その運命を甘受するだけの悲壮な覚悟ができていたことを立証するものであろう。一方、極度の嫌悪の情を全身にみなぎらせた Toby は、その彼女の後ろ姿を見送っていた。

Pozoblanco 邸に着くと Janos には女侯爵の私室のある建物の一部屋を与えられ、Albert 老人には車庫の上階の召使の部屋の一つが与えられたが、わずか数週間後に小人の道化師が不慮の死を遂げるまで、彼らは二回しか会うことはなかった。女侯爵にとっては、彼女が望むときに自分だけを爆笑させてくれる男を所有することに意義があったので、Albert 老人は一度も人前で屈辱的な演技を求められたことはなかった。彼のフロックコートと山高帽は演技のために必要な道化の衣装であると女侯爵が見なしていたために保管用に持ち去られ、他の使用人と同様の白い仕事着が彼に与えられた。そして彼は、友好的な使用人たちとともに共同食堂で食事をし、しかも、この館を時々訪れる親戚や知り合いの子供たちを楽しませる目的で女侯爵が維持しているらしい小さな動物園の野生動物たちの世話を任されたので、サーカス仲間から離れた寂しさを除けば、老人の人生が、これ以後、次第に静穏なものへと変貌を遂げるように Gallico が描いている点は極めて興味深い。Albert 老人に与えられた簡素で清潔な小部屋の壁には、象牙でキリストの像が彫刻された小さな黒檀製の十字架が掛けられており、これまで決して宗教的な人間ではなかった彼には、なぜかその十字架が、自分を守ってくれるお守りとして彼を歓迎してくれているよう

に感じられた、とある。Gallico は、挫折の連続の不幸な人生の中で「神というものが Albert 老人の運命とは何の関係もなく、彼にどんな関心も持っていなかったことが明白であった」¹⁰⁾ ために、Albert 老人にとって神の存在を意識することも少なくなっていたと述べているが、実は、晩年近くなってから、彼の人生を有意義で幸福なものにする動物たちや Rose と彼とを引き合わせたのは、紛れもなく神意によるものであったと推察される。

Albert 老人が屋敷に来て以来、初めて演技を見せるために呼び出された場所は女侯爵の暗い雰囲気気の寝室で、壁龕の聖母子像は古色蒼然としており、壁に掛けられた絵画の中の男女も陰鬱なものであったが、この死の気配の漂う部屋の壁際の窓のそばに、顔を白く塗り、道化師の衣装を着た Janos がおり、水の入ったバケツも準備されていた。彼が通されたときに室内便器に腰掛け、平然と用を足した後で蓋を閉めてベッドの端に腰かけた、と描写されている女侯爵の態度は、相手を同類の人間とは見なしていない傲岸極まりないものであるが、巨体に真紅の化粧着を纏い、まっすぐに垂れた黒髪のかつらをかぶったその姿は、ぞっとするほど醜悪であったため、カーニバルで街路を引き回される張り子のようなものであった¹¹⁾、と記されているので、我々は Gallico の *The Zoo Gang* の中で地中海沿岸の Nice のカーニヴァル^{ニース}に登場する威嚇的で俗悪で忌まわしい印象を与える巨大な張り子の人形の数々¹²⁾ のことを思い起こすことであろう。そして *The Zoo Gang* で山車の上に横たわって眠っている張り子の Snow White (白雪姫) の体内に多くの人々に死と破滅をもたらしたヒロイン (snow とはヒロインを意味する俗語でもある) が隠されていた¹³⁾ のと呼応するかのように、*Love, Let Me Not Hunger* の女侯爵は、大きな蛆虫たちが自分の体を食い荒らし、皮膚を食い破って出てきて自分を凝視している悪夢を見たので、死を予知したのだと語っており、実はこのとき、トカゲの喉の皮膚のような素顔のままで緑色の目を輝かせていた彼女が不治の癌に冒されていたことが、後の場面で明らかにされる。そこで間近に迫る死の恐怖を一瞬でも忘れるために笑いたいと切望していた彼女は、自分のために演技をしてほしいと老人に頼んだ。Janos は Albert 老人が踏んでいた敷き物の端を引っ張って彼をひっ

くり返らせ、バケツの水を次から次へと浴びせ、その光景を見た大女は、ベッドの上で笑い転げた。観客を笑わせることを天職とする道化師ではない Albert 老人にとって恥辱以外の何物でもない行為に耐えている自分は十字架にかけられているのと同じように感じられたと述べられているが、彼の試練は女侯爵のヒステリーの発作とともに終わった。そして彼女は「ああ、私が死ぬとしても、せめて笑いながら死ねる！」¹⁴⁾ と、あえぎながら言った後で、老人に退出を促した。一方、演技の間中どこか不自然な様子が感じられた Janos が、いつもは決して他の人間に心を許さなかったにもかかわらず、Albert 老人に向かって留まってくれるようにと目で無言の嘆願を訴えているように彼に感じられたのは、小人の心身が差し迫った危機に晒されていたことの証しであった。そして、この作品の中では決して明確に語られてはいないが、Rose が行っていたのと同種の、しかも、より危険な奉仕を、女侯爵は Janos に対して要求していたのだと推察される。

存命中の Janos に Albert 老人が会った二度目の、そして最後のときは、女侯爵がジプシーたちに虐待されながら曲芸を強要されている熊を衝動的に買い取ったので、動物の生態に詳しい老人がその熊を飼うのに必要な専門的な知識を彼女に教えるために呼び寄せられた、ある屋下がりであった。Gallico の作品の中でジプシーたちから虐待されている熊を救おうとして闘う人々として思い起こされるのは、*Thomashina* に登場する森の隠者 Lori と、彼女や小さな子供たちとの心の触れ合いを通して人間や動物への真の愛を学び取る獣医師 Andrew MacDhui である¹⁵⁾。しかし Lori も MacDhui も本質的に善人として描かれているので、これまで冷酷で傲然たる独裁者の印象を与え続けてきた女侯爵が、実は悲惨な境遇の動物たちへの憐憫の情を示す優しさを持った人間であることが明らかにされるであろう。謁見の刻限になるまでの短時間、たまたま応接室を覗き込んでいた Albert 老人は、Victoria 朝様式の室内装飾の中に、女侯爵と知り合いのヨーロッパ王侯貴族たちの写真を見つけたが、彼を最も驚かせたのは、宝石で全身を飾り立てた娘時代の女侯爵の肖像画であった。彼は心の中で、本や映画で描かれているような物語を創造し、若い頃には素晴らし

い美人であった彼女が不可解な奇病に襲われて美貌を失い、世の人々への復讐心に満ちた怪物と化したと信じ続けてきたので、驚愕の独白を漏らした¹⁶⁾。そして老人の考えを読み取ったかのように執事 Don Francisco は、女侯爵がごく幼少の頃に腺病に冒されて化け物のような容姿となり、どんな医者も救えない醜い姿のままで一生を送り続けてきたことの方が、突如として容貌怪異になってしまったよりも大きな悲劇なのだと告げた¹⁷⁾。彼女はスペインとポルトガルの王族と血縁関係にあり、London, Paris, New York の超一流ホテルに常時自分専用の部屋を借りており、Madrid, Seville, Buenos Aires に大邸宅を所有しているとのことであった。Albert 老人は、どんな名誉や財産を持っていようと、金で手に入れたものを除けば彼女が常に孤独で、幼い頃から、自らが閉じ込められている醜い外観以外のものは知らず、外観を変え、仮面の下で生きることによってのみ無言劇の役者のように、その外観から逃れてきたことの方が重大な悲劇であるという真実を悟った¹⁸⁾。道化師や役者であれば、リングや舞台を離れば仮装から脱却した生き方も可能であるが、生涯、忌まわしい現実から逃れるために仮装し続ける運命を与えられたことはこの上ない悪夢であろう。そのような彼女に対して、Albert 老人は、非常に強い同情を覚えて心が激しく痛み、ほとんど肉体的な苦痛さえも感じた¹⁹⁾、と述べられている。なぜなら、サーカスのリングサイドで見た赤毛の女、居間で見た臉を金色に塗った禿頭の怪物、寝室で見た黒髪の異様な生き物、肖像画の中で宝石で醜悪さを隠している哀れな娘という四つの姿を持つ女侯爵は彼の心の中では一体となり、現実から逃れようとしている一人の孤独な女として映ったからであった。彼女は結局「神の悪戯」によって生み出された存在であるが、サーカスの freak show で己の奇形を晒しながらも現実を見据え、自らの異形さを生計の資として自活するだけの勇気とショーマン気質を持った人々とは比較にならないほど脆弱な存在であった²⁰⁾。女侯爵に与えられた富は、神の喜劇を増長するためのものに他ならず、彼女は天上の悪戯に加わるために自分を笑わせる道化師を得ようとして金を費やしたのであった。

さて Albert 老人と執事が約束の時刻に食堂に入ると、ふだんは時間に厳格

な女主人は、この時だけはその鉄則を忘れたようで、テーブルの前に座っている彼女の顔は異様に紅潮して息遣いも荒く、やがて、長く垂れたテーブルクロスの下から道化の衣装は着けているが顔に化粧を施さず、顔面が紫色に変色した小人の Janos が、恐怖とも屈辱とも悲しみとも怒りとも理解し兼ねる、多分その全ての感情が入り交じった涙を流しながら現われて、部屋の外へ姿を消した²¹⁾、と描写されている。Gallico の文学は 20 世紀後半のものであるにもかかわらず古風で品格を重んじた表現形式が取られているため、決して赤裸々な描写はされていないが、実は Janos が怪物のような大女に恥ずべき奉仕を行っていた最中に二人の男が入室してきたことが明らかである。Albert 老人の経験した屈辱は、女侯爵が彼を本職の超一流の道化師と勘違いしたために自分を笑わせる目的で召し抱えたことによる一種の悲喜劇がもたらしたものであり、結果的に彼女のはからいにより、動物たちの命は救われ、最終的に Toby と Rose も幸福な結婚をし、老人自身も異国の地ではあるが安息の住まいを得ることができたと解釈できる。これに対して、自分の犬たちへの愛情を除けば決して誰も愛したことのない Janos は、道化師としての芸を買われたのと同時に、正常な男性からは決して与えてもらえない満足を、彼と同じく奇形の女に与えてやるために仕えねばならなかった。従って、物語の中で最大の犠牲者は Janos であったと言えるが、彼の精神は容姿と同様に歪んだものとして描かれており、Albert 老人をリング上で故意に残虐に辱めたり、Deeter への恨みを晴らすために彼の愛馬を殺そうとした罪に対する裁きを神が下したのだと解釈することも可能であろう。

そして 9 月末のある夜、Janos は急死してしまったが、表向きの死因は「卒中」とされた。Albert 老人は、執事がほのめかしたように、この大食いの小人が食事時の発作で死亡したのだらうという思いつきで自分自身を欺こうとしたが、偶然応接間でもう一度女侯爵の肖像画を見たときに、彼女のドレスの襷の下から、ずんぐりした醜い Janos の顔が覗いているという戦慄すべき幻影を見て、自分の気が狂ってしまったのではないかと驚愕した²²⁾。道化衣装を纏ったままベッドの上に横たえられた Janos の亡骸と対面した彼は、その死を心か

ら悼んだが、自分の友人のために出来る限り立派な葬式が行なわれ、女侯爵をはじめ邸内の全ての人々が参列するのだと聞かされて喜んだ。侯爵家の私有墓地の一隅に Janos の棺が葬られたが、神父が葬儀を進めている間、祈りの言葉を唱えながらも女侯爵の視線は Janos の亡骸を収めた棺には決して注がれず、飢えたような視線が、若い侍祭の青年だけに注がれていた。その光景を見た Albert 老人は、死んだ友人のためでなく、彼女のために涙を流している自分に驚いた²³⁾、とあるが、これは、生来の醜悪さゆえに、どんな男性からの愛も得られぬまま生きてきた一人の孤独な女に強い憫みを感じたことの証しであろう。すなわち Pozoblanco 女侯爵もまた、愛に飢えた悲惨な人生を宿命づけられ、この作品の題名そのままに“Love, Let Me Not Hunger!”という無言の痛切な叫びを発し続けてきたに相違ない。

一方、サーカス団長 Sam Marvel は、依然として保険金請求問題が未解決の状態のまま、8月下旬にイギリスの Chippenham の自宅へ戻ってきたが、妻は彼の不在中にスペインから Deeter がかけてきた長距離電話については、全く不可解なものとしか思えなかったので、彼女の夫に伝えることはなかった。Gallico の作品の中で完全な悪人は滅多に登場せず、Sam Marvel もまた決して生来の悪者や憎悪すべき人間として描かれてはいない。従って、冷笑的な人生観を抱いて生きてきた Marvel にとって、あとをまかせてきた者たちの境遇や動物たちは良心の重荷であり、保険金の支払いが迅速に行なわれれば直ちに救援に向かったであろうが、日々が無為に流れるうちに、突然ある時点でこれ以上悩むことは無意味であるという境地に達してしまった。だが、9月初旬に激怒が頂点に達した Marvel が Birmingham の保険会社を訪ねると、総支配人は支払いの著しい遅延について丁寧に詫び、全焼となった物品の損害についての請求全額を認めた。なお、夏期興行の損失の保障に関しての Marvel からの請求については、最も楽観的な予測に基づく見積もりであるために半額しか支払えない²⁴⁾とのことであった。Marvel は設備物件の全額補償に加えて、自分でも却下されるのが確実であると予想していたスペイン巡業での収益の見積額の半分が支払われるという幸運に驚いた。彼の心は、スペイン興行の惨澹たる失

敗以来、サーカスというライブ・エンターテインメントからはもはや離れていたの、この稼業からは手を引く決意を固めていた。そこで彼は Chippenham の冬季宿舎に残された資産、他のサーカスに賃貸している動物たち、Zalano での災害の発生から 2 カ月近くを経っていたためにどれだけ生き残っているかは不明であるが、ともかくも生存しているだけの動物たちを何とか売却する機会を待ち望んでいた。業界紙 *World Fair* の 'British Circus Ring Notes' (「イギリス・サーカス・リング通信」) の記事を読んでいた Marvel は、Peabody's Family Circus の経営者で現在 60 歳になる Joe Peabody が来年の興行のためにサーカスの規模を拡張しようとしていると知り、更に彼が特に移動動物園と馬の演目の拡張を図りたいと望んでいる²⁵⁾ ことに注目して、(イングランド北西部 Lancashire の) Heysham に滞在している Peabody に Birmingham から電話をかけた。Marvel は、「あんたのサーカスを Chipperfield's Circus や Billy Smart's Circus に匹敵するようなものにしてやりたいんだ。」²⁶⁾ と言葉巧みに持ちかけて、Peabody に自分のサーカスを買収してもらいたいという意思を表示した。Sam Marvel は、保険金を手に入れ、Peabody にサーカスを売却した後で、New Castle で売りに出されているポーリング場を即座に購入する計画を立てた²⁷⁾。

Zalano の町から少し離れたサーカス野営地に唯一人残された Toby は、女侯爵から提供される豊富な食料で動物の世話をし、演技の稽古も行っていたが、もはや動物たちに親愛の情を示すことはなくなり、彼の心から青春という要素が脱落してしまったのだと、作者 Gallico は定義している。だが夜になると必ず出現する Rose の優しい幻が彼のもとに戻って来て、眠っている子供を静かに見守る母親のような半ば内省的な優しい表情を浮かべていた、とあり、ここで我々が思い起こすのは聖母マリアの姿であろう。そして、権力者で大富豪ではあるが所詮は孤独で心の貧しい哀れな女でしかない女侯爵の寝室の聖母子像は、たとえ美術的価値を持つとしても様式美を重んじた骨董品に過ぎず、人の心を打つような生彩を放ってはいないのに対して、動物たちや Toby を幸せにするために我が身を犠牲にするほどの深い愛情を持っていた Roseこそ聖

母マリアと呼ばれるに相応しいと解釈されるし、彼女の生き方から日本人である我々が思い起こすものは、飢えた母虎と7頭の虎の子たちを哀れに思い、自ら虎の餌食となるために崖から飛び下りて我が身を捧げる摩訶薩唾王子（釈迦の前世の姿）を描いた美しくも凄惨な絵画「捨身飼虎図」²⁸⁾であろう。従って *Love, Let Me Not Hunger* の持つ深遠な文化的価値は、キリスト教国の人々よりも、むしろ仏教国の我々の方が理解できるかも知れない。

Toby は、Albert 老人が Rose のことを “good girl” と呼び、「彼女は動物たちやお前のために身を売っていたのだ。ほんの今し方、お前は、全く同じことをした私の手を握って別れの挨拶をしてくれたではないか。」²⁹⁾ と語った彼の別れ際の言葉を完全に忘れてしまおうと努め、彼が Rose に対して行なった残酷な仕打ちを正当化するために、Rose を絶えず罵倒していた「善良な」母や姉妹、そして「賢明な」父にまで加勢を求めようと試みたが、常に Toby の心の中には、スーツケースを下げて悄然と暗闇の中へ消えて行った彼女の後ろ姿が戻った。

しかし、遂に再び Rose はサーカス野営地に戻って来た。月光を浴びた彼女は、荒れ狂った象 Judy の前に立ち、「もし、私が欲しいのならあげるわ！私はお前のために体を売ったのよ。馬鹿でかいゴム風船さん！さあ、私を殺したいなら殺したらいいわ！」³⁰⁾ と叫びながら、死に向かって前進し始めた。Rose が戻ってきた理由は、もはや何処へも行くあてがなくなり、不幸続きの自分のこれまでの生涯で最も幸せであった所で死にたいと願ったからであろう。そして、Toby や動物たちへの献身的な愛ゆえに支払った余りにも高い代償について Toby から誤解されたままで惨めに生き続けるよりは、彼が最も愛していた友であり Toby 自身の分身とも言える象 Judy の恐ろしい怒りに身をゆだねることで、生涯を終えることを望んだのであろう。怒りを爆発させた象の恐ろしさを熟知している Toby は、Rose の歩みを止めさせようと叫んだ。この後に展開されるのは、Toby と Judy との凄まじい闘いの描写であるが、動物の優しさと愛情深さを知り尽くしていたと同時に、野生の本能を取り戻した象の凶暴さにも精通していた Paul Gallico 以外のいかなる作家にも書けない

ような極めて写実的な表現であることに我々は驚かされる。

ここで我々は、サーカスの歴史の中で象がどのようなときに凶暴化したのか、それに対して人間はどのように対処したのかを概観する必要がある。人間と同様に、象という動物も、ストレス、苦痛、不快感に襲われるものであり、サーカスの象が扱いにくい状態になる場合があったとしても、凶暴化することは現実には極めて稀であり、調教師あるいは観客のどちらかの安全を脅かすようになるまでは、大きな問題とはされなかった。しかし“An elephant never forgets.”という格言を強調する調教師がいる通り、象を筆頭とする厚皮動物が、他の動物あるいは人間に対して長年の間、恨みを抱き、復讐の機会を狙っていることは事実であると見なされている。そこで、サーカス史上、凶暴な象とみなされた数頭の象について述べる。

20世紀初頭に3人の調教師を殺したと記録されている体重3トンの雌の象^{トプシー} Topsy (1875年–1903年)は、^{コニー・アイランド} Coney Islandの大 amusement park である^{ルナパーク} Luna Parkの人気者で、更にパークのアトラクション建設作業にも貢献した象であったが、年取るにつれて短気になっていたことは事実である。しかし、Topsyが殺した3人目の男は酒に酔って火の付いた煙草を彼女の口の中に投げ込んで激怒させたのであった。Topsyは6,000ドルの値打ちのある象ではあったが、Luna Parkの経営者であったThompsonとDandyは道義的観点からこの象を殺処分するとともに、これを金儲けの手段とすることにして1903年1月4日の公開処刑を宣伝し、見物の大群衆が集まった。当初は絞殺する予定であったが、絞殺を残酷とするASPCA(米国動物愛護協会)の抗議により、Edisonの派遣した技術者の一団がTopsyの体に6,000ボルトの電流を流して、約10秒間で感電死させた。そしてLuna Parkが1944年に全焼したときに、Topsyの復讐である、と噂された³¹⁾。

Queen(別名Mary)は、この象を知っていた人々にとっては巡業に連れて行くのに最も凶暴な象の一头と言われていた。最初にいたAdam Forepaugh Circusで、飼育係の首に鼻を巻き付けて窒息死させ、次のJohn O'Brien Circusでは“Empress, the War Elephant”と宣伝され、このサーカスにいた間

に少なくとも 5 人を殺した。W.H.Harris Nickle Plate Circus に買われたときに彼女の名は、Mary と変えられたが、Chicago で公演が行なわれていたときに、飼育係を殺したために殺処分が決定したが、Col. George W.Hall が執行を中止させた。しかし、そのために彼は危うく命を失う所だった。すなわち彼が移動動物園で Queen の隣に立っていた赤ちゃん象にピーナッツをやっているのを見て嫉妬心を起こした Queen が急に凶暴化して、Hall を地面に叩き付けて腰に一生治らない重傷を負わせた。だが、Queen はその後あちこちのサーカスを渡り歩くうちに Forepaugh Circus にいた象使い John Durham と再会できたときには大変穏やかに彼の指示に従ったが、彼と別れると寂しがって脱走を試みた。New York 州 Buffalo の街頭でサーカスのパレードが行なわれていたとき、Queen は目の前に飛び出してきた小さな少年を打ち倒し、彼の上に膝を乗せて即座に圧死させた。引き続き South Carolina 州 Columbia でテントボスの助手を打ち倒して、押し潰し、その負傷がもとで彼は死亡し、これが 13 人目の犠牲者となった。1909 年まで Queen は鎖で嚴重に繋いでおかれた後に Frank A.Robbins Circus に売却されたが、手に負えなかったので、Robbins はこの象を殺すこととし、入場無料で Chicago の Tattersall's Pavilion で感電死させるのを公開することにした。しかし動物愛護協会が Queen の殺処分を中止させ、最終的に Hagenbeck-Wallace Circus に売られた後の殺人歴は残されていない³²⁾。

次に、Lucky Bill Newton は、彼が 6 年前に買った雄の象^{ヒーロー} Hero が次第に手に負えなくなってきたために、1916 年に Orton Brothers Circus に 4,500 ドルで売却した。もともと従順であった Hero が制御できなくなってきた原因の一つは発情期であったためと類推される。Orton Circus へ移った直後の 1916 年 5 月 14 日、South Dakota 州^{エルクトン} Elkton で飼育係に鞭で打たれて激怒した体重約 5 トンの Hero は、その男を鼻で掴んで投げ飛ばし、ワゴンを壊し、馬を殺して逃走したので、サーカスの人々だけでなく町の人々、農民たちも加わった追跡隊に 2,000 発以上の弾丸を浴びせられ、遂に郡保安官の強力なライフル銃で射殺された³³⁾。

1916年9月13日に Tennessee 州 ^{テネシー} Erwin ^{アーウィン} で殺された24歳の雌の象 Mary (1892年-1916年) の死ほど痛ましい動物虐待の記録はなく、また冷静さを失った暴徒というものが、サーカスの動物の生命を奪うことに狂奔する有様が明らかにされる。Spark's World Famous Show の経営者 Charles H. Sparks が 1896年に購入した4歳の象 Mary は、このサーカスで初めての象で20年間活躍し、“Largest Living Land Animal on Earth” と呼ばれており、20,000ドルの価値があると見なされていた。Sparks 夫妻は心の優しい人々で、調教師たちは動物たちに愛情をもって接し、彼らのサーカスは健康的な family entertainment としての名声を博し、発展していた。1916年9月12日、Tennessee 州 Kingsport での昼興行の後で、Mary が水飲み場からテントに戻る途中、道端の西瓜を食べようとしたところ、前日に雇われたばかりの象の世話係の Walter “Red” Eldridge が、象が最も神経過敏である耳の後ろを突き棒で傷つけたため、激怒した Mary は彼の体を鼻で掴んで投げ、彼の頭を完全に踏み潰してしまった。これを見た人々は驚愕して「象を殺せ！」と叫び始め、地元の鍛冶屋が発砲した。Charles Sparks は、すぐに現場に駆けつけて Mary を落ち着かせ、彼女は見物人の誰も傷つけなかった。しかし新聞は Mary が過去に多くの人を殺した凶暴な象であるという噂をまき散らし、近くの町の指導者たちは Mary を生かしておくなら、このサーカスの興行を認めないと威嚇した。従って、興行が壊滅的打撃を被るのを恐れた Sparks 夫妻は、彼らが長年愛着を感じてきた Mary をやむなく殺処分すると決定した。しかし、体重5トンの象をいかにして殺すべきか悩んだ末、Charles Sparks は、鉄道車両起重機を用いて Mary を絞殺することを決め、翌日、彼女を Tennessee 州 Erwin へ鉄道で運んだ。異変に気づかぬように他の象と一緒に歩かせた後、象使いは Mary を Clinchfield Railroad の敷地に誘導し、首の回りに鎖を巻き付けた。鉄道車両起重機での絞首は最初は鎖が切れて失敗し、二度目の絞首により、Mary は数分後に死亡した。彼女が絞殺される様子を Erwin の町の2,500人の群衆が見つめていた。(その間も「象を殺せ！」の大合唱が不気味に響き渡っていたと伝えられている。) Mary の遺骸は絞殺された場所のそばの鉄道用地

に埋葬され、Erwin は哀れむべき象 Mary をリンチにかけた悪名高い場所として長年、人々に記憶に残されることとなった³⁴⁾。

Black Diamond (1898 年—1929 年) は、当時のアメリカの人々が見ることができた最大級の体重 9 トンの雄の象で、非常に有能であったが、短気な傾向があり、1926 年に調教師 Been Reed を Texas 州で殺して以来、常に鎖で繋いでおく必要があった。Black Diamond の調教師を 7 年間務め、28 年間この象と親しくしてきた Homer D. Pritchett は、1928 年 Texas 州 Navarro County の Corsicana に Al G. Barness Circus が滞在していたときに、作家 Eva Donohoo の申し出により、サーカスと象を後に残して、彼女の農園の動物の世話をする仕事を引き受けた。ところがこの二人の会話は、偶然 Black Diamond の前で交わされ、賢い象は話の内容をよく理解した。それから 1 年半後、再び Al G. Barness Circus は、同じ町で公演することになった。Pritchett はこのサーカスを訪れて、鉄道の車両から動物たちを降ろすのを手伝い、Black Diamond と再会し、彼らの親交は回復したかに思われた。しかし翌日の 1929 年 10 月 12 日 Corsicana の街路をパレード中、Black Diamond は群衆の中にいた Eva Donohoo の姿を見つけると急に暴れ出し、抑えようとした Pritchett を T 型フォード車の上に投げ上げて腕の骨を折り、Eva Donohoo を地面に何度も叩き付けて殺した。Black Diamond が友情と信頼を裏切って自分を見捨てた調教師に復讐し、彼を自分から奪った人間の女に対する凄まじい憎悪と嫉妬心に駆られて Eva Donohoo を惨殺した事実は、象という動物の感情の激しさと恐ろしさを立証するものであろう。Al Barnes Circus は、その当時 Ringling Brothers Circus によって買収されていたため、この象の所有者であった John Ringling は「人道的な手段で Black Diamond を殺す」よう電報で指示を出した。1929 年 10 月 16 日、(賢い象に悟らせぬよう) いつもサーカスのパレードをするときと同じような体勢を Black Diamond に整えさせ、町から西 1 マイルの森の中の空き地に連れて行くと、サーカスの人々は彼の体を 3 本の巨木に繋ぎ、全ての足も鎖で繋いだ。そして 5 人の射撃の名手が 155 発を撃ったときに Black Diamond は倒れ、最後の 1 発で死亡し

た³⁵⁾。

このように歴史に残る兇暴化したといわれる象たちの生涯を辿ると、いずれも殆ど悲惨な結末を迎えている。「象のいないサーカスはサーカスではない」³⁶⁾と言われるように、象はサーカスを象徴する極めて貴重な存在であるが、サーカスの心ある人々がいかに彼らを愛したとしても、人間と強大な破壊力を持つ象との対決を迎えた場合、最終的には、人間の生命を守るためには、どのような手段を講じても排除するしか道はなかったのである。

Love, Let Me Not Hunger の中の Toby と象の Judy との闘いを写實的に描いた場面は凄絶極まりないが、Paul Gallico が象という動物の恐ろしさと狡猾さを知り尽くしていたからこそ書くことができたものであり、安っぽい感傷も偽善も微塵も感じさせない所に芸術的意義が認められるのである。攻撃体勢を整えていた Judy は、Rose の体を空中から地面に叩き付けて踏み付け、牙で体を引き裂くために、まず彼女の体を鼻で巻き上げた。その瞬間に Toby は、象使いの突き棒の鋼鉄の先端を Judy の口の中に押し込んで象の舌を傷つけて苦痛を与え、細い気管を塞いで息を詰まらせた。これまで友であった男から突然の襲撃を受けたことでうろたえた Judy が Rose を捕らえていた鼻の力を一瞬緩めたために、彼女の体は雑草の中に転がり落ちたが、まだ象の攻撃範囲内に倒れていたため、依然として、死の危険に晒されていた。従って象の口から突き棒を引き抜いた Toby は、いよいよ狡猾な野獣との壮絶な命懸けの闘いに挑んだ。Judy は Toby の体を牙で刺し貫こうとし、それに失敗すると、今度は彼の足を噛み砕こうとした。しかし Toby は殺意をたぎらせた血のように赤い象の眼の一つめがけて突き棒を突き上げ、その鋭利な先端が眼の縁に当たった象は、苦痛の悲鳴を上げ、右前足を繋いでいた鎖を断ち切り、遂にその獣の行動を抑えている鎖は、僅か一つになってしまった。Toby がいかに若く機敏であろうとも、完全に束縛から解放され怒り狂った巨体の野獣の前では 1 分も持ち堪えられず、Rose も彼も殺されることは明らかであった。Toby の心には、少年の頃に自分の師匠と仰いでいた名調教師 "Elephant Al" が巨象と対決したときの記憶が深く刻まれていたが、10 年以上前に Toby を震撼させたその恐ろ

しい闘い「先端に鉄を取り付けた突き棒 1 本の武器しか持たない微弱な男と、牙、鼻、足と狡知を駆使して人間を殺そうとする激怒した野獣」³⁷⁾との決闘に挑んでいるのは、Toby 自身であった。彼自身と象の血で全身を血だらけになり、絶叫しながら、Toby は巨大な獣の鼻のつけね、両眼の間、眼と耳の間を突き棒で攻撃し続けた。そして Toby 自身も崩れ落ちそうになっていたとき、遂に Toby の精神力が Judy に打ち勝ち、彼に立ち向かうのをやめた象の眼からは怒りの炎が消えて、哀れっぽい声を立てて涙を流し始めた。Toby は「お前は負けたんだぞ、横になれ！」³⁸⁾と勝利を宣言し、Judy は従順に命令に従った。

Rose の無事を確認した Toby は、彼のワゴンへ行くよう彼女に命じ、その後はずぐに Judy のそばに跪き、象の大きな頭を抱いて、熱い涙を流しながら、彼女をひどく傷つけたことを詫びた。洞察力に富んだ Judy は、自分を征服した若者の心から流れ出る愛と同情を感じ取り、自分を助けてくれる友人として再び Toby を受け容れ、鼻の先で優しく彼を愛撫した³⁹⁾。Judy の負った傷は幸い自然に治る性格のものであったけれども、Toby は自分が彼女にいかに残酷な仕打ちをしたか考えると、悲しみと自責の念で胸が張り裂けそうになり、名状し難い深い愛情を自分がこの象に感じていることを悟った。従って我々は、Rose の命を救うために Toby は象の Judy と決死の闘いを行ない、両者は肉体的な傷を負ったけれども、この闘いが終わったときに、青年は生涯で初めて「愛」というものの真の意義を悟り、人間として限り無く成長したのだとみなすことができる。

ワゴンに戻った Toby は、そこに立っていた Rose が醜いまでにやつれ、やせ衰えてしまっているのを見て、一瞬にして真実を把握した。彼女は自分自身のために身を売ったことは一度としてなく、Toby から追い出された後に餓死寸前の状態にまで追い詰められたのだと悟った彼は、自分が卑しい連想をしていたことへの恥ずかしさで、吐き気を催すほどであった。ワゴンに戻って来た Toby の姿を見た Rose は、すぐに立ち去ろうとしたが、Toby は彼女に行かないでくれるよう頼み、悲嘆で身を震わせながら、体をベッドに投げた。Toby

を眺めていた Rose の心の中で、しばらくの間、恐怖、疑念、不安が暖かさや優しさと同調していたが、彼のわきに横になって彼を抱き寄せたので、ようやく彼は彼女の腕の中で平静さを取り戻すことができた。そして危機と疲労から立ち直った彼の心に青春がよみがえり、我知らず愛に満たされる思いがした、と述べられている。彼は、身を寄せている Rose の肌の下で鼓動している「暖かくて優しい何か」に対して愛情と同情を感じ始め、彼女を抱き締めながら、「彼女の女性らしさ、若さ、純真さ、彼女の中で鼓動している愛」を胸の奥深くまで吸い込み、以前には言うことなど決して考えていなかった“Rose—I love you.”という言葉の口にするのができた⁴⁰⁾。今や Toby は彼女を通して愛の最終的意義を知り、「この娘、この女性、この人、彼と同様に孤独な、もう一人のこの人間」に対する愛情がほとぼしり出るのを感じた。以前には激情に駆られた未熟な若者であったために決して理解できなかった愛の秘密と啓示が彼女を通して解き明かされ、遂に Toby は「男であり、生きて愛すること」の真意を理解することができたのであった⁴¹⁾。

Sam Marvel のサーカスの資産の全てを買い取った Joe Peabody は、任意契約によって、離散していたこのサーカスのパフォーマーたちの優れた演技をも受け継ぐことができた。さらに彼は Marvel がスペインに放棄してきた動物たちと車類を正価の 10% の価格で引き取っていたので、それらの損害状況を正確に確認する目的で、かつて Marvel のもとで働いていた Harry Walters と彼の長男 Jacko、Birdsalo 一座、道化師 2 名、テントボスであった Joe Cotter、Jackdaw Williams に加えて彼の妻と彼自身の雇人たちも伴って、9 月の末に、Zalano の宿営地を訪れた⁴²⁾。そして彼らの到来によって、Toby と Rose は二人だけの楽園のような 1 週間の至福の生活が、永久に破壊されてしまったという現実と直面したのであった。Harry Walters は自分のワゴンで Toby が Rose と生活していたと知ると、彼女を口汚く罵ったので、Toby は愛する女性の名誉を守るために父親を殴り付けた。また、かつて Rose と暮らしていた Jackdaw を見ても Toby は少しも動揺せず、Jackdaw 自身も、Rose が自分への親近感を全く失っているのを悟っても、怒りも憎悪も喪失感も感じることは

なかった。彼は Rose の内面から発するようになった新しい光の輝きを感じ取り⁴³⁾、彼女が自分のワゴンも綺麗に整えておいてくれたことに満足した。

60歳の年齢にもかかわらず頑健な体と明るい性格の持ち主の Joe Peabody はサーカスという共同体の大黒柱にふさわしい雰囲気妻に向かって、「みすばらしくて死にかけている沢山の動物と壊れたワゴンの山を集めて来たんじゃないかと思っていたら…母さんや、一財産を手に入れたんだ…Sam に感謝しなきゃならんな！」⁴⁴⁾と語ったが、Toby は痛烈な口調で、わずかな金しか託さずに帰国し、スペインに残されて餓死して行った動物たちと苦境に陥った自分たちを見放したあげく、焼け落ちたサーカスに対して支払われた保険金でボーリング場を購入した Sam Marvel の酷薄さと非道を責めた。Peabody との取引において正直であった Sam Marvel は、彼が放棄してきた人々と動物と設備がどのような状態であるかについては解らないと告げていた。しかしサーカス・ビジネスの運営方法と人間性において Marvel とは天と地の差があった Peabody であれば「自分の動物の一頭あるいは雇人の一人でも飢えさせるような事態が発生する前に自分自身が乞食になっていたであろう」⁴⁵⁾と述べられているので、Joe Peabody のような人物こそ、サーカス・エンターテインメントを担う事業家として理想的な人物であると作者 Gallico がみなしていたことは明らかである。Peabody には Marvel が保険金の支払いをずるずると引き延ばされてきたためにどうしようもなかったことを理解してはいたが、Zalano に残留した人々や動物たちが、7月半ばの落雷事故の発生から現在までの10週間もの間、いかにして切り抜けることができたのかと Toby に尋ねた。彼は、無力な動物たちの命を救うために、見知らぬ国の見知らぬ人々の中で自分たちが持っている唯一つのものである我が身を売った二人の人間—Albert 老人と Rose に対する自らの無知と思いやりのなさを恥じた、と記されているので、Toby が Rose への真の愛にめざめたことを通して、いかに叡智と思慮深さに富んだ青年に成長したかが明らかにされる。

どうすれば、この娘が動物たちに抱いている熱烈な愛情や、無益な人生を

送ってきた孤独な老人が自分の愛する檻の中の動物たちのために己の人生に突然の意義を見出したことを、いかにして、Peabody や彼の父や誰か他の人々に理解させられるだろうか？⁴⁶⁾

Rose と Albert 老人の真情を他人に説明することは不可能に近いことであったが、Toby は Rose の支払った痛ましい犠牲については一言も触れず、Marvel のサーカスの動物係の老人が金持ちの女に援助を依頼しに行ったのだと Peabody に説明した。この若者の険しい表情や実の父との深刻な対立、彼が若い娘の肩を抱いている様子、Fred Deeter の失踪、老人と富豪の女との関わりなど、不可解な秘密があり過ぎたが、Peabody は詳細に迫及しない方が良く判断し、思いがけなく、最高の健康状態の貴重な動物たちや高価な車類を入手できたことで彼は十分に満足した。

父親と兄が戻ってきた以上、Toby と Rose は別のワゴンに移って眠ったが、彼は彼女がいつも身近にいてくれることを非常に幸せに思うとともに、彼女が自分のものであり、彼女を通して自分が大地をしっかりと踏みしめて歩けるような一人前の男に成長できたことに対して、激しい誇りを感じていた。そして彼は、世の中とは単純に黒白が区別できるものではなく、様々な色合いが混ざり合って成り立っているのだと明確に認識することができるようになっていた⁴⁷⁾。

Zalano に取り残されていたサーカスが新たな旅立ちの順備を整えるためには約一週間で費やされたが、出発予定日の前日に、Harry Walters は息子を家族と一緒に連れて行こうと試みた。Toby は、父親が彼に、サーカス界の名門 Walters 家の息子である以上、若気の至りで好きになった Rose のようなかわいしい娘と別れて“decent girl”（「ちゃんとした娘」）と結婚すべきだと説教しにきたことの真意をはかりかねたが、自分の言動に責任を持つ一人前の男に成長していた彼は、Rose と結婚するつもりだと明言した。これに対して、常に息子や娘に対して暴君的な態度を取ってきた父親が、全く彼には相応しからぬ瞑想的な表情で、もし Toby がそう決断したのなら、自分も妻も、Rose を

自分の娘のように寛大に受け容れてやるだろう⁴⁸⁾と語ったとき、Tobyには真相が理解できた。Zalanoから帰国後、Walter一家の息子たちは、Royale-Renaldo一座で不足していた騎手の代役を務め、この一座は当時のイギリス最大のサーカス Chipperfields' Circus と契約を結んでいたもので、そこに出演でき、Walters家の娘たちは wire act をする機会に恵まれたとのことであった。しかし実は、Chipperfields' Circus での Walters 一家の短期間の公演が成功せず、次年度の出演契約を取り交わせなかったために、彼らは小規模な Peabody's Family Circus へ移らざるを得ず、その最大の原因は、Walters 一家の演目の要であった騎馬道化師 Toby が欠落していたので「喜劇的な動作以上に、騎手としての完璧なバランス・自信・技術」⁴⁹⁾によって観客席から獲得していた「自然な笑い」を獲得できなかったからであった。一家の演技にとって決定的に必要な要素が Toby であったと知らされた父親としては彼を懐柔する策を弄したに過ぎなかった。Toby は、彼が Rose の人間性を理解した瞬間以来、彼女から成熟した知恵を与えられたので、人生の本質を見抜く能力を身につけることができたことを誇りに思い、自分は Rose と二人だけで暮らして行くという決意を語った。この時点に及んで遂に Harry Walters は本性を暴露して怒りを爆発させて、口汚なく罵り始めたが、Toby は相手にしなかった。しかし父親が述べた言葉の中に含まれている真実、すなわち騎手が家族で一団となって演技を行なうことが一般的であるサーカスの世界において、単独では、騎馬道化役者としての地位や名声を得る機会に恵まれず、Toby の技術がいかに優れていても、どこかのチームに加わることで自体、殆ど不可能に近いことを彼は熟知していた。しかし彼は、全くの無一文で自分の馬すら持っていない現状で、食べるものにも事欠くような貧しく困難な日々を生き抜かねばならないとしても、Rose と一緒なら切り抜けられるという強い信念を持つに至っていた。Rose が与えてくれる愛情によって、Toby が新たな人生を歩み出すだけの力と気迫と勇気を得られたことは彼にとって至上の幸福であったと言える。

そして、Toby からの手紙を受け取った Albert 老人が、出発予定日前日の午後遅く訪れた。慈愛の心に富んだ彼は、Toby と Rose が深い愛の絆で結ばれ

たのだと悟って深く喜んだが、小人の道化師 Janos の死については卒中が原因であるとしか彼らに告げなかった。Albert 老人と初対面した Peabody は、知り合いの裕福な婦人に頼んで動物たちを全滅状態から救ってくれたことに対して彼に感謝し、「ライオンや虎を子猫のように座らせられる」彼の素晴らしい特技を高く評価しているので、Marvel 以上の給与を支給するから、好きなだけ長い間、自分のサーカスで働いてもらいたい⁵⁰⁾と提案して、彼を喜ばせた。しかし Albert 老人は、女侯爵が自分を解放するまでは留まると約束した以上、帰国できない⁵¹⁾と語り、さらに Toby も家族と一緒に騎手として働くことはできないと言ったので、Peabody はサーカス経営者として素晴らしい騎馬道化役者を得られなくなったことを残念に思った。とはいえ、最も実力のある Toby が加わった Walters 一家は、より大規模なサーカスに引き抜かれる可能性もあったので、彼は Walters 一家の演技と名声を安値で獲得できただけでも嬉しいとみなすことにした。彼は Sam Marvel から預かってきていた Zalano 残留組のための給与（その中には失踪した Fred Deeter に渡すはずだった金も含まれていた）を 2 人に渡した。Albert 老人は、Rose と Toby に見送られて Pozoblanco 農園へ戻る間際に、彼らを祝福するために考えてきた全ての言葉を忘れてしまい“*She’s a good girl, Toby.*”と口ごもりながら言うことができなかった。これに対して、僅か数週間前には、無思慮な激情に駆られて Rose を罵倒していた Toby が、叡智に富んだ老人の言葉の真意を汲み取って、彼と同様に“*Yes, she’s a good girl.*”⁵²⁾と述べたことは、実に意義深く感じられる。老人の乗ったジープが砂塵の中で見えなくなるまで見送った後で、Rose は「私は、あなたを自分のものにしようと思ったことは一度もないのよ、Toby。私は姿を消すわ。それで良いのよ。あなたは、自分の家族に帰属すべき人よ。」⁵³⁾と説いた。だが、Toby は彼女の悲痛な諦めの言葉には耳を貸さず、自分たちが Madrid の領事館で結婚した後の生活は過酷なものであろうと予測されるが、ペストを尽くせば何とか暮らしていけるだろうという確固たる決意の言葉を述べた。

翌朝、輝くように美しく模様替えされた Peabody’s Marvel Circus Combined

(ピーボディのマーヴェル合同サーカス)は、真のショーマン気質の持ち主 Joe Peabody の指揮の下で、パレードのスタイルで Zalano の町を通り過ぎて行った。そうすることによって、写真が撮影され、Zalano で餓死に瀕していたサーカスの話が外部の世界へまで伝わるだろうという宣伝効果を狙ったものだった。先頭を進むことになっていた象の Judy は、最初は不安そうで、Toby のにおいをかぎつくと鋭い声で鳴いて、そばに来てくれるよう訴えたので、彼はそばまで行って声をかけてやり、Peabody が連れて来た象使いに、引き綱を握らせたので Judy は当惑した⁵⁴⁾、と述べられている。この場面の描写からも、象がいかに繊細な神経を持った感受性豊かな動物であるかが理解されるであろう。年取って経験豊かな象使いが頬を軽くたたいて「行こう、Judy、お前と私はうまくやって行けるよ。」と促すと、Judy は鼻で彼を探ってみて気に入ったので、従順になった。「Judy を愛してたのね？」と Rose から尋ねられた Toby は率直にそれを認めたが、「でも、もうそれは重大なことではないんだ。それに、あの象は人間の女を憎むことを決してやめないだろう。」⁵⁵⁾と語った。少年時代から無意識のうちに深く愛し続けてきた象の Judy との別れは、Toby の人生の新しい出発を象徴する出来事という重要な意義を持つものと見なすことができる。そして Toby の父親は息子の前を通り過ぎるときに不快な侮蔑的表情で「お前は決心を変えたいとは思わないんだね？」と翻意を促したが Toby は否定し、最後の瞬間に見捨てられるのではないかと恐れ続けていた Rose は安堵して、彼の手にしがみついた。

それに続く場面の描写は、サーカスを生涯愛し続けた Paul Gallico が Peabody's Marvel Circus Combined のパレードを活写した名文である。

列のどこからかリングマスターのわくわくするような笛の音が鳴り響いた。それは、老いも若きも全ての人の心を高鳴らせ、楽しみと喜びと興奮へと導く現代版の牧羊神の笛であった。それに引き続き、発動機ワゴンの電蓄が、サーカス入場行進曲を高らかに奏でた。……象使いの男は Judy の頭に跨がり、彼女を棒で軽く叩いて…前へ進ませた。彼らはスペイン人たちの大きな歓声が湧

き起こり、ハンカチや帽子が振られる中を出発した。低速ギアにされたエンジンの回転音に合わせて光輝くワゴンが通り過ぎていくとき、再びサーカス・パレードの勇壮な音楽が Zalano の町に鳴り響き、動物たちの吠え声、鳴き声、唸り声、子供たちの叫び声、見物人の拍手喝采が湧き起こった⁵⁶⁾。

つい10週間前に、事故現場から一刻も速く逃げるようにして大型バスで立ち去った Sam Marvel の怯懦さや酷薄な営利主義と心温かで剛毅な Joe Peabody の生来のショーマン気質の差が歴然とするのが上記の情景描写であろう。悲劇のあとで華麗な生氣を取り戻した小さなサーカスは、栄光ある再出発をすることができ、往路と同様に北進して Santander へ行き、そこからイギリスへ戻る予定であった。別れと祝福の言葉を残して Peabody 夫妻のワゴンが Toby と Rose の前を通り過ぎ、カラスを肩にとまらせた Jackdaw Willams は彼らに片手を振りながらワゴンを発進させた。遂に最後のワゴンが通り過ぎ、見物人も立ち去ると、サーカス用地には Toby と Rose だけが残され、地面にはテントの残骸の跡が残された黒焦げのサーカスリングとワゴンや動物の檻が野営していたことを示す U の文字を見つめる彼らの脳裏には、ここにテントが張られてから起こった出来事が蘇り、自分たちのもとを去って行った2本足や4本足の友を懐かしむ思いが胸に押し寄せてきた⁵⁷⁾。しかし、全ての友が去った後、Toby と Rose は互いに指を絡ませ、新たな人生を二人だけで切り拓くために町へ向かう道を歩んで行った。

Pozoblanco の女侯爵は、Zalano にサーカスがやって来てから数か月後の10月に肝臓癌にかかっていることが判明し、地元の医者も、Madrid の専門医も、London と New York から飛行機で呼び寄せられた専門医もどうすることもできず、手術に体が持ち堪えられないので、屋敷で死を待つ身となった。毎年、楽しく陽気な祝祭の日であるはずのクリスマスの日に、女侯爵は死の床にあった。そして、この時期に La Mancha 高原を襲って来る寒風と霏混じりの雨のために一層陰鬱な聖夜となってしまった。これまで Albert 老人にとってクリスマスが非常に重要な意義を持つものではなかったけれども、少なくとも

イギリスにいさえすれば、家族や多くの友人を持たぬ彼であっても、クリスマスの楽しく心暖まる雰囲気を楽しむことができたことであろう。そこで、憂鬱さから解放されたかった Albert 老人は、自分の小部屋で Deeter の給料を分けしてもらったお金で買った貴重な宝物である小型ラジオに聴き入った。かつてラジオ店で働いていた経験のある彼は、そのラジオをうまく扱って、波長がパックされる夜間に、できる限り多くの英語の放送や馴染みのある番組のテーマ音楽を、何とか引き出そうと試みた。この日の夜の気象状態の悪さのためにうまく受信できなかったが、南の方角に激しく吹きつける疾風のためにラジオの出力が増幅された結果、BBC の放送が流れてきた⁵⁸⁾。Paul Gallico の激情がみなぎる *Love, Let Me Not Hunger* の中で読者に最も深い感銘を与える場面の一つは、百万マイル離れたスペインの平原の中の小さな部屋にいる孤独な老人のもとへ、この嵐が、思いがけなくも、彼の胸を張り裂けさせるようなクリスマスの贈り物を運んで来た情景の描写である。人間の視覚と聴覚を完全に支配する伝達手段である「テレビ」という文明の利器は Sam Marvel のサーカスにとって不倶戴天の敵であり、また彼には「テレビ」という新しいメディアを、サーカスというライブ・エンターテインメントを発展させるための手段として用いることができるという発想など全く思い浮かばず、最終的には全く別の分野の娯楽産業に逃避する道を選んだ。さきに述べたように Chipperfield's Circus や Billy Smart's Circus はテレビ放映を通じて、不特定多数の視聴者にサーカスのショーの魅力を伝えることを実践できたが、Sam Marvel にはマスコミを活用することなどは思いもよらず、そこに彼のエンターテインメント企業家としての限界があった。Gallico は 1969 年に発表した *The Day Jean-Pierre Joined the Circus* の中で、Paris のサーカス専用劇場での実況放送が地中海に臨む Cannes 郊外の家の居間に届けられて主人公 Cecile がテレビのスクリーンに映った彼女の最愛のモルモット Jean-Pierre と再会できた場面をドラマティックに描いている⁵⁹⁾。従って Gallico が、サーカスという長い歴史と伝統を持つライブ・エンターテインメントを振興させる有効な手段として、テレビという機械文明の利器を活用することが最も望ましいと考えていたと推察される。

1960年代初頭のスペインの都市部以外でテレビは普及していなかったが、ラジオは既に一般的なものになっており、聴覚のみに訴えるラジオというマスメディアは、人間の頭脳の中で想像力と思考力の発展を無限に促すものとして（ある意味ではテレビ以上の）大きな価値を持っている。その夜 Albert 老人の耳に聞こえてきたのは、イギリスの South Yorkshire の ^{シェフィールド}Sheffield 競技場で開催されている Peabody's Marvel Circus Combined による Sheffield の孤児院の子供たちを対象としたクリスマス・チャリティ公演の実況放送⁶⁰⁾であった。アナウンサーは、三千人の子供たちの熱狂的な歓声を受けながら現地時間の夜8時に開始されたパレードの様態を伝えたので、息も止まるほどの衝撃を受けた Albert 老人は、あたかも彼自身が機械の中に入り込もうとしているかのように、スピーカーの金属製の網目に耳を押しつけて聴いていた。

彼は Sheffield のリングのおが屑の中で、以前と同じようにロープやワイアーの状態を調べながら走り回り、支柱を組み立て、動物と人間とポップコーンとべとべとした砂菓菓子⁶¹⁾の混ざり合った、サーカス独特の鋭い刺激的な匂いを吸い込んでいた彼— Albert Griggs 自身の姿を、そこに見つけだそうとしているかのようにであった⁶¹⁾。

名高いカラスを肩に止まらせた Jackdaw Williams を始めとする道化師たち、インド人の衣装を着た驚嘆すべき Walters 一家の次男 Ted が乗った名高い象の Judy を先頭とする象たちの行進をアナウンサーが伝えたとき、思わず Albert 老人は、彼が惜しみ無く愛情を注いだ象の名前をささやき、クリスマスの数日前に Toby と Rose から送られてきたチューリッヒ湖の絵葉書のことを思い出した。彼らはしばらく困難な生活を送ったが、現在 Toby はスイス最高の名門サーカス Circus Knie の冬季本部の厩舎で働いており、来年には騎手の職を得られるであろう、とのことであった。Toby が通信欄に、ここには優れた動物たちがいると述べている通り、Circus Knie は、21世紀初頭現在においても特に動物芸が優れたヨーロッパの超一流のサーカスであり⁶²⁾、卓越した

技を備えていた Toby が愛妻 Rose に支えられて国際的なサーカス・アーティストとして活躍するであろうという明るい未来が窺われる。一方ラジオのアナウンサーが興奮しながらパフォーマーや檻に入った動物たちが放送席の前を通過する有様を伝えるのを聴いているうちに、感極まった Albert 老人は泣き出した。サーカスの公演が開始し、全ての聞き慣れた音楽からリング上の自分が何を行なっているはずであるかが予測できたので筋肉が痙攣を起し、彼はラジオの前に座って泣いていた⁶³⁾。これ以上耐え切れないと感じた彼は、自分の心を引き裂く調べが発せられているサーカスに戻るために帰国する許しを女侯爵から得ることを切望した。

まさしくそのとき、Albert 老人の部屋を激しくノックする音が聞こえ、無帽のために雨で顔を濡らしたままの執事が戸口に立っており、ラジオにすっかり心を奪われていた老人に、女侯爵のもとへ直ちに出演するように命じた。執事が老人をせきたてて演技用の衣装に着替えさせている間も、ラジオからはトランポリンの演技が中継されていた。心を部屋に残したまま、執事に引きずられるようにして、Albert 老人は嵐の中を女侯爵の部屋へと急いだ。

蝋燭の灯りだけが輝いている寝室の四柱ベッドの上で半ば身を起こしている女侯爵の姿は、見る者を恐怖に陥れるもので、特に巨大に膨れ上がっていた彼女の肉体が萎んでしまい、あたかも死が彼女の命を奪う前に脂肪を溶かすことを望んだようであった⁶⁴⁾、と述べられている。我々は、かつて餓死寸前の象 Judy の苦しみを見ていた Toby が「あの象が萎んでいく有様には耐えられない。」と悲痛に叫んだ場面と、臨終の床にある女侯爵の巨体が萎縮してしまった光景とを呼応させることによって、作者 Gallico が劇的効果を高める意図を持っていたと推察できる。そして、死の床にある女侯爵は、Zalano でサーカスが公演されたときにかぶっていたのと同じ赤毛のかつらをかぶり、全く同じ化粧を施していた⁶⁵⁾。もはや自分の魂も肉体も救済してくれないと解った神父たちや医師を怒鳴りつけて立ち去らせた彼女は、死に際に会いたかった唯一の人物である Albert 老人の姿を見ると、病いで縮んだために一層戯画化された醜い顔で微笑んで“My funny man,” (“funnyman”には「道化師」の意があ

る)と呼びかけた後で、次のように述べた。

「お前は私を笑わせるために来てくれたんだね？私のために転んでくれるね？…私は笑いながら死にたい。笑いは、我々をからかうことを決してやめようとはしない神を喜ばせるに違いない。できることなら、私は自分の墓の上で、お前に転んでもらいたい。そうすれば、私が余りひどく笑うので大地を揺るがせて、生き返れるかもしれない。」⁶⁶⁾

いかに栄耀栄華を極めた独裁者であれ、余りにも醜悪な容貌であるという現実から必死で逃れ続けようと苦悶し続けてきた60年間の孤独な生涯を終える間際に、女侯爵が切望したことは、あらゆる虚飾と偽りの感情を捨てて、心から笑いたいということだけであったと作者 Gallico は主張しているのであろう。Albert 老人が、このような彼女に対して同情のまなざしを向けると、彼女は「私を哀れむのはやめて。お前は、これまで本当に私を楽しませてくれた唯一の人だった。私を置いて行かないで。」⁶⁷⁾と頼んだ。Albert 老人は「死の部屋」で滑稽な演技を行なうことができなかったので、執事に敷き物を引っ張るよう頼み、足下をすくわれて空中でもがき、眼鏡が片耳から外れ、彼の体は山高帽の上に墜落して、帽子は音を立てて破裂した。彼は髪を乱し、頭が混乱した患者のような顔つきで、床の上にいた。その動作を見ていた女侯爵は顔に手を当てて、激しく体を揺らしていた。しかし彼女は笑っていたのではなく、実は涙を流して泣いていたのだった。そして、ベッドのそばに立っている執事と老人を見て、突然ほんの一瞬、彼女の眼には底知れぬ驚きが浮かんだが、それは無邪気な子供がびっくりしたような表情であった。それから、その眼には何の表情も見られなくなり、彼女は死んでいた。Albert 老人には、笑いながら死にたがっていた女侯爵を笑わせられなかったことが自分の生涯で最大の失敗のように思われた⁶⁸⁾と述べられているが、彼女に非常に長く仕えてきた思慮深い執事が述べた通り、涙を流すことを知らなかった彼女の人生の最後に「泣く」ことを教えた Albert 老人の演技は非常に有意義なものであった。自分を

偽り続け、感情を押し殺し、仮面の下で虚飾の人生を送り続けてきた一人の女が、その生涯が終焉を迎えようとしていたときに、自分を楽しませるために滑稽な演技を見せてくれる老人の演技を見たことによって生まれて初めて人間らしい感情を獲得し、自分の人生を回顧して、その悲惨さを自ら嘆くという率直な意思表示を行なうことができるようになったがゆえに、彼女は涙を流したのであろう。Albert 老人は、いわゆる職業的道化師ではないが、孤独な人間に「笑い」という原初的な感情を引き起こさせ、更に、彼があらゆる種類の動物たちと心を通わせることができたのと全く同じように、最終的には、その人間の心を開いて自然な情緒表現を行なわせ、無垢な子供のような純粹さを取り戻させることができたという点において、愚者にして聖人でもありうる真の道化であったと言えるであろう。

Albert 老人は、みぞれ混じりの雨で頭を濡らして自分の部屋に戻る途中で、自分の姿を女侯爵が見て、笑ってくれることを望んでいた。再び部屋に戻ったとき、スイッチを切らずにいたラジオからは雑音が発せられているだけで、もはや BBC 放送の Sheffield 競技場からのサーカス実況番組は全く聞こえてこなかった。彼は、ちょうどその時間帯に演技を行っていた懐かしい仲間たちを自分の部屋に呼び戻そうと懸命に試みたが、彼らは二度と帰って来なかった。彼は Toby から送られてきた葉書を取り上げて指で撫で、再び、文面を読んだ後で、最後の行の「愛をこめて、Rose」という文字と抱擁とキスを示す印を見つめた。

銀の棺に納められた女侯爵の亡骸は大農園のそばの墓地の霊廟に葬られた。葬儀の後、執事の Don Francisco は Albert 老人に、女侯爵が死亡した以上、イギリスへ帰国して、もとのサーカスへ戻るのだらうと尋ねると、彼は、彼女は永久に自分に仕えるように命じた以上、死んだ後も自分がここに留まれば彼女の霊は喜ぶだろう、と答え、深い同情をこめて “She was a poor, unhappy woman!”⁶⁹⁾ と語って執事を驚嘆させた。Don Francisco は、老人の意中を察して、彼が望むなら、いつまでもここに留まれると告げ、女侯爵の甥が新しい Pozoblanco 侯爵となるが、それ以外は全く今までと同じであると伝えた。執

事以外の誰とも言葉が通じない農園での生活ではあるが、簡素な部屋に住み、彼を慕う邸内の動物たちや親しく接してくれるスペイン人たちの中で自分の晩年を送ることを Albert 老人は選択した。彼は、女侯爵の死が自分の身の解放を意味してはいないと思い、また、解放されることを自ら欲してもいなかった。彼は、愛に飢え続けた生涯を送り続けた一人の孤独な女が最期の瞬間に語った“Never leave me.”（「私を置いて行かないで。」）⁷⁰⁾ という嘆願をかなえることが自分のつとめであると信じて、この地に留まる決意を固めた。

【注】

- 1) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.236.
- 2) *Ibid.*, p.239.
- 3) *Ibid.*, p.239.
- 4) この比喩から、Toby が、Rose と比較して、いまだに精神的な未熟さを脱し切れないことを Gallico が暗示しているように感じられる。（*Ibid.*, p.240.）
- 5) *Ibid.*, p.242.
- 6) *Ibid.*, pp.243-244.
- 7) *Ibid.*, p.244.
- 8) *Ibid.*, p.245.
- 9) *Ibid.*, p.246.
- 10) *Ibid.*, p.248.
- 11) *Ibid.*, p.250.
- 12) Paul Gallico, *The Zoo Gang* (London : Heinemann, 1971), p.118. *Ibid.*, p.124.
- 13) *Ibid.*, p.124.
- 14) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.251.
- 15) Paul Gallico, *Thomasina*, pp.200-204. 獣医 Andrew MacDhui は、溪谷の野営地でジプシー（ロマ）に虐待されながら芸を強いられている瀕死の子熊を見て激怒に駆られ、この子熊や他の哀れな動物たちを助けるために命がけでジプシーたちと闘う。
- 16) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.253.
- 17) *Ibid.*, p.253.
- 18) *Ibid.*, p.253.
- 19) *Ibid.*, p.254.
- 20) 1932 年の映画 *Freaks* (『フリークス』、監督・制作 Tod Browning) は、生まれつき他人と非常に異なる外観を持った人々が悲劇的運命を克服し、freak show のパフォーマーとしてショービジネスの世界で逞しく生活している有様を描いたものであるが、彼らが決して現実から目をそむけず、正常な身体を持つ人々と同じように愛し、苦しみ、友情や家族愛を心の支えとして生きている点が極めて感銘深く、*Love, Let Me Not Hunger* に登場する女侯爵よりも遥かに、彼らの方が精神的に強靱である点が

印象的である。

- 21) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.256.
- 22) *Ibid.*, p.266.
- 23) *Ibid.*, p.270.
- 24) *Ibid.*, p.261.
- 25) *Ibid.*, p.262.
- 26) *Ibid.*, p.263.
- 27) *Ibid.*, p.264.
- 28) <http://homepage3.nifty.com/btocjun/rekisi%20kikou/houryuuji/4-syasinsyako.htm>.
- 29) Paul Gallico, *op.cit.*, p.260.
- 30) *Ibid.*, p.272.
- 31) Tom Ogden, *op.cit.*, p.303. ; <http://www.roadsideamerica.com/story/3641>.
- 32) Earl Chapin May, *op.cit.*, p.102. ; Tom Ogden, *op.cit.*, pp.303-304.
- 33) Tom Ogden, *op.cit.*, pp.304-305. ; <http://www.roadsideamerica.com/story/14421>.
- 34) Tom Ogden, *op.cit.*, p.304. ; <http://blueridgecountry.com/archive/mary-the-elephant.html>. ; <http://www.rootsweb.ancestry.com/~tnunicoi/mary.htm>.
- 35) *Earl Chapin May, op.cit.*, pp.102-103. ; Tom Ogden, *op.cit.*, p.304. ; http://www.txgenweb6.org/txnavarro/biographies/b/black_diamond.htm. ; http://www.circusinamerica.org/public/people/public_show/5109.
- 36) *Earl Chapin May, op.cit.*, pp.94-95.
- 37) Paul Gallico, *op.cit.* p.42.
- 38) *Ibid.*, p.275.
- 39) *Ibid.*, pp.275-276.
- 40) *Ibid.*, p.278.
- 41) *Ibid.*, pp.279-280.
- 42) *Ibid.*, p.281.
- 43) *Ibid.*, p.283.
- 44) *Ibid.*, p.284.
- 45) *Ibid.*, p.287.
- 46) *Ibid.*, pp.284-285.
- 47) *Ibid.*, p.286.
- 48) *Ibid.*, p.289.
- 49) *Ibid.*, p.290.
- 50) *Ibid.*, p.295.
- 51) *Ibid.*, p.296.
- 52) *Ibid.*, p.297.
- 53) *Ibid.*, p.297.
- 54) *Ibid.*, p.299.
- 55) *Ibid.*, p.300.
- 56) *Ibid.*, p.300.

- 57) *Ibid.*, p.301.
 58) *Ibid.*, p.304.
 59) Paul Gallico, *The Day Jean-Pierre Joined the Circus*, pp.41-47.
 60) Gallico が、この作品におけるクライマックスとなる都市の一つとして Sheffield を選んだのは、Sheffield がイギリスのサーカスの中心地としての長い伝統を持ち、サーカスが、この都市の文化構築において重要な役割を果たし続けてきたからであろう。2012年現在、Sheffield をサーカス・シティとして繁栄させようという活動が盛んである (<http://www.greentop.org/sheffield-circus-city.html>)。点を見ても、*Love, Let Me Not Hunger* の中で、祖国を離れてスペインの農園にいる Albert 老人にとって最大のクリスマス・プレゼントとなったサーカスの実況放送が Sheffield の競技場からのものであったことの深い意義が窺われる。
 61) Paul Gallico, *Love, Let Me Not Hunger*, p.305.
 62) http://www.circopedia.org/index.php/Circus_Knie.
 63) Paul Gallico, *op.cit.*, p.306.
 64) *Ibid.*, p.308.
 65) *Ibid.*, p.308.
 66) *Ibid.*, pp.308-309.
 67) *Ibid.*, p.309.
 68) *Ibid.*, p.310.
 69) *Ibid.*, p.312.
 70) *Ibid.*, p.313.

結び

Love, Let Me Not Hunger は、1962年の夏、スペインの La Mancha 高原で興行中のイギリスのサーカスが落雷でテントを全焼する災害に遭遇し、飢えた沢山の動物たちの生命を救うために苦悩し、文字通り我が身を捧げたサーカスの人々を描いた小説である。

Paul Gallico がこの作品を創造した意図は、題名に明示されている通り「愛する者よ、私を飢えさせないで下さい。」というメッセージを読者に伝えることであり、これは、言うまでもなくサーカスが遭遇した突然の災厄のために餓死に瀕した動物たちの悲痛な叫びそのものである。そして動物たちを生活のための実的手段として解釈している側面があったとしても、Zalano に留まったサーカスの人々は動物たちに深い親愛の情を寄せており、「四つ足の友」の

悲惨な境遇を我が身に置き換えて考えたために、飢えた動物たちの苦悩は我が身の苦悩そのものとなる。更に、この作品の中で最も感銘深い箇所の一つは、誰からも愛されぬ孤独な生活を送ってきた娘 Rose から「どうすれば、あなたと同じように、私も野生動物たちから愛されるようになるの?」と尋ねられたときに「あなたの持っている全てのものを捧げて愛すれば、彼らに愛されるようになる。」と猛獣係の老人 Mr.Albert が答える場面であろう。従って、Gallico が定義している“hunger”（「飢え」）とは、食物が得られないために感じる激しい空腹だけではなく、愛情を得られないために感じる耐えがたい精神的苦痛を意味していることは言うまでもない。

この作品に登場する多くの人々が「愛」への飢えに苦悶する人々として描かれているが、70歳近くなるまで徒勞と挫折の人生を過ごし続けてきた Albert 老人の場合も、貧困と悲惨に耐えながら20年余りの人生を送ってきた Rose の場合も、彼らに心を開き、暖かい愛情で彼らを受け入れ、彼らの人生に新しい意義を与えてくれた最初の友は人間ではなく、サーカスの動物たちであった。自然界にいれば絶えず死や病気の恐怖に晒され、寿命を全うすることなど奇跡に近い境遇に置かれている野生の動物たちが、幸いにして人間の優しさと誠実さに接することができた場合、彼らは愛情と友情をこめて人間を受け入れ、そこに「種」を越えた真のコミュニケーションが成立する。「人間」と「動物」という「種」の壁を乗り越えて、愛するものたちの命を救うために文字通り自らの全てを捧げた Rose と Albert 老人の生き方は凄絶なものであるが、キリスト教国の人々よりも、輪廻転生の教えを自然に受け入れている我々日本人の方が、彼ら2人の精神的の高貴さを的確に理解できるように感じられる。Paul Gallico の文学作品が日本人から広く支持される理由が、そこにあるのかも知れない。いずれにせよ、サーカスとは、人種、年齢、性別、のみならず「種」の障壁を超越して、サーカス・アーティストたちが創造する究極の大衆芸術であり、本稿のまえがきで述べた通り、動物たちはサーカス芸術の支柱を成すと強調した Monaco 公国の Princesse Stéphanie の言葉を念頭に置いて、Gallico のこの作品を熟読する必要があるだろう。世界最高の調教師であった

Gunther Gebel-Williams—彼は両親から見捨てられ、家庭の暖かさを知らぬ不幸な少年時代を送ったが、サーカスの動物たちを兄弟かつ友として育った人である—は、それぞれの動物たちの中に人格を認め、彼らを愛し、彼らに敬意を払い、彼らを理解するために全力を尽くす¹⁾ ことによって、人間と野生動物たちが一体となった驚異的な美しい演技をサーカスのリングで披露し、生前に既に伝説的なアーティストとして絶賛されていたというエンターテインメント産業界で数少ない人物である。彼は「人間」と「野獣」を対立させるという時代遅れの概念を排除し、人間と動物が和合しつつ共に働き、生き、栄えることは可能であり、互いに尊敬し合うべきであるとする主張を身をもって実践したことで名高い²⁾ が、我々は、彼のこの理念が *Love, Let Me Not Hunger* で最も重要な2人の登場人物—Albert 老人と Rose の考え方を発展させた所に位置すると見なすことができる。

この小説に登場する Marvel Circus の経営者 Sam Marvel は、冷笑的な人生観の持ち主ではあるが、決して極悪非道な人間ではない。しかし、彼にはエンターテインメント企業家に必須の先見の明、すなわち、20世紀後半においては最先端の文明の利器であったテレビというメディアをサーカスの不倶戴天の敵と見なすのではなく、自分のショーを不特定多数の視聴者の家庭に紹介するための活用手段とみなすだけの洞察力を備えておらず、その上、彼と同等もしくは小規模のサーカス経営者 Joe Peabody のようにラジオというメディアを利用して、公演の実況放送が BBC を通じて国内外に流されるように配慮するだけのショーマン感覚にも欠けていた。そして、Marvel はテレビが殆ど普及していないスペインで興行するにあたり、実際に公演する時期となる現地の夏の気候についての調査を怠っていた。常に彼の頭を占めているのは目先の利益であり、経営の合理化の名のもとに未熟練の現地労働者を低賃金で雇い、結局、落雷で死亡したのは、そうしたスペイン人労働者の一人であった。更に、所詮、Sam Marvel はサーカスというライブ・エンターテインメントへの心からの愛着を持っておらず、ショーの支柱を成す演技者や動物たちの心身の健康について真剣に考慮することを怠り、ひとたび保険金を手に入れると、ス페이

ンに残された人々や動物を救出に行くことなどせず、サーカスからは完全に撤退し、天候にもテレビにも影響を受けない娯楽と彼が考えるボーリングの経営を始めるための行動を起こしている。彼のサーカスを買収した Joe Peabody は、自分の動物や雇人を飢えさせるよりは自分自身が乞食になる方がましだと考えている人道主義的な興行主であるので、サーカス・エンターテインメントを担う事業家として遥かに優れている、と作者 Gallico が訴えていることは明らかである。

この作品の中で Rose が払った自己犠牲は余りにも痛ましいものであるが、彼女は、最終的に彼女の精神の高貴さと優しさを理解することができた青年 Toby と深い愛の絆によって結ばれ、彼女への真実の愛によって人間として著しい成長を遂げた Toby が彼女に支えられながらヨーロッパ最高のサーカスの一つとされるスイスの Circus Knie で騎馬道化師として活躍するであろうという明るい将来が示されている。

愛する動物たちを餓死から救う資金を得るための交換条件としてスペインの女侯爵に仕えることとなった猛獣の世話係の老人 Mr. Albert は、最初のうちは自分を天才的道化師と誤解して屈辱的な演技を要求する彼女を怪物のような女独裁者として恐れるが、実は彼女が余りにも醜悪な外観のために幼い頃から愛に飢えた生涯を送り続けてきたのだという悲劇に同情し、彼女の孤独な 60 年の生涯の中でその心に喜びを与えることができた唯一の人間が自分であったことを知って、彼の心の故郷であるサーカスという生活共同体に戻らず、病死した彼女の魂を慰めるために、異郷の地に留まることを決断する。Albert 老人を殉教者とみなすこともできるが、既に 70 歳を越えている彼がイギリスに帰国したとしても、ごく僅かな期間しかサーカスの労働に携われず、身寄りも蓄えもない彼が安定した晩年生活を送れたとは考えられないので、スペインの大農場で女侯爵の小さな私設動物園の動物たちや道化師 Janos の遺した犬たちの世話をしながら日々を送る方が遥かに静穏な余生であると考えられるであろう。従って、失敗の連続であった Albert 老人の運命に対して神は決して無情ではなく、彼の人生が晩年に近づいたときに、彼を熱愛してくれるサーカスの

動物たち、彼自身の反映とも言えるほどよく似た境涯の心優しい Rose、そして人々から畏れられながらも誰からも愛されずに生きる宿命を背負われた不幸な女侯爵と出逢わせ、彼が彼らに捧げた献身的な愛情こそが、彼の人生を極めて有意義なものたさせたと解釈できる。

最後に、サーカスの道化師の極めて重要な文化的意義について、Gallicoがこの作品の中で述べている点にも注目したい。彼は、道化師が愚者を装いながら実は叡智に富んだ賢者にも変身しうる存在であり、滑稽な動作を行なうことによって観客に「笑い」という自然な感情表現を行なわせ、観客を心から楽しませることができる道化師こそ最高の大衆芸術家と呼ぶに値すると主張するために、Jackdaw Willams, Toby Walters, Mr.Albert の3人の道化を登場させたのであろう。

Paul Gallico の最高傑作である *Love, Let Me Not Hunger* は、サーカスというライヴ・エンターテインメントの外見上の華麗さを主題としたものではなく、サーカスという共同体を構成する人間と動物たちの愛と苦悩を描いた作品であるがゆえに、この大衆芸術の底知れぬ奥深さを読者に伝えていることを強調したい。

なお、本稿においては、サーカスの動物たちに献身的な愛情を捧げた人々に焦点を当てて論じたが、まず、何よりも、サーカス芸術についての我が国の一般の人々の意識が高まることを切望するとともに、「サーカス」が人種・年齢・性別・言語の壁を乗り越えて、全ての観客に真に幸福な夢と感動を与える究極のライヴ・エンターテインメントであるということを私は強く主張したい。そして本稿で述べた通り、日本人サーカス・アーティストが本来いかに優れた技量を備え、幕末期から海外で活躍し、国際的な名声を博していたかについて、我が国の人々が殆ど注目していないことは誠に遺憾であると言わねばならない。サーカスの国際化とは、決して外国人アーティストを招聘することだけにはとどまらず、自国のサーカス・アーティストの養成と国際舞台での活躍を積極的に支援することであると、我が国のエンターテインメント業界の人々は心得るべきであろう。

サーカス界のアカデミー賞に相当する各賞が国際的アーティストたちに授与される世界で最も権威あるサーカス競技会が「モンテカルロ国際サーカス・フェスティバル」であると本文中で何度もふれたが、このサーカスの祭典に日本代表が出場したのは、1979年にキグレサーカスの中村初生・兵頭健の両氏³⁾、1984年に（アメリカのBig Apple Circusに在籍していた）Komazuru氏⁴⁾だけであった。その後2011年に、木下サーカス社長・木下唯志氏が、日本人として初めて、このフェスティバルの審査員の一人に選ばれた⁵⁾。そして、遂に本年（2012年）の「第36回モンテカルロ国際サーカス・フェスティバル」に28年ぶりに、日本代表Ty Tojo（東條泰良）氏が出演し、僅か13歳の若さで神業に近いジャグリングの演技を披露して、4000人の観客が立ち上がって万雷の拍手を贈り、Ty Tojo氏がCoupe en souvenir de la Princesse Antoinette, Trophée Louis Merlin, Prix Spécial du Studio Grimaïlo Moscouの3つの賞を獲得した⁶⁾ことは、日本のサーカス・アーティストがいかに優れているかを立証した何よりの証拠であろう。現代サーカスの将来を担うホープといわれるTy Tojo氏の父Dick Franco氏は1980年に開催された「第7回モンテカルロ国際サーカス・フェスティバル」でClown d'Argent（銀賞）を獲得した⁷⁾伝説的なジャグラーで、5年足らずのトレーニングで御子息を世界最高のサーカス・アーティストの一人に育て上げた業績は極めて大きい。Ty Tojo氏の演技は、ジャグリング界の王者Kris Kremó, Anthony Gatto両氏の演技のスタイルに、観客の自然な笑いを誘うクラウン（道化師）の要素を取り入れてエンターテインメント性を発展させた点と推察される点が画期的であり、本稿で力説した通り、サーカス芸術の真の主人公であるクラウンが、いかに人々の心に大きな感動を呼び起こすかを示すものである。

昨年発表した拙稿「Paul Gallico とサーカス・エンターテインメント—*The Day Jean-Pierre Joined the Circus*を中心として—」の中でも強調した通り、ライブ・エンターテインメントの神髄であるサーカスが、電子メディアの娯楽が氾濫している21世紀において、必ずや正当な評価を得て、繁栄を遂げるであろうと述べて、結びの言葉に代えたい。

本稿執筆にあたり、Ty Tojo 氏、Maki Tojo 氏、Dick Franco 氏、Jamie Clubb 氏、木下唯志氏、木暮淑和氏から大いに御協力いただいたことに深く感謝申しあげる。

【注】

- 1) Gunther Gebel-Williams with Toni Reinfeld, *Untamed : The Autobiography of the Circus's Great Animal Trainer* (New York : William Morrow and Company, 1991), pp.68-69. ; p.322..ff.
- 2) <http://www.ringling.com/ggw/career.htm>.
- 3) 三木のり平監修『キグレサーカス平塚特別公演企画書』（1984年、バックカヴァー）
- 4) Programme Officiel du 10e Festival International du Cirque de Monte-Carlo (P.M.I. Conseil Monaco, 1984) .
- 5) Programme Officiel du 35e Festival International du Cirque de Monte-Carlo(RAMEL Communication, 2011) .
- 6) <http://www.montecarlofestival.mc/palmarers/palmares-2012/>
- 7) <http://www.montecarlofestival.mc/palmares/palmares-1979-1983/>

Paul Gallico and the Circus Entertainment
— Special Reference to *Love, Let Me Not Hunger* —
by
Noriko Onoe

Love, Let Me Not Hunger was written by Paul Gallico (1897~1976) who had been fascinated with the circus entertainment throughout his life, and the major theme explored in this novel includes the circus people's burning love for their animals. Although he was an American, Gallico loved the Mediterranean littoral, and Gallico and Prince Rainier III of Monaco were very friendly with each other. As it is well known that Rainer III created the International Circus Festival of Monte-Carlo in 1974 to promote circus arts for which he had a lifelong passion, we can guess Gallico and Prince Rainier must have been bound together by their common affection for circus arts.

Since 2006, the International Circus Festival of Monte-Carlo has been presided by the daughter of late Prince Rainer III, Princess Stephanie of Monaco. And, embodying the vision of Prince Rainier and under the patronage of Princess Stephanie, the Federation Mondiale du Cirque was established in 2008 with the aim of bringing together the global circus community to preserve and promote circus arts and culture around the world. She considers the presentation of animals has always been an important part of the circus tradition, and she declares as follows :

“Animals in the circus are one of the pillars of traditional circus, or of any circus....For me, it's impossible to imagine the circus without elephants, horses, big cats or sea lion acts. It would be a musical hall act, a show, but it would be something entirely different. For me, the circus without animals is inconceivable. It is like imagining the circus tomorrow without clowns, without acrobats, without music, without spotlights. They (the animals) are full-fledged artists, and I think they should be considered as artists that are part of the show.”¹⁾

As stated above, Princess Stephanie regards animal acts as the essential elements of circus, and she emphasizes that the circus people should dedicate themselves to lifelong relationships with their animal partners. Her faith bears a striking resemblance to the belief of Paul Gallico who expressed his strong attachment to the circus entertainment in almost all of his literary works; in his novella *The Day Jean-Pierre Joined the Circus* (1969), we will recognize an old clown called Flippo as the most appealing character of this heartwarming story. By comparison to *The Day Jean-Pierre Joined the Circus, Love, Let Me Not Hunger* (1963) is extremely tragic although it must be Gallico's masterpiece.

Love, Let Me Not Hunger is a novel showing insight into the British circus entertainment in the 1960s and dealing with the lives of various members of a traveling circus, both human and animal. Sam Marvel, the proprietor of a small but very good traveling circus, becomes aware that the telly is cutting permanent inroads into attendance at circus performances. From the historical point of view, television has begun to affect the negative impact on live entertainments including circus since the end of 1950s. Consequently, Sam Marvel collects a troupe of superb performers, and announces them that his circus will go to Spain where there have been no television aerials as yet.

Next summer, while the circus is touring in the central Spanish plain of La Mancha, it is overtaken by a dreadful storm, and the big top is struck by lightning and completely destroyed by fire. Marvel leaves Spain for England in order to make settlement with his insurance company, and almost all of his workers decide to leave there with him.

Before his departure, Marvel asks four people to care for the remaining animals ; one of them is Mr. Albert, the old beastman ; one is Fred Deeter, the American ex-cowboy ; one is Janos, the Hungarian midget clown with dogs ; and one is Toby Walters, the young auguste rider. In addition to them, Rose, one of the principal characters of this novel, makes her way back to the circus. Picked up off the streets by Jackdaw Williams, the middle-aged clown, Rose keeps house for him, but she makes up her mind to part from him, because she has fallen desperately in love with Toby, and she is an ardent lover of animals.

Time goes by, but Marvel's insurance claim remains unsettled. As a result, the animals and five people who are abandoned in a drought in the plain of La Mancha, face the crisis of famine. The circus people cannot endure the agony of watching their animals starving. Driven into desperation, Janos murders a horse to give the meat to his dogs. Terribly shocked at this incident, Fred

Deeter, the horseman, deserts the encampment, and never returns. When the hunger is at its worst, Rose secretly goes to a roadhouse and prostitutes herself to get money to feed the animals. Strongly impressed by her self-sacrificing deed, Mr. Albert summons up his courage to ask the horrible Marquesa de Pozoblanco to rescue the animals in a miserable plight. As this tyrant queen mistakes Mr. Albert for a great clown, she promises him to help the circus animals on condition that he serves her until she releases him. At her request, the dwarf clown Janos agrees to serve her, too, since he wants his dogs to be properly fed, but, he dies suddenly in her farm. Unfortunately, Toby happens to know what Rose is doing in the roadhouse, and he turns her out in a rage. Yet eventually he can appreciate her passionate love for the circus animals including his favorite elephant Judy who tried to kill her. He admires and loves Rose from the bottom of his heart.

On the other hand, when Sam Marvel gets the insurance cheque, he sells the assets he still possesses to another circus proprietor who wants to present a bigger show, and he buys himself a bowling alley.

On the Christmas day, the Marquesa dies of cancer. Now, nobody can keep Mr. Albert from returning to England, but he decides to remain there for the great compassion on this lonely woman who pleaded him not to leave her on her deathbed.

In this novel, we can find five human beings struggling to keep the circus animals and their own hopes alive. Gallico emphasizes that all the deserted members of this little circus, both human and animal, are suffering from hunger not only for food but for love. Accordingly, he suggests we cannot stand the pang of another kind of hunger — love. And it is quite obvious that the grotesque Marquesa has also been starved for affection although she is immensely rich.

We must be moved deeply by the description that the leading characters,

Rose and Mr. Albert devote themselves to save the helpless animals because the circus animals have accepted both of them as close friends, and for the first time, these four-footed friends have given the significance to their lonely lives. It is necessary for us to remember Princess Stephanie's words, "Animals in the circus are one of the pillars of circus....They are full-fledged artists, and I think they should be considered as artists that are part of the show." And her words will remind us of the achievements of great animal trainer Gunther Gebel-Williams, who demonstrated to all the audience that humans and animals could work, live, and thrive together in harmony and should respect one another, thus forever banishing the outdated notion of "man versus beast."²⁾

Love, Let Me Not Hunger is a compelling novel because Gallico does not intend to show the gorgeous appearance of circus, but he effectively depicts the circus people who long to save their animals from starvation. Through this novel, we must be able to understand the profound role of a true new circus in which human beings and our four-legged friends can cooperate to display the marvelous acts.

And, as I stated in my preceding article, the circus is the outstanding live entertainment that can touch something central in its audience without race, age, sex and language barrier. It is quite right that Princess Stephanie from Monaco indicates that the circus is an art and part of world cultural heritage. This year, the 36th International Circus Festival of Monte-Carlo was held from January 19-29, and around 200 performers from 22 countries participated in this festival. It must be very proud for the Japanese people that a 13-year-old juggler Ty Tojo represented Japan at this most prestigious circus festival in the world ; this juggling prodigy received a standing ovation from 4,000 people under the big top of Fontvieille, and he won three prizes³⁾ . He is regarded as one of the greatest hopes of the contemporary circus.

Consequently, we can have a strong belief that the circus entertainment has a bright and great future.

【注】

- 1) <http://www.montecarlofestival.mc/s-a-s-la-princesse-stephanie/>
 - 2) <http://www.ringling.com/ggw/career.htm>.
 - 3) <http://www.montecarlofestival.mc/palmarers/palmares-2012/>
-
-